

番号	器種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺存 状態	石 材	特徴・備考
215	U鉢	集石 覆土	2.7	1.7	0.4	1.53	完存	サヌカイト	平基盤。
216	石鉢	集石 覆土	2.5	1.4	0.3	1.35	完存	サヌカイト	円基盤。
217	石鉢	集石 覆土	(2.4)	1.3	0.5	(1.62)	欠端欠損	サヌカイト	円基盤。
218	U鉢	集石 覆土	(1.8)	1.2	(0.3)	(0.97)	外縁欠損	サヌカイト	平基盤。
219	石鉢	集石 覆土	2.8	1.1	0.3	6.72	完存	サヌカイト	凸基盤。
220	スクレイバー	集石 覆土	2.3	4.3	0.9	9.15	完存(?)	サヌカイト	下辺に両極打抜による刃部形成。
221	スクレイバー (?)	覆土	1.9	4.3	0.7	4.50	完存(?)	サヌカイト	上辺は断面直。 左、右辺、下辺も両極打抜による刃部形成。
222	スクレイバー	集石 覆土	5.9	3.8	0.6	15.5	完存(?)	サヌカイト	下辺に両面削截による刃部形成。
223	打製石庖丁	覆土	12.2	4.1	1.2	60.1	完存	結晶片岩 (石英片岩)	片面自然面。裏面より剥離したものの両端に抉りを入れ、刃部は細かい斜壁をうえずに鋭い辺縁を利用。
224	打製石庖丁	集石 覆土	8.4	3.1	0.7	30.0	完存	結晶片岩 (石英片岩)	両端抉りあり。
225	打製石庖丁	集石 覆土	(5.4)	(4.6)	(1.1)	(48.0)	欠損	結晶片岩 (石英片岩)	抉りなし。
226	打製石庖丁	集石 覆土	(4.4)	(2.4)	(0.4)	(8.0)	欠損	結晶片岩 (石英片岩)	両端抉りあり。
227	打製石庖丁	集石 覆土	(6.4)	(5.1)	(0.7)	(40.0)	欠損	結晶片岩 (石英片岩)	
228	石鍬	集石 覆土	(11.4)	3.2	1.0	(53.0)	欠端欠損	結晶片岩 (石英片岩)	基底上下辺に抉りあり。
229	扁平片刃石斧	集石 覆土	6.3	3.7	1.0	51.0	完存	結晶片岩 (緑色片岩)	ほぼ全面研磨。
230	甲石	集石 覆土	9.8	6.9	2.2	262	完存	カリク岩	小判形の自然石、片面に筋状の取打痕、下端にも取打痕。
231	毛石	集石 覆土	(8.1)	(5.9)	(4.1)	(241)	欠損	砂岩	棱角。 一面に鋭い凹面。
232	毛石	集石 覆土	(9.5)	(9.0)	(7.2)	(700)	欠損	砂岩	自然面に弱い砥面。
233	毛石	覆土	18.1	14.1	6.0	216	欠損	砂岩	被磨 自然面の一面を弱い砥面とする。

第17表 SB1011 出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法盤 (cm)	形態の特徴	技 法	胎土	色調	備考
234	骨生土器 盛A	覆土	口径15.2	立する瓶型からゆるやかに斜曲して外反する口縁部をもつ。	口縁部外側は、タテハケのちヨコナダ。	1~3mm (外)橙 (内)赤 大砂粒合		

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎土	色調	備考
				口縁部はわずかに厚さき、平面におさまる。 口縁部に、円孔を 2 孔。3 孔共互に有する。 唐成前穿孔で、内から外に貫通させている。	頭部外面はタテハケ。 焼成と一部の底に一部ヨコハケを保ねている。 口縁部内面はナゲ。 底部内面は、内上りハケ、ヨコハケの痕跡をのこすが生じナゲ。 内面に粘土結晶をのこす。	石英 チャート		
235	弥生土器 盤 A <sub>3</sub>	覆土	口径16.8	外縁気味の底部から、屈曲して外反する口縁部をもつ。 口縁部は平面におさまる。	頭部外側、タテハケのちナゲ。 内面は削ぎ落しがナゲと考えられる。	1~5 mm 大砂粒含 結晶片岩 石英	褐	
236	弥生土器 盤	P-7 覆土		体部から直立する頭部へのゆるやかな屈曲点にあたる。断面は十字形の駒付突唇が一条通らされる。	尖端周辺はヨコナゲ。 腹部に一部タテハケが観察できる。	1~5 mm (P-7) 大砂粒含 結晶片岩 チャート	(P-7) 外赤褐色	
237	弥生土器 盤 A <sub>3</sub> 口	覆土	口径16.6	内面気味にたちあがる体部から開口して大きく外反する口縁部をもつ。 口縁部はわずかに上方に傾斜、頭部を平坦におさめる。	内外面ともにナゲ。	1~5 mm 大砂粒含 石英	灰白	
238	弥生土器 盤 A <sub>3</sub> 口	覆土	口径27.5	内側する体部から強く屈曲して外反する口縁部をもつ。 口縁部は上方に膨張し、頭部に 2 条の凹線を施す。	口縁部を含む体部内面はナゲ。 口縁部外面、体部上端部はヨコナゲ。 体部にはタテハケの跡跡を残せる。	1 mm×2 cm 粒多発含 石英 角閃石	浅黄 (200)	塊入土器 (200)

第18表 SB1003 出土遺物觀察表

番号	器種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺存 状態	石材	特徴・備考
239	打撲石痕 I	覆土	(4.9)	(4.5)	(0.6)	(24)	欠刻	結晶片岩 (結晶片岩)	端部に抉りあり。

第19表 SA2001 出土遺物觀察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎土	色調	備考
240	弥生土器 盤 A <sub>3</sub> ホ	P-1 覆土	口径20.5	頭部から大きく外反する口縁部。 口縁部を下方に弧張し、(折りかえし?)断面をわずかに凹面に上げる。	内外面ともにナゲ。	1~5 mm 大砂粒含 石英 結晶片岩	褐	
241	弥生土器 盤 B	P-1 覆土	口径21.6	やや突き気味にたちあがる頭部からなるやかに外反する口縁部をもつ。 口縁部は平面におさまる。	内外面ともにナゲ。	1~5 mm 大砂粒含 石英 結晶片岩	褐	
242	弥生土器 盤 A <sub>3</sub>	P-1 覆土	口径10.8	直立する頭部からゆるやかに外反する口縁部をもつ。 口縁部は半径におさまる。竹管文を施す。なお墨化不能であつたが、体部上半にも竹管文の施された部分がある。	口縁部内外面ともヨコナゲ。 底部外面はタテハケ、内面はナゲ。	1~4 mm 大砂粒含 石英	灰白	

番号	器種	地点層位	法量(cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
243	陶生土器 壺	P-1 覆土	底径13.2	底面はわずかに上げ底を呈す。体部は直筒い底部から、直線的に外方にたちあがる。	体部外面クサハケ仕上げの部分と、ナデ仕上げの部分がある。 底面および内面はナデ。	1~5mm (内) 大砂粒含 石英 砂利等	(内)黄 (外)灰白	
244	陶生土器 壺	P-1 覆土	底径16.8	底面は平底を呈す。部厚い底部。	底面、外側ナデ。 内面ユビオサエ、ナデ。	1~10mm 大砂粒含 結晶片岩 石英	青	
245	陶生土器 壺(?)	P-1 覆土	底径8.4	底面は上げ底を呈す。体部は内輪して外方にたちあがる。	体部外面は倒錐のため不明。 体部内面も倒錐のため、上部腰部は不分明であるが、ユビオサエ痕を残す。	1~4mm 大砂粒含 石英 結晶片岩	淡綠	
246	陶生土器 壺	P-1 覆土	底径6.0	底面はわずかに上げ底を呈す。体部は内輪気味に外方にたちあがる。	底面および体部外面は皮状工具によるナデ。 内面は体部底径付近。 底面にユビオサエ痕とのこすが外輪と同じ腰部によるナデ。	1~2mm 大砂粒含 結晶片岩 石英	赤	
247	陶生土器 壺	P-1 覆土	底径8.2	部厚い底は平底の底部から、内輪してたちあがる形態に近い体部。	底面内面にユビオサエ痕 が確認できる他は、内外面ともナデ。	1~5mm 大砂粒含 結晶片岩 石英	青	
248	陶生土器 壺	P-1 覆土	底径5.7	底面はわずかに上げ底を呈す。体部はわずかに内輪気味に外方にたちあがる。 腰部端に、対面して2孔ずつ斜めに穿孔(穿成孔)を有する。	内外面とともにナデ。	1~4mm 大砂粒含 石英 結晶片岩	淡黃綠	
249	陶生土器 壺	P-1 覆土	底径7.7	底面はわずかに上げ底を呈す。体部は内輪して外方にたちあがる。 腰部端に、対面して2孔ずつ斜めに穿孔(穿成孔)を有する。	内外面ともにナデ。	1~6mm 大砂粒含 結晶片岩 石英	(内)淡灰黃 (外)青	
250	陶生土器 壺B.イ	P-1 覆土	底径13.0	わずかに内傾する体部から筋曲して内輪する口部をもつ。 口縁端部は平底におきめる。	内外面とも倒錐激しく不明。	1~4mm 大砂粒多 く含 結晶片岩 石英	(内)青 (外)青	251と同 個体
251	陶生土器 壺	P-1 覆土	底径6.0	底面は平底を呈す。 体部は直筒的に外方にたちあがる。	内外面とも倒錐のため不明。	1~6mm 大砂粒含 結晶片岩 石英	青	250と同 個体
252	陶生土器 壺A.ニ	P-1 覆土	口径18.1	内輪気味にたちあがる体部から「ノ」の字状に筋曲して外輪する口部をもつ。 口縁端部はやや丸くおきめる。	口縁~体部外面はナデ。 内面は倒錐のため不明。	1~5mm 大砂粒含 結晶片岩 石英	青	P-4に 同個体と 思われる 一基あり
253	陶生土器 壺(?)	P-1 覆土	底径7.9	底面は高台状の上げ底を呈す。 体部はわずかに内輪して、大きく外方にたちあがる。	体部外面はヨコ方向ナデ。 ていねいに仕上げられ、一部ミガキのように磨擦できる。 底面はケズリ。内面は底面にユビオサエ痕のこすが、主にヨコ方向ナデ。	1~4mm 大砂粒含 石英 結晶片岩	(内)淡青 (外) にびい青	
254	陶生土器 壺	P-1 覆土	径20.3 厚1.2 孔径0.4	円盤状を呈し、対面に2孔ずつ穿孔(穿成孔)が開かれているものと 考えられる。	表裏面ともナデ。	1~4mm 大砂粒含 結晶片岩 石英	(表)淡青 (裏) にびい青	

番号	器種	地點 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
255	弥生土器 型A <sub>1</sub>	P-2 覆土	口径12.1	内側する体部から、やるやかに屈曲して外反する口縁部をもつ。 口縁端部は内側しているが丸みを帯びた形状となっている。	口縁部～体部外側はナダ。 内面は、体部上端部にユビオサエ痕多数残るが、他はナダ。	1～3mm (内) 黒褐色 大砂粒含 結晶片岩 石英		
256	弥生土器 型B <sub>1ae</sub>	P-2 覆土	口径25.7	外側してたちあがる頭部からゆるやかに外反する口縁部をもつ。 口縁端部は平弧におきめ。端面から口縁部外側にかけて眉目を施す。頭部下端にも、眉目状痕文を施す。	口縁部外側ヨコナダ。 頭部外側はナダ。 内面は剥離剥落しがちナダによるものと考えられる。	1～6mm 淡黄褐色 大砂粒含 結晶片岩 石英		
257	弥生土器 型(?)	P-2 覆土	底径8.1	底面は高台状の上げ底を呈す。 外側は内側気味に大きく外方にたちあがる。	底面はナダ。体部外側は剥離剥落しがち一部にクタヘラミガキの痕跡を有す。 体部内面は、底部にユビオサエ痕をのこすが、他は剥離のため不明。	1～3mm (内) 大砂粒含 結晶片岩 石英		
258	弥生土器 型A <sub>1</sub> ia	P-2 覆土	口径20.6	内側する体部から「く」の字状に屈曲して、外反する口縁部をもつ。 口縁端部は平弧におきめ、眉目を施す。	外側はナダ。 内面は剥離のため不明。	1～4mm 大砂粒多 く含 結晶片岩	褐	
259	弥生土器 型	P-3 覆土		体部から屈曲してやや開き気味の頭部をもつ。	内外面とも剥離剥落し不明。	1～4mm 大砂粒含 結晶片岩 石英	明黄褐色	
260	弥生土器 型C <sub>1</sub>	P-4 覆土	口径18.0	内側してたちあがる体部からゆるやかに屈曲して直立する細い頭部。 その頭部から、ゆるやかに外反する口縁部をもつ。	II部は内外側とともにヨコナダ。頭部下端は板状工具による横方向削除。 体部外側、頭部内面はナダ。	1～4mm 大砂粒含 結晶片岩 石英	褐	
261	弥生土器 型D <sub>1</sub>	P-4 覆土	口径13.0	直立する頭部からわざわざに外反する口縁部をもつ。 II部端部の上端部は平弧におきめる。	口縁部内外側ヨコナダ。 頭部外側タテハケ、内面はナダ。	1～2mm 大砂粒含 結晶片岩 石英	褐	
262	弥生土器 型	P-4 覆土		内側する体部からゆるやかに屈曲して、やや弱め50度に立ち張型につながる。 頭部からさらにゆるく屈曲して外反する口縁部につながると考えられる。	内外側ともに剥離のため不明。体部上半は剥離した半内面に剥離なユビオサエ痕をのこす。	1～4mm 大砂粒含 結晶片岩 石英	に近い褐	2次焼成で変形・変質か。
263	弥生土器 型	P-4 覆土	口径(3.4)	内側気味の底部の押部から小さくくびれて外反する口縁部をもつ。	内外側とも剥離。	1～3mm 大砂粒含 結晶片岩 石英	灰	2次焼成で変形変質か?
264	弥生土器 型	P-4 覆土	底径19.4 体部最大径 25.7	底面はわざわざに上げ底を呈す。 体部は直線的に外方にたちあがり、最大径付近で内湾する。	体部外側上半は剥離のため不明。体部下半はクタヘラミガキ、底面はナダ。 体部内面はナダ。 底面にユビオサエ痕が明瞭にのこる。	1～4mm (内) 黑褐色 大砂粒含 結晶片岩 石英	に近い褐	
265	弥生土器 型A <sub>1</sub> ii	P-4 覆土	口径18.1	内側気味にたちあがる体部から「く」の字状に屈曲して、外反する口縁部をもつ。 口縁端部は丸くおきめる。	II部～体部の内外側ともナダ。	1～4mm 大砂粒含 結晶片岩 石英	明褐色	

番号	器種	地點 位置	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
266	有生土器 型B, イ	P-4 覆土	口径24.4	内側気泡にちあがる部体から 剥離して外反する短い口縁部を もつ。 口縁端部は平底におさめ、周囲 を施す。	口縁部および体部外面上 部はヨコナガ。 体部外面はタケハケのち ナゲ。 内面は剥離のため不明。	1~3mm 大砂粒含 石英 結晶片岩	青	
267	有生土器 型C,	P- 1, 2, 4 覆土	口径16.5	内側する体部からゆるやかに (内面では擦りもつて)剥離し、 短い部端は外反して口縁部につ ながる。 口縁端部は平底におさめる。	口縁部は内外面ともヨコ ナガ。頭部外面はタケハ ケの部分と、ナゲによる 部分がある。 底部内面、体部外面は ナゲ。	0.5~3 mm大砂粒 含 結晶片岩	青	P-1, 2, 4 複合
268	有生土器 型A, イ	P- 2, 3, 4	口径21.4	底部から大きく外反する口縁部。 口縁端部を下方に嵌入し(折り かえし)。周囲は周面を施す。	内外面ともナゲ。	1~3mm 大砂粒含 結晶片岩 石英	(内) に青い黄潤 物質(様子?)を 含む P-1, 2, 4 複合	胎土に相 物質(様 子?)を 含む P-1, 2, 4 複合
269	有生土器 型	P-2, 4 覆土		内側してちあがる体部。 底部より連続して、側面直腹 部、波状文5条、円弧文を施す。 内面はナゲ。	外側ナゲ。 内面ユビオサエ	2~5mm 大砂粒含 石英 結晶片岩	黄褐色	P-2, 4 複合

番号	器種	地點 位置	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺存 状態	石 材	特徴・備考
270	小範方柱状片岩 石斧	P-4 覆土	6.4	1.1	1.4	(30.0)	一部欠損 結晶片岩 (褐色片岩)		

第20表 SK1008 出土遺物観察表 (SK1008は造営廻時に4分割 北西A、北東B、南西C、南東Dとする。数字は、取り上げ番号)

番号	器種	地點 位置	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
271	有生土器 型A,	B-6-10 覆土上面	口径11.2 底径5.8 体部最大径 18.5 高さ29.7	底面はわずかに上げ底を呈す。 体部は、内側してちあがり、 底面横円形を呈すが凹みがある。 石縫で固定する部端から、 さらに剥離して外反する短い口 縁部をもつ。 口縁端部はまるくあいまいにお さめる。	口縁部内外面ともヨコナ ガ。 周面は外側タケヘラミガ キ。 内面タケヘラミガキ。 体部は外底、中・上位は タケハゲ。 下位はナゲとおもわれる が一層タケハゲ、タケヘ ラミガキで構成できる。 内面は、ユビオサエが上 位・最大径附近、底面に 目立ち、あとは強いユビ ナゲによる。 外、底面はナゲ。	1~5mm (内)黒 (外)明赤褐色 大砂粒含 石英 結晶片岩		
272	有生土器 型A,	B-13 底面	口径11.8 底径7.8 体部最大径 22.0 高さ35.1	底面はわずかに上げ底を呈す。 体部は、内側してちあがり、 底面横円形を呈す。口縁部は底面から底面 して外反し、ラッパ形に開く。 口縁端部はわずかに肥厚し、半 球におさめる。	口縁部外側ヨコナガ。 底面内外面ともタケヘラ ミガキ。 体部外側は底面は、ヨコ 方向を中心とする板ナ ゲ。中・下半はタケヘラ ミガキ。 内面上面はユビオサエ。 中位は板ナゲ。下半は板 ナゲおよび強いユビナ ゲ。	1~5mm 大砂粒含 石英 結晶片岩	に青い赤褐色	

番号	卵種	地点 居位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎上	色調	備考
				デ。内表面はスピ。あるいは板のオサエのためにかなり荒れている。				
273	寄生土器 虫A,a	覆土	口径14.8	内壁してたらあがる体部から、ゆるやかに開曲してほぼ直立する腹部。 口縫部は、ゆるやかに屈曲して外反する。 口縫部は平坦におさめる。	口縫部は内外面とともにヨコナデ。 腹部内外とも剥離のため不明。 体部各部はナデ。 内面は、体部中位に多数のエビオサエ。上位はスピナデ。	1~5mm 大砂粒青 石英 結晶片岩	明黄褐	
274	寄生土器 虫A,a	B・D 8 覆土	口径14.9	半球形に内窓してたらあがる体部上半。腹部は屈曲して直立し、口縫部はゆるやかに大きく外反する。  口縫部は、平坦におさめ、丸目を残す。	口縫部・腹部は内外面ヨコナデ。体部外側ナデ。内面はエビオサエ。ナデ。  内面は、外側はナデ。内面は上半部スピナデ。下半はナデ。也更もナデ。	1~2mm 大砂粒青 石英 黄石	(内)に近い 黄褐 (外)橙 和号(?) 前「く」 の字。	体部内部 ヘラ引き
275	寄生土器 虫A,a	A・D 13+ 8 覆土	口径14.2 直徑5.6 体部最大径 26.1 高さ31.6	表面は凹凸を呈す。 体部は内窓してたらあがり前面横円形になす。 腹部は屈曲して、開き口側にたらあがり、口縫部はゆるやかに外反し、ラッパ状を呈す。口縫部は平坦におさめ、輪状の閉目を残す。	口縫部外側ヨコナデ。内面は剥離のため不明。 腹部内外ともにナデ。 体部は、外側はナデ。内面は上半部スピナデ。下半はナデ。也更もナデ。	0.5~2 mm大砂粒 青 石英 結晶片岩	(内)黄褐 (外)橙	
276	寄生土器 虫A,adg	C-1 裏面	口径15.0 直徑7.7 体部最大径 23.3 高さ31.0	表面は平滑を呈す。 体部は内窓してたらあがり。中位の最大径のやや低く、腹輪矢に近い位置をなす。 腹部はゆるやかに開曲して直立し、それにつづく口縫部はゆるやかに大きく外反する。 口縫部はやや肥厚するが平坦におさめる。  口縫部はヘラによる丸目。腹部は半球形に内窓して直立。内面は上半部直立。下半部は内窓で直立。体部中位、剥離判定点を残す。	口縫部内外面ヨコナデ。頭部外側タテハケ。体部上半はタテハケ、中位はタテハラミガキ。下位はタテハラミガキ。腹部内面はナデ。体部内面中位はエビオサエ。中位はヨコハケ。下位はタテハケ。腹部はエビオサエ。	1~8mm 大砂粒青 石英 結晶片岩	赤	
277	寄生土器 虫F	C-15 覆土	口径13.0 直徑7.8 体部最大径 21.7 高さ33.1	表面は凹凸を呈す。 体部は内窓してたらあがり、中位があるが基本的には断面円形を呈す。 腹部は開曲して、やや内寄り、外反するが、口縫部は平坦におさめる。 腹部外側に断面三角形の突起を2条送る。	口縫部内外面ヨコナデ。体部外側にタテハラミガキが観察できるがあるとは剥離のため不明。 内面および底面はナデ。	0.5~4 mm大砂粒 青 石英 黑雲母 黄石	(内)黒 (外)褐	擦入土器 (誤性)
278	寄生土器 虫A	C-2 覆土	直徑5.0 体部最大径 13.9	底面はわずかに上げ立つ。 体部は、最大径部分が強く擴る。底面玉に近い形態。 腹部はやや開き気味にたらあがり、開曲して外反する口縫部につながら。	腹部外側はタテハラミガキのヨコカブ。 体部外側はタテハラミガキ。 腹部～体部上半内面は、斜り張り。体部中位はエビオサエ。下位はヨコ方向ケズリ。	1~3mm 大砂粒青 石英 結晶片岩	(内)褐灰 (外)に近い 橙	半分黒板
279	寄生土器 虫	覆土	直徑7.6	底面は、わずかに上げ立つ。 底面端はまるくおさめる。 体部は内壁気味に大きく外方にたらあがる。	体部外側はタテ方向ナデ。 内面は、ヨコ方向を中心とするスピナデ。	1~6mm 大砂粒青 石英 結晶片岩	赤	

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
280	陶土器 盆	B・6・ 8・11・ 12 覆土	底径6.3	底面はわずかに上げ底、底部端 は少しくびれる。 体部は内側して大きく外方にた ちあがる。	内外面ともにナデ。	1~9mm 大砂粒多 量含 石英 結晶片岩	青	
281	陶土器 碗(把手)	覆土	長12.4 高径3.4 底径2.8	断面、横円形の円柱状を呈す。 底の裏部端から、底辺上半に縱 方向についていたものと考えら れる。中空である。	體部は、タテハラミガ キ。 把手は、全面タケヘタミ ガキで、後背部は、ユビ ないし、ヘラ状工具で、 引きえる。	0.5~4 mm大砂粒 含 石英 結晶片岩	青	
282	陶土器 盤A <sub>1</sub> ニ	B・8 覆土	口径13.4	内側してたちあがる体部から 「く」の字状に畳目して外反す る窪い口縁部をもつ。 口縁端部は、やや強いヨコナデ により上方に配置する。 端部は、やや丸くおさめられて いる。	内外面ともに、剥離のた め剥落としてないが、ナ デによるものと思われ る。	1~3.5 mm大砂粒 多量含 石英 結晶片岩	(内)におい 性 (外)明暗 性	陶土器 (?) (腹板)
283	陶土器 盤A <sub>1</sub> ロ	B 覆土	口径17.3	内側してたちあがる体部から 「く」の字状に畳目して外反す る窪い口縁部をもつ。 口縁端部は、ユビオサエ模 式により上方に配置する。 端部は、やや丸くおさめられて いる。	口縫面内外面ともヨコナ デ。 体部外面は、上端部でタ テハラミガキのヨコナ デ。 以下タテヘラミガキ。 内面はナデ。	1~4mm 大砂粒含 石英 長石	灰褐 (?) (腹板)	陶土器 ?
284	陶土器 盤A <sub>1</sub> イ	A-13 覆土	口径20.8	内側する体部から「く」の字状 に大きく外反する口縁部をも つ。 口縁端部の形状は崩壊により、 不明瞭であるが他の標の形状か ら考えて、平底におさめるもの であろう。	口縫面および体部外面は 剥離のため不明。 体部内面はユビオサエ模 式のこし、ていねいにナ デを施す。	1~7mm 大砂粒多 量含 石英 結晶片岩	青	
285	陶土器 盤A <sub>1</sub> ニ	B・7 底面	口径17.8 高径5.6 (孔径1.2) 体部最大径 21.5 底高32.5	底面はわずかに、上げ度を呈し、 漸減的に穿孔。 体部は内側してたちあがり、最 大径は上位にあるイナジク形を 呈す。 口縁部は「く」の字状に強く畳 曲し、外反する。 端部は、やや丸くあいまいに2 きめる。	口縫面内外面ともヨコナ デ。 体部外側、上端はヨコナ デ。 上半はタテハゲ下半はタ テハラミガキ。 底部外側ユビオサエ、底 部ナデ。 体部内面下半はユビオサ エナデ。 局部的にタテハケの痕跡 有りす。 下半は、タテ方向を中心 とするナデ。	1~6mm 大砂粒含 石英 結晶片岩	明暗 性	陶土器
286	陶土器 盤A <sub>1</sub> ニ	B・7 底面	口径24.6 高径7.3 体部最大径 28.2 底高(38.7)	底面は平底を呈す。 体部は内側してたちあがり、最 大径は、やや上位にある。イナ ジク形を呈す。 口縫部は「く」の字状に強く畳 曲し、外反する。 口縁部は、平坦だが、あいまい に仕上げる。	口縫面内外面ともヨコナ デ。 体部外側上位はナデ、中 位はタテハラミガキ、下 半は剥離のため不明。内 面はナデによる。	1~4mm 大砂粒含 石英 チャート	青	
287	陶土器 盤A <sub>1</sub> イ	C 14~15 底面	口径22.1 高径8.2 体部最大径 27.5 底高37.9	底面はわずかに上げ底を呈す。 体部は内側して、たちあがり、 最大径は、やや上位にあるイナ ジクに近い形を呈す。 口縫部は「く」の字状に畳曲し、	口縫面内外面ヨコナデ。 体部外側上位はナデ、以 下タテハゲ。 底面ナデ。体部内面上半 は左上り、ナメナデ。	1~5mm 大砂粒含 石英 結晶片岩	青褐	

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎土	色調	備考
				外反するが、その角度はやや小ささい。 腹部は平底を基本とするが、ややあるいはある。	下半はタテ方向ナダ。 胴体は板状たなユビ。 内底面は、肥厚させ、ユビでていないにナダる。			
288	弥生土器 盤A・イ	B-8 底面	口径32.0	内側してたらあがる体部から、 「く」の字状に強く屈曲して、 外反する口縁部をもつ。口縁部 は、平底におさめる。	口縁部内外面は、ヨコナ ド。 体部外面は制限意識し が、内側はタテ方向のナ ダによる。	1~7mm 大砂粒多 石英 結晶片岩	(内)暗灰青 (外)灰	
289	弥生土器 盤A・ハ	B-5 底面	口径36.9 体高最大径 32.0	体部は内側してたらあがり、側 断形を呈す。 口縁部は「く」の字状に強く屈 曲して外反する。 体部上端はナダによるわずかな 段をもつ。 口縁部はやや肥厚し、平底にお さめる。	1縫部内外面ヨコナ ド。 側体部外面上位はナダ、中 下位は左に左上リナ メ方向のミガキ。 内底・上位は左ヒラナ メナハケ、下位はナダ。	1~4mm 大砂粒多 石英 結晶片岩	浅黄青 口縁一部 に保有青 斑塊あり。	
290	弥生土器 盤A	A-4 底面	口径26.0 底径8.8 基高15.6	腹面は内凹を呈す。 体部は内側して外方にたら あがり、半球形をなす。 口縁部はなるかに屈曲して外 反し、底部はまるくねじらせる。 口縁部は平底におさめる。	1縫部外側ヨコナ ド。 体部外側は、ヨコヘタリ ガキのち、左上リナメ ヘタリガキ。 体部内面および底面はナ ダ。	1~5mm 大砂粒多 金合 石英 結晶片岩	明黄青	
291	弥生土器 高脚A	B- 底面	口径24.1	脚台部から、内側して外方にたら あがる、平行形の外底。 口縁部は屈曲して外反する。 口縁部は平底におさめる。	口縁部内外面ともヨコ ナダ。 内底部外側ともナダ。 内底面は、内側を複板に よる。	1~7mm 大砂粒多 金合 石英 結晶片岩 石英	古椎 制限のた め調整不 可	

番号	器種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺存 状態	石 材	特徴・備考
292	石器	炭化物上	(6.7)	(4.0)	(2.0)	(59.49)	先端・高 脚部欠損	サスカイト	四極打法による成形。一部擦痕あり。
293	スクレーパー	C-1 覆土	6.4	3.4	1.3	23.27	完存	サスカイト	下辺に両極削壁により、刃部形成。
294	打製石器T	覆土	(9.8)	(3.7)	(0.6)	(31.90)	欠損	結晶片岩 (石英片岩)	両面に自然面のこす。脚部抉りあり。 内極打法による粗い成形、刃部形成。
295	打製石器丁	B-7	9.8	(2.8)	(0.6)	(36.82)	欠損	結晶片岩 (石英片岩)	
296	石器	D-4 覆土	7.8	2.9	0.6	12.90	完存	結晶片岩 (石英片岩)	下辺のみ両面削壁(?)による刃部形 成。

第21表 SK1014 出土遺物観察表(遺物剖面時に中央に柱をのこして撮影。北半をA、柱B、南半C、調査区間Dとする。)

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎七	色調	備考
297	弥生土器 盤A	A 覆土	口径10.4	半球状に内側してたらあがる体 部。脚部は屈曲して内側をしめる やかに屈曲して外反する口縁部 をもつ。 口縁部は、平底におさめる。	口縁部内外面ともヨコナ ド。 脚部・体部外表面はナダ。 脚部内面から、体部上半 は、絞り底のこす。体部 中位はユビカニユ。 内底接合部を内凹にのこ す。	1~2mm 大砂粒多 石英 結晶片岩	(内)褐色 (外)灰黄青	

番号	器種	地点 部位	沈量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
298	弥生土器 表A.	A 裏土	口部9.5 体部最大径 13.0	半球形に内側してたちあがる体部。底部は屈曲して、やや開き、輪郭にたちあがり押出して、外反するU字縫合をもつ。 口縫合部は、まるくおさめる。	口縫合内外側ともヨコナ ド。底部内側ナダ。体部 外面は丸上ナラナメヘラ ミダキを施すがケア優 勢。体部内面は、板状工 式によるナダ。	1~4mm 大砂粒含 石英 結晶片混	(内)明赤褐 (外)緑	
299	弥生土器 表A.	C 裏土	口部11.7 体部最大径 18.8	半球形に内側する体部上半。體 部はやや開き気味にたちあが り、ゆるやかに外反するU縫合 をもつ。 U縫合部は平根におさめる。	口縫合内外側ヨコナ ド。底部内側ナダ。内側は ユビナダ。 体部外側はタテヘラミガ キ。 体部最大径付近で上半の 体部と下半の体部が接す る。内面はユビオサエ。 強いユビナダが多数の こ。	1~7mm 大砂粒含 石英 結晶片混	緑	
300	弥生土器 表A.c	D 裏土	口部18.7	内寄する体部から、屈曲して直 立する腹部。 口縫合部はゆるやかに屈曲して大 きく外反する。 口縫合部は、やや丸味をおびた 平面面に仕上げる。 腹部部に新削三角形の斜窓文帯 を巡らす。	口縫合内外側ともヨコナ ド。 底部・体部外側ナダ。 底部内側はナダ。体部内 面は強いユビナダ。	1~4mm 大砂粒含 石英 結晶片混	にぼい黄緑	
301	弥生土器 表A.	A・B 裏土	口部11.0 底径6.2 体部最大径 18.5 器高(21.8)	底面は、平底を呈す。体部はわ ずかに内寄り特に外方にたちあ がり、最大径付近で大きく内寄 する。 体部から、ゆるやかに内寄して 立ち直る腰。 さらに内寄して外反する口縫合 部をもつ。口縫合部は平根におさ める。	全面に剥離が激しく野縫 不明であるが、口縫合 部はヨコナド。 底部内外側タテ方向ナ ダ。 体部上半は、一部タテハ ケ状の痕跡で復原可能で るが、不明。最大径付近も、 ヨコ方向に剥離されてい るようであるが、不明。 下半はまったく不明。内 面は、底面にユビオサエ。 あとにはナダによるものと 思われる。	1~5mm 人砂粒含 石英 結晶片混	(内)黄褐 (外)にぼ い緑	
302	弥生土器 表A.	A・B 裏土	口部14.6 底径7.0 体部最大径 19.1 器高30.4	底面は欠損のため不明。 体部は内側にたちあがり、圓錐 形を呈す。 底部は、ゆるやかに内寄して、 ほぼ直立し、ゆるやかに外反す る口縫合部をもつ。 U縫合部はまるくおさめる。	口縫合内外側ヨコナ ド。 頭部外側腰部のはっきり こころヨコナド。内面タ テ方向ナダ。体部外側上 半ヨコ方向ナダ。 下半タテクミガキ(?) 内面下部はユビオサエ。 中~下段はナダ。	1~3mm 大砂粒少 量含 石英	(内)深褐 (外)緑	
303	弥生土器 表A.g	A 裏土	口部15.3 底径6.6 体部最大径 26.5 器高28.3	底面はわずかに上げ底を呈す。 体部は内側にたちあがり筋隔 円錐形を呈す。 底部はあるやかに折出し外寄し てたちあがる。 口縫合部は腰部につづき、大きく 外反する。 口縫合部は平根におさめる。 体部・最大径よりやや上位に2 列の剥離跡を施す。	口縫合内外側ヨコナ ド。 特に口縫合内側に強いヨ コナド。 腹部外側タテハケだが、 下部はヨコナドで削え る。 内面タテ方向ナダ。体部 外側、上位はタテハケ。 中位はヨコヘラミガキ、 下位はタテヘラミガキの 部分とナダの部分とがあ る。 内面上部はユビオサエ。 ナダ。	0.5~2 mm大砂粒 含 石英 結晶片混	赤橙	

番号	器種	部位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
					中位は部分的に上ナリナメハケ、下位は、ダテ方向板ナヂ。			
304	弥生上器 表A.ad	C 表土	口径22.0	内寄する体部から、直曲してやや開き気味に直立する頭部につながる。 1)頭部はさらにゆるやかに屈曲し、外反する。塔部は、やや下方に低張でふくらみ頭部に付いた頭部には、右上とナメと下半に通な二段の肩目を同時に施す。 腹部下端には、うすい指圧圧痕文突帯をめぐらす。	口縁部内外面ヨコナヂ。 腹部・体部内外面ナヂ。	1~4mm 大砂粒合 石英 結晶片岩	青緑	
305	弥生土器 表A.ad	D 表土	口径20.7	内寄する体部から、弯曲して、大きく外反する1)頭部をもつ。 口縁部は肥厚し、端面を平坦にめぐらして、肩目を施す。 頭部には、うすい指圧圧痕文突帯をめぐらす。	口縁部内外面ヨコナヂ。 とくに上部に強いナヂが入る。 腹部・体部・内外面ともにナヂ。	1~4mm 大砂粒合 石英 結晶片岩	褐	
306	弥生上器 表A.ad	B 表土	口径18.1	内寄する頭部から、直曲して、開き50度に直立する頭部。 口縁部はさらにゆるやかに屈曲して大きく外反する。 口縁部ははざかに上に低張し、平底にせきめた頭部に、肩目に施す。頭部にはうすい粘付突帯をめぐらし、逆D字形に大きく割れ。	口縁内外面ともにヨコナヂ。 腹部・体部・内外面ともにナヂ。	1~3mm 大砂粒合 石英 結晶片岩	青	
307	弥生上器 表A.adg	C+D 表土	口径15.5 底径8.1 体部最大径 21.6 腹深29.6	底面は平面で出す。 体部は内寄してたちあがり、断面円形を呈す。 頭部は屈曲し、外壁にたちあがる。口縁部は頭部につづき大きく外反する。 口縁部はやや肥厚し、塔部は平坦にめぐらす。 腹部下端は逆D字の圧痕文を施す貼付突帯。最大径付近に2つ単位の側身内反文を施す。	1)縁部内外面ヨコナヂ。 頭部内外面タテハケ、内面タテ方向ナヂ。 体部外面上半はタテハケ、およびナヂ。 最大径の下位はヨコヘラタガキおよびナヂ。下位はタテヘラミガキ、内面、最高位、最大径付近、底面はユビオサノ麻、頭部であるがタテ方向板ナヂを生じる。 一部にタテハケの模跡あり。	1~3mm 大砂粒合 石英 結晶片岩	赤 大砂粒合 石英	
308	弥生土器 表A.ad	B 表土	口径22.6	やや開き気味に、たちあがる頭部からゆるやかに直曲して大きく外反する1)頭部をもつ。 1)頭部は肥厚させ、3条の凹線を施す。 口縁部上部では、2条単位の横筋による斜格子文がみられ、頭部下端は、圧痕文突帯をめぐらせる。	口縁部内外面ヨコナヂ。 頭部外面はタテ方向ナヂ。 内面は、中位にユビオサノ麻が並び、ヨコ方向ナヂで仕上げる。	1~3mm 大砂粒合 石英	灰白	
309	弥生土器 表A.adbdx	C+D 表土	口径21.9 底径9.2 体部最大径 29.8 復元高 (35.7)	底面は平底を出す。体部は、内寄気味にたちあがり最大径付近で、大きくなりてたちあがる頭部玉状を呈す。 頭部は屈曲して直立し、口縁部はゆるやかに屈曲して大きく外反する。	口縁部内外面ヨコナヂ。 頭部外面タテハケ、内面ヨコナヂ。体部上半外面タテハケ、内面ユビオサノ麻。一部にナメハケ。 最大径付近はヨコヘラタガキ、内面充上ナリ	1~3mm (内)黒 (外)淡黄 大砂粒合 石英 結晶片岩	(内)黒 (外)淡黄	

番号	型種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	枝法	胎土	色調	備考
				口縁部はやや肥厚し、ぼば半坦な場所には、2条の凹筋と刻筋、4筋を単位とする円形浮文を貼付ける。 口縁部下端には、2~3条単位の斜格子文が施される。 腹部下端には、うすいややボコ状の丸付突起に瓜形の刻目を施し、体部中央に前後列点文を施す。	ナメハケ、一部ナデ、底更はナデ。 丁半外面タテヘラミガキ、内面はナデおよび底の異なるタテハケ。			
310	発生土器 型A-at	覆土	口径14.2	内側にたちあがる半球形にちかく体部から、凹向して窪立する頬筋。 口縁部はさらにゆるやかに屈曲して外反する。端部はむずかに上方に歪めし端面を平坦におきめ、刻目を施す。 体部上半、側張度横文を水平に1条、側面に2条ずつ、3ヶ所(?)に施す。	口縁部内外面ヨコナデ。 頬筋内外面ナデ。 頬筋内外面ナデ。体部外側タテ方向板ナデ。内面はスピオサズ。	1~4 mm 大砂粒合	棕	ヘラ括き 記号文(?)
311	発生土器 型A-t	A+B 覆土	口径(12.0) 体部最大径 (17.0)	内側する球形にもいかない体部から、凹向して窪立する頬筋。 口縁部はさらにゆるやかに屈曲して大きく外反する。 体部上半に横筋によじ上から直線文、波状文、瓣状文、波状文、瓣状文が施される。	外面は刺繡激しいがナデによるものと思われる。 丁半腹内面はナデ。 体部内面にはスピオサズ 病多數のこす。	0.5~3 mm大砂粒 合 石英 結晶片岩	明褐	
312	発生土器 型A-bt	B 覆土	口径12.8 直径6.8 体部最大径 23.4 高さ35.4	表面は平野を呈す。 側部はやや突出してたらあがり、側筋形を呈す。面部は凹向して窪めだし、口縁部は大きく述べて、やや屈曲する。口縁部はややまるく見える。口縁部上面に刺繡直線文、横筋波状文をめぐらし、同じく波状文を2ヶ所。腹部内面に筋に施す。体部上半に、瓣の直線文2条波状文2条を施す。	口縁部内外面ヨコナデ。 側部外側面ナデ。内面タテナデ。 体部外側。上半はタテハケド半はタテヘラミガキ。 内面は上位、最大径附近、底面にスピオサズ病を多くのこす。生としてタナ方向のヨビナデ。 底面外側ヨコナデ。底面ナデ。	1~5 mm 大砂粒合 石英 結晶片岩	(内)暗赤 (外)明赤褐	
313	発生土器 型B-c	A+B 覆土	口径14.4	内側する体部から、ゆるやかに屈曲して、やや外反し、直輪的にのびる口縁部をつ。 L1縫隙部はむずかに肥厚させ、平坦におきめる。 底部には、断面三角形の貼付突起をめぐらす。	L1縫隙部内外面はナデ。 裏面もヨコナデ。体部外側には、一部ハケド病発 できるがととしてナデ。 底部から体部内面はスピオサズ、スピナゲ病を多 数のこす。 一部板ナデ状の模様もみ うけられる。	1~5 mm 大砂粒合 石英 結晶片岩	(内)暗赤 (外)棕	
314	発生土器 型A-i	覆土	口径14.6	体部から、ゆるやかに屈曲して、窪立する頬筋、さらにゆるやかに外反する細い口縁部をもつ。 口縁部は平坦におきめる。 刻目を施しているように見える部分もあるが確認できない。	内外面ともナデ。	1~2.5 mm大砂粒 合 結晶片岩	において	
315	発生土器 型B	B+C 覆土	口径11.2 直径6.8 体部最大径 18.1 高さ39.0	底面は平野を呈す。体部は内側で たちあがり、直輪形円筒を呈す。 底部は屈曲してほぼ直立し、そ れにつけたL1縫隙部は、むずかに	口縫隙部内外面ヨコナデ、 外側の一部にタテハケの 版筋をのこす。 体部外側・最上位にタテ ハケの痕跡をのこす。	1~5 mm 大砂粒少 量 石英 結晶片岩	明褐 大砂粒少 量 石英 結晶片岩	

番号	岩種	地點 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	鉱土	色調	備考
				外反する。 口縫部に平坦におさめる。	はぼナデ。中・下位は、 タテ方向のミガキ、内面 上位と裏面にユビオサ エ、中位はナダ。裏部 外縫ユビオサエ、ナダ。 裏面はナダ。			
316	共生土器 型F	C・D 覆土	口径12.4 高径6.6 体部最大径 29.6 底面30.0	底面は、欠損のため不明。 体部は内側突出にたちあがり、 最大径は大きく内側している。 小位の最大径が強く張る形態を 呈す。底面はゆるやかに斜めし、 強く直立する。 口縫部は直線的に外方に開く。 口縫部はやや肥厚し、ふくら み気味におさめる。口縫部外縫 部底三内形の貼付突部を2条左 右す。	口縫部、底面・内外面リ コナデだが、外縫一部に タテハケの痕跡をのこ す。 体部外縫上位はタテハ ケ、中位はタテヘラミガ キ、下位はタテヘラミガ キ。内面は上位ユビオサ エ、中位はユビオサエ、下位 は左よりナリナメハケをの こすが、主としてナダ。	0.5~5 mm大砂粒 含 石英	(内)灰 (外)灰白	
317	共生土器 型D/a	A 覆土	口径36.2	内窓する体部から、周向してタ ッパ状に聞く口縫部をもつ。 底面部は肥厚して平坦におさ める。ヘラ型の割目を残す。	口縫部外縫コナデ。 裏部外縫はタテハケ、基 本的に3分割でわざかに もりあがりをみせせる。内 面はナダ。体部外縫上半 はタテハケ。	1~6 mm 大砂粒含 粘晶片岩	1~6 mm 大砂粒含 粘晶片岩	318と同 個体
318	共生土器 型	A・B 覆土	底径16.1	底面は平底を呈す。体部は内側 として大きめ外方にたちあがる。 おそらく底面に近い部分と考 えられる。ただし内面の剥離強 しく、底部の不明な部分が大き い。	体部外縫基本的にタテヘ ラミガキ。下縫はヨコヘ ラミガキ。底面外縫はユ ビオサエ。底面はナダ。内 面は剥離のため不明。	1~4 mm 大砂粒含 粘晶片岩	1~4 mm 大砂粒含 粘晶片岩	317と同 個体
319	共生土器 型A	覆土	底径6.0 体部最大径 18.4	底面は欠損にて不明。 体部は一様に内側してたちあが り、底面にちかい形状を呈す。 底面は扭曲して、やや剥離しつつ にたちあがり、口縫部につづく。	底面外縫タテ方向ナ デ。 体部外縫タテヘラミガキ およびナダ。 内面上位は、ユビオサエ、 ナダ。 中・下位はタテ方向ナ デ。	1~5 mm 大砂粒少 量含 石英 砂岩	(内)黒褐 (外)灰	
320	共生土器 型A	B 覆土	口径6.8 体部最大径 19.1	底面は平底を呈す。体部は内側 してたちあがり、中位に最大径 をもち、やや張る。 底面はゆるやかに底面してほど 直立する。	体部外縫はヨコナダ。内 面ナダ。 体部外縫はていねいなナ デ。 内面の上位・最大径付近、 底面はユビオサエ。他は 板ナダ。	0.5以下 ~3mm大 砂粒少 量含 石英 粘晶片岩	(内)赤 (外)灰 赤	
321	共生土器 型	B 覆土	底径8.1 体部最大径 25.0	底面は平底を呈する。体部は内 側に張り出しだらあがり、最大径付 近で大きく内側してたちあが る。最大径は中位にあり、球形 に近い体部上半は剥離強しいが 横縫の内風穴が確認できる。	体部上半は剥離強しい が、ナダによるものとお もわれる。 中・下位については、ナ ダを主とし、部分的に ナメ・タテハケが観察 できる。 内面は、上縫と下縫付近 にユビオサエを多くのこ とが、止はナダ。	1~8 mm 大砂粒含 石英 粘晶片岩	灰褐	
322	共生土器 型	B・C 覆土	底径8.1	底面は剥離しているが、平底と おもわれる。 体部は内側してたちあがり、上	体部外縫ナダ。 底面ナダ。	1~4 mm 大砂粒含 石英	赤	

番号	器種	地点 部位	法長 (cm)	形態の特徴	技 法	駄土	色調	備考
				半端に嵌入型をもつ。 体部上半に竹葉文が1列配置される。		結晶片岩		
323	共生土器 蓋	D 覆土	体部最大径 23.6	内側してたちあがる球形にちかい体部。 体部上半部は、2つ単位で2列の列点文をめぐらす。	体部外側上半はナデ。 下半はタテハケ。 内面はナデ。	0.5~2.5 mm大砂粒合 石英 結晶片岩	橙	
324	共生土器 底	B 覆土	底径6.9	底面は平底を呈す。 体部は内側して、外方にたちあがり、半球状をなす。	体部外側は、タテハラミ ガキをよく残す部分と、 ナデによる部分が交錯する。 内面はタテ方向を中心とするハケ網目。 底部外側はユビオサエ底 面はナデ。	1~3 mm (内)褐灰 大砂粒合 石英 結晶片岩	(内)褐灰 (外)橙	
325	共生土器 蓋	覆土	底径0.8 体部最大径 19.0	底面は平底を呈す。体部は内側して、外方にたちあがるか、体部はあまり張らず、長脚形を呈す。	体部外側は、タテハラミ ガキが主であると見える が、ナデによる部分もある。 底部外側はユビオサエ、 ユビナデ。 底面はナデ。 内面は底面にユビオサエをのこすが、主としてナ デ。	1~4 mm 大砂粒合 石英 結晶片岩	橙	
326	共生土器 蓋	C 覆土	底径6.8	底面は平底を呈す。 体部は内側して外方にたちあがる。	体部外側タテハラミガ キ。 底面および内面はナデ。	1~5 mm 大砂粒合 石英 結晶片岩	において赤褐色	
327	共生土器 蓋(?)	覆土	底径9.5	底面はわずかに上げ高を呈す。 底面はうすく、体部もわずかに内側気球形に外方にたちあがる。	体部外側タテハラミガ キ。 底面はナデ。 内面は倒錐底らしいが、ナ デを基本とする。	1~5 mm 大砂粒合 石英 結晶片岩	(内)黄灰 (外)において 赤褐色	
328	共生土器 蓋(?)	A+B 覆土	底径9.2	底面は、やや丸みをねびた平底。 底面厚は体部とかわらない。 体部は、やや貴族的に、のち内 側してたちあがる。	体部外側中位は、ヨコヘ タミガキ、下半はタテヘ タミガキ、底面はナデ。 内面中位はタテハケ。 下位にヨコヘタミガキ、 底面はていねいなナデ。	0.5~2 mm大砂粒 合 石英	橙	
329	共生土器 蓋A <sub>1</sub> イ	B 覆土	口径25.8	底面的に内側する体部から「く」の字状に擴く曲面して外反する 口縁部をもつ。 口縁部は、平底におおめる。	内外側とも倒錐のため不 規則。	1~3 mm 大砂粒合 石英	橙	
330	共生土器 蓋A <sub>1</sub> ハ	C 覆土	口径20.4	直線的に内側する体部から、「く」の字状に擴曲して外反する 口縁部をもつ。 口縁部は厚く、端部はさらに肥 厚する。底面はナデにより、わ ずかに凹面に仕上げる。	口縫部底面内面とも ヨコナデ。 体部外側はタテハケの 一部、一部ナデ。 体部内面は左ヒリナメ ハケ。	1~2 mm 大砂粒合 石英	(内)褐灰 (外)において 橙	
331	共生土器 蓋A <sub>1</sub> ハ	AB 覆土	口径19.4	内側する体部から「く」の字状に擴曲して、外反する口縁部。 口縁部は厚く、端部はさらに肥厚する。底面はナデにより、わずかに凹面に仕上げる。	口縫部内外ヨコナデ。 体部外側タテハケ。 体部内面上面はヨコナ デ。 以下ナデ。	0.5~2 mm大砂粒 合 石英 結晶片岩	橙	
332	共生土器 蓋A <sub>1</sub> ハ	D 覆土	口径27.4 体部最大径	内側してたちあがる球形の体 部。	口縫部内外ヨコナデ。 底面外側、強いヨコナ デ。	0.5~3 mm大砂粒	淡黃色	

番号	器種	地点 部位	法長 (cm)	形態の特徴	採法	胎土	色調	備考
			34.4	口縁部は「」の字状に屈曲して、外反する。 口縁部外面には強いナギ入り模をもつ。 口縁端部は大きく肥厚し、端面は円弧に仕上げる。	体内外面はナヂ。	骨 石英		
333	弥生土器 要A,ニ	腹土	口径15.0	内側してたらあがる形影に近い 体部から「」の字状に大き く屈曲して外反する口縁部をもつ。 口縁端部はゆるく不規則に波うち、端部はさざく、あいまいに 仕上げる。 玉壁状にめくれる部分もある。	口縁部内外面ヨコナナギ がありまし。 体部外面は、タテハラミ ガキ上部はヨコナナギ。 体部内面は、タテ方向を 主とするナヂ。	1~2mm 大砂粒合 石英 結晶片岩	に赤い黄緑	
334	弥生土器 要A,イ	A・D 腹土	口径15.4	内側してたらあがる形影にちか い体部上部。 凹い口縁部は「」の字状に大 きく屈曲して、外反する。 口縁端部は半丸にときめる。	口縁部は内外面ともヨコ ナナギ。 体部外面は、タテハケの ちナギ。 内面は、上半にユビオサ ニギをのこすが、ナヂ。	1~2mm 大砂粒合 石英 結晶片岩	に赤い橙	
335	弥生土器 要A,イ	B 腹土	口径15.2	内側気球形にたらあがる体部か ら、屈曲して「」の字状に外 反する口縁部をもつ。 口縁端部は半円にときめる。	口縁部内外面ともヨコナ ナギ。 体部内外面ともナヂ。	1~2mm 大砂粒合 結晶片岩	に赤い黄緑	
336	弥生土器 要A,イ	A 腹土	口径18.6	内側する体部から「」の字状 に外反する口縁部をもつ。 口縁部は端部も肥厚させ、端面 は凹面に仕上げる。 端面にはヘラ横ぎの刻目を施 す。	口縁部内外面、体部外 面はヨコナナギ。 体部外縁タテハケ、内面 はナヂ。	1~3mm 大砂粒合 石英 砂利	淡黄	
337	弥生土器 要A,ニ	B 腹土	口径14.7 底径5.5 体部高大径 7.2 腹高34.6	底面は上部底を出す。 体部は内側してたらあがり、最 大径が上位にあり、圓錐形を呈 す。 口縁部は「」の字状に屈曲し て外反する。 端部はやや丸く仕上げる。	体部外縁、タテヘラミガ キをもととする。 最大径より上にヨコ方向 を中心とするナギが優勢 で口縁部内外面ヨコナ ナギ。 体部内面、上半はユビオ サエ放散型のここと。 半円には、タテヘラミガ キのここの部分がみられ、中位～下位はナヂが 優勢。端面はナヂ。	1~6mm (内)明赤褐 (外)明褐 大砂粒合 石英 結晶片岩		
338	弥生土器 要C,ニ	A・B 腹土	口径13.2 底径5.0 腹高14.7	底面はわざかに上げ底を呈す。 体部は内側気球形に外方に立ちあ がり、屈曲して外反する複雑な 口縁部をもつ。 口縁部はゆるく不規則に波うち、 口縁端部は、まるくあいま いに仕上げる。	口縁部内外面ヨコナナギだ が、おりまげ規則のあい ましさをのこす。 体部外縁タテヘラミガ キ。 上端外縁にユビオサエ、 底部外面はヨコナナギと、 ユビオサエ。端面ナヂ。 内面は下半タテ方向ナ ナギ。 上位はヨコ方向ナヂ。	1~5mm 大砂粒合 石英 結晶片岩	灰褐	
339	弥生土器 要	C-D 腹土	底径5.6	底面は平底を呈す。 体部はわざかに内側気球形に外方 に立ちあがる。	体部外縁タテヘラミガ キ。 内面ナナギが優勢だが一部 タテヘラミガキが強烈で ある。	1~4mm 大砂粒合 石英 結晶片岩	褐	

番号	器種	地點 部位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎土	色調	備考
340	弥生土器 甕	覆土	体部最大径 18.6	ゆるく内寄してたもあがる体 部。	外部外面はタテハケ。 上端周辺部近はヨコナ ダ。 内面は、タテ方向を中心 とするナダ。 部分的に上りナメハ ケが観察できる。	0.5~2 mm大砂粒 含 石英 結晶片岩	(内)黄灰 (外)淡黃鐵	
341	弥生土器 甕	C 覆土	底径5.6	底面は不整を呈す。 体部はやや内寄傾向に外方にた ちあがる。	体部外面タテハラミガ キ。 底部外周ヨコナダ。 底面はナダ。 体部内面は、ナダ、底面 にエビオサエ痕あり。	1~3mm 大砂粒含 石英 結晶片岩	黄鐵	

番号	器種	地點 部位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺存 状態	石 材	特徴・備考
342	石錐	C 覆土	(3.0)	(2.0)	0.5	(3.3)	先端等欠 損	チヌカイト	凹凸無基
343	スクレイパー	B 覆土	3.2	4.5	0.6	9.73	完存(?)	チヌカイト	下刃は開削溝による刃部形成。 頭は最断部。
344	打製石葉丁	A·D 覆土	10.8	5.2	0.7	81.58	完存	結晶片岩 (石英片岩)	両端抉りあり。
345	小型円錐状石錐	C 覆土	8.3	1.8	1.6	4.1	完存	結晶片岩 (緑色片岩)	先端内側に瘤頭あり。 円錐状の斧木製品と考えられる。
346	砾石	覆土	19.7	14.8	10.3	4000	欠損	砂岩	被熱。 自然面のうち1面に組織、もう1面に 深い延面と枚状の敲打痕が観察でき る。
347	砾石	覆土	18.5	11.6	11.0	3190	欠損	砂岩	被熱。 自然面の一面を削い返面とする。
348	砾石	覆土	24.9	22.55	10.1	7000	一部欠損	砂岩	被熱。 自然面の一面を削い返面とする。
349	砾石	B 覆土	22.7	7.1	7.7	1275	欠損	砂岩	複合型、被熱。 自然面の二面を削面とする。
350	砾石	覆土	18.7	9.2	8.7	1510	欠損	砂岩	自然面の一面を底面とする。

第22表 SK1016 出土遺物観察表(SK1016は掘削時に4分割、北西部A、北東B、南西C、南東Dとする。数字はとりあげ番号)

番号	器種	地點 部位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎土	色調	備考
351	弥生土器 盆A <sub>1</sub>	D-15 覆土	口径14.6	内立する突起から、ゆるやかに 屈曲して大きく外反するU形 窓。 口縁端部は上下にわずかに膨張 し、窓邊は底面に付上げる。	口縫部外面ヨコナダ。 底部外周タテハケ、内面 ナダ。	1~4mm 大砂粒含 石英 結晶片岩	淡	
352	弥生土器 盆A <sub>1</sub>	C 覆土	口径9.6	内寄する突起から、ゆるやかに 屈曲して、底を支する窓。 U形窓はさらにゆるやかに屈曲 して外反する。 口縁端部は、わずかに上方に膨 張し、凹面を形成しながらあい まいに仕上げる。	口縫部外面ともヨコナ ダ。 底部外周タテハケ、内面 ナダ。	0.5~1 mm大砂粒 含 石英	にぶい黄鐵	

番号	器種	地點 層位	法蓋 (cm)	形態の特徴	技 法	胎土	色調	備考
353	弥生土器 甌A,d	A 覆土	口径15.9	直立する強部から、ゆるやかに 屈曲して外反する口縁部。 口縁部は、やや膨らまず、輪 郭には一連の凹線を有す。 腹部下部には、断面カーボ状 の附付突起を有す。	口縁部内外面ヨコナギ。 腹部内外面ともにナゲ。	0.5~3 mm大砂粒 合 結晶片岩 石英	黄 青	
354	弥生土器 甌A,ac	B-103 106 覆土	口径17.4	やや開き気味にたちあがる強部 から、ゆるやかに屈曲して外反 する口縁部をもつ。 口縁部はやや肥厚し、強部を半 周にさかって、斜格子文を施す。 強部の内面に角部の附付突起 を2枚有す。	口縁部内外面ヨコナギ。 腹部外面は判別し難い がタケハナと思われる。 内面はタケハナナゲ。	0.5~5 (内)根 mm大砂粒 (外)に青い 合 石英 結晶片岩	黄 青	
355	弥生土器 甌A,dg	A, C C-201 底径8.0 202 209 覆土	口径15.3 底径8.0 202 209 高さ(33.7)	I:強部は平底を呈す。 体部は内側でたちあがり中位 の最大径部が張る。算盤玉形 に近い形状を有す。 強部は屈曲してやや開き気味に たちあがり、ゆるやかに屈曲し て大きく外反する口縁部をも つ。 II:縁端部は尖済。 強部下部に斜目を施した斜格子 文を施し、体部最大径部分に 直角接縫による印加文を施す。	I:縁部内外面ヨコナギ。 腹部外面テラハケ、内面 タテ方向ナゲ。 体部上半タラハケ、底大 筋部分ヨコタラミガキ。 下半はタケハラミガキな いしはナゲ。 内面は上半エビオサエ、 中・下半は判別により不 明。	1~2mm 大砂粒 石英 角閃石	に赤い赤褐色 (銀鏡)	擦入土器
356	弥生土器 甌A,be	D C-209 D-4 覆土	口径20.5	直立する強部から、ゆるやかに 屈曲して、大きく外反する口縁 部をもつ。 口縁端部は両面に仕上げる。 口縁部上面には斜格子文、強部 には2段の斜目印加文を施す。	II:縁部内外面とともにヨコ ナゲ。 腹部内面ともにナゲ。	1~3mm 大砂粒 合 結晶片岩 石英	複合器	
357	弥生土器 甌A,bc	B 覆土	口径15.8	外輪気味にたちあがる強部から ゆるやかに屈曲して大きく外反 する口縁部。 口縁部はわずかに上下に膨張 し、輪郭は圓錐形に往上升る。 I:縁部上面には斜格子文、強部 には2段の斜目印加文を施す。	口縁部、強部とともに内外 面ヨコナギ。	0.5~3 mm大砂粒 合 結晶片岩 石英	黄 青	
358	弥生土器 甌A,b	C 覆土	口径9.6	直立する強部から、ゆるやかに 屈曲して大きく外反する口縁 部。	口縁部内外面は剥離のた め不明。 腹部内面はナゲ。	1~2mm 大砂粒 石英 結晶片岩	に赤い黄緑	
359	弥生土器 甌	C-209 覆土	体深8大径 13.3	内側でたちあがり、中位の最 大径部が張る体部。	体部外側、上半はタケハ ケ、中位以下はタケヘリ ミガキ。 内面はタケハナ。	1~3mm 大砂粒 合 石英	橙	
360	弥生土器 甌A,bg	C A+C間 覆土	口径9.6 底径6.4 体深8大径 13.4 高さ(15.2)	強部は平底を見す。 体部は内側でたちあがり、中 位の最大径部が張る。 強部はゆるやかに屈曲して直立 し、II:縁部もゆるやかに屈曲し て大きく外反する。 口縁部はわずかに上下に、輪 郭は両面をなす。 体部前面にハケ状工具による 炎口文を施す。 底部に焼成前の穿孔が1孔確認 できる。	口縁部内外面ともヨコナ ギ。 腹部外面タラヘミガ キ、内面ヨコ方向ナゲ。 体部正面、上位はヨコヘ リミガキ、中位はヨコヘ リミガキ、下位はヨコ方 向クモの無脱ヘミガ キ。 内面は上よりナメ方向 のナゲ。	6.5~2 mm大砂粒 合	(内)根 (外)明赤褐色	

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	飼土	色調	備考
361	赤生土器 表A,b	A C C-215 覆土	口径22.2	直立する頭部から、ゆるやかに屈曲して、大きく外反する口縁部をもつ。 口縁部はやや肥厚し、むずかしく上・下に成長し、端面は平坦におさめる。 口縁部上面には、3条程度の斜彎削痕を残す。	口縫内外面とともにヨコナギ。 頭部外縫クサハケ、内面ナギ。	1~2 mm 大砂粒含 石英 角閃石	明黄褐	
362	赤生土器 表A,b	C C-209 覆土	口径16.8	直立する頭部から、ゆるやかに屈曲して、大きく外反する口縁部をもつ。 口縫部はやや肥厚し、端面は平坦におさめるものとされる。 口縫部に2孔ずつの穿孔、上面に斜彎字文の板跡があるが、削痕のため同化不能。	口縫内外面は削離のため不規則。 頭部内外面はナギ。	1~3.5 mm 大砂粒含 石英 角閃石	黄褐	
363	赤生土器 表A,b	D 覆土	口径15.3	直立する頭部から、ゆるやかに大きく述べる口縁部。 口縫部はむずかしく上方に膨張し、端面は斜面に仕上がる。 口縫部上面には、ヘラ彫きの斜彎字文の板跡をのこすが、削離のため同化不能。	口縫部は削離のため不明。 頭部内面ナギ。	1~4 mm 大砂粒含 石英	棕	
364	赤生土器 表A,b	A 覆土	口径13.9	大きく述べる口縁部。 口縫部は頭部にあたり、口縫部上面に複数段状文と孔列を残す。	口縫部内外面ヨコナギ。 頭部内外面クサハケ、内面ナギ。 背部外縫クサハケ、内面ユビオサニ底をのこす。	1~3 mm 大砂粒含 石英 粗品片状	にぼい黄褐	
365	赤生土器 表A,abg	A-B固 A-C固 B-D固 C-201 D-20	口径21.7 底径8.6 体部強大性 28.2 肩高36.5	頭部は平底を呈す。体部は内側してたらあがり、成人径は中位。屈曲してやや開き気味の頭部、さらには大きく外反する口縫部をもつ。肩部はやや上方に膨張し、縫隔は平緩に仕上がる。 頭部に斜め口縫文、口縫部上面に彫刻の斜彎字文と円形穿孔、頭部に2条の斜彎二重形の突起を2条。体部上半には、刻突列3文を残す。	頭部内外面ヨコナギ。 頭部外縫クサハケ、尖端部分はヨコナギ。内面はヨコナギ、ナギ。 体部上半はクサハケ。下位はヨコナガミガキ。下位はクサヘクミガキ。体部内面上半はユビオサニ。ナギ。下半はタタ万向ナギ。 内面ユビオサニ、丸西ナギ。	1~3 mm 大砂粒含 石英 角閃石 (外)明赤褐	投入入焼 (調査)	
366	赤生土器 表A,b	D-2 D-15 D-3-2 覆土	口径15.0	開き気味にたらあがる口縫部から、ゆるやかに、大きく外反する口縫部。 口縫部は上下に膨張し、端面には3条の凹線を残す。 口縫部上面には、ヘラ彫きのなり斜彎を残す。	口縫部内外面ともヨコナギ。	0.5~2 mm 大砂粒含 石英	棕	
367	赤生土器 表A,b	C-213 覆土	口径17.2	大きく述べる口縫部。 口縫部は上下、とくに下方に膨張し、端面には3条の凹線を残す。 円形穿孔を内側にあわせて腹に配する部分があるが、全体像は不明。また口縫部下面に3条単位の斜彎字文を残すが、削離して同化不能。	口縫部内外面ヨコナギ。	0.5~3 mm 大砂粒含 石英 角閃石	明黄褐 投入入焼 (調査)	
368	赤生土器 表A,b	C 覆土	口径22.3	やや開き気味にたらあがる口縫部から、ゆるやかに大きく外反する口縫部。	口縫部内外面ともヨコナギ。 頭部内面はナギ、外縫は	1~3 mm 大砂粒含 石英	浅黄褐	

番号	器種	地點 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
				口縁部は上位に、特に下方に膨張し、端面には2条の凹部を残す。口縁部上面には、ヘラ焼きの斜格子文を施す。	倒錠のため不規則。			
369	弥生土器 表A <sub>3</sub>	復土	口径21.0	大きく外反する口縁部。 口縁部は、上下に膨張し、端面には2条の凹部を残す。 口縁部上面には、ヘラ焼きの斜格子文を施すが一部に不規則な削突がみられる。	口縁部内外面ヨコナダ。	0.3~2 mm大砂粒 食 石英 長石	板 (?) (頭模)	埋入土器 (?)
370	弥生土器 表A <sub>2b</sub>	B 覆土	口径22.2	大きく外反する口縁部。 口縁部は上位に膨張し、端面には2条の凹部を残す。 口縁部上面には、ヘラ焼きの斜格子文を施す。	口縁部内外面ともにヨコナダ。	1~3 mm 大砂粒含 石英 鈍品片岩	板	
371	弥生土器 表A <sub>2d</sub>	A-C間 覆土	口径16.0	内側でたちあがる体部から屈曲して外反する瓶底。 口縁部はやわらかに大きく外反して、底部は上位にわずかに膨張し、端面には、2条の凹部を残す。 底部に刻目を施した貼付突帯を施す。	口縁部内外面ヨコナダ。 底部外側タケハゲ、内側ナダ。	1~3 mm (内)黄褐色 (外)灰 石英		
372	弥生土器 表C <sub>2d</sub>	A 覆土	口径15.4	内側する体部から、屈曲して立ちあがる頸部。 口縁部はやわらかに外反する。 口縁部は、わざとに上位に膨張し、端面は平坦におさめる。底部に、「人」の字状の刻目を施した貼付突帯を施す。刻目を施す際の傷が体部にのこる。	口縁部内外面ともにヨコナダ。 とくに口縁・頸部後ろのところに内側に深いヨコナダが観察できる。 体部内外面ともにナダ。	1~2 mm 大砂粒含 石英	内凹・黄褐色	
373	弥生土器 表C <sub>2d</sub>	A C 209 A-C間 覆土	口径15.1	内側する体部から、屈曲して立ちあがる頸部。 口縁部はやわらかに屈曲し外反する。 口縁部はわずかに上位に膨張し、端面は、2条のごく浅い凹部が施される。 底部には刻目を施した貼付突帯を施す。 刻目を施した時の傷が体部にのこる。体部に記号文を施す。	口縁部、頸部内外面ヨコナダ。 体部内外面ヨコナダ。	1~4 mm 大砂粒含 石英 鈍品片岩	墨 記号文あり	
374	弥生土器 表C <sub>2d</sub>	粘 86 復土	口径11.8	内側でたちあがる体部から屈曲して立ちあがる頸部。 刻目を施した削り出し(?)突帯を1条施す。口縁部はやわらかに、ゆるやかに屈曲して外反する。 口縁部は上位にやや膨張し、端面に2条の凹部を残す。	口縁部の内外面ともにヨコナダ。 体部外側上半はタテハゲ、中央はナダ(?)。 内側上部はユビオサエ板を觀察できるが主としてナダ。	1~2 mm 大砂粒含 石英 長石	(内)におい 黄褐色 (外)灰 (頭模)	埋入土器 (?)
375	弥生土器 表E <sub>2d</sub>	B 覆土	口径14.2	内側でたちあがる体部から屈曲して、開き気味で立ちあがる頸部。 底部には、指押は實文突等を施す。 口縁部はわずかに肥厚し、端面を凹面に仕上げる。	口縁部内外面ヨコナダ。 頸部外側タケハゲ、内側ナダ。 体部外側上端のみタテハゲ、以下ナダ。 内面もナダ。	0.5~2 mm大砂粒 食 石英	(内)灰黄褐色 (外)におい 黄褐色	
376	弥生土器 表F <sub>2</sub>	堆 覆土	口径12.6	内側する体部から、ゆるやかに立ちあがる頸部とつながり、さらに屈曲して内側しながら外側ではタテハゲの底跡	口縁部内外面ヨコナダ。 頸部から体部にかけて、外側ではタテハゲの底跡	0.5~3 mm大砂粒 食	板	

番号	器種	地点 部位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎土	色調	備考
				反する1縫部をもつ。 1縫部外面には幅広の凹窓状の凹みを1条も、腹部は平腹に おきめる。	がみとめられる。 内面はナデ。	石英 結晶片岩		
377	寄生土器 類F <sub>1</sub>	C-202 腹土	口径12.6	外反する口縫部。 口縫部は、わずかに上下に膨張し、縫面には1条の凹窓を残す。 1縫部下面に新月三角形の斜付突起を造らす。	口縫部内外面とともにヨコ ナデ。	1~3 mm 大砂粒含 石英 結晶片岩	明黄褐	
378	寄生土器 類F <sub>2</sub>	D-18 B-D底 腹土	口径14.6	外反する口縫部。 1縫部はわざかに上下に膨張し、縫面には3条の凹窓を残す。 口縫部下面に新月三角形の斜付 突起を造らす。	内外面ともヨコナデ。	1~2 mm 大砂粒含 石英 結晶片岩	において	
379	寄生土器 類E <sub>1</sub>	B-D 腹土	口径8.8	内弯する体部から、ゆるやかに 屈曲して、外壁突出で直立する 口縫部。 口縫部はややあいまいにおき める。	1縫部外面タケ方向ナ デ。 内側口縫はヨコ、腹部は タケ方向のナデ。 体部外面ナデ。 内面ヨコナデ。	0.5~3 mm大砂粒 含 石英	明黄褐	
380	寄生土器 類E <sub>2</sub>	B-D 腹土	口径13.4	内弯してたちあがる体部から、 屈曲して開き気味に直立する口 縫部。1縫部は、やや厚唇、 平坦におさめる。	口縫部内外面、ヨコナデ。 体部内外面ナデ。	1~5 mm 大砂粒含 結晶片岩 石英	明黄褐	
381	寄生土器 類E <sub>3</sub>	D-3 腹土	口径5.6	体部から屈曲して、やや開き氣 味に直立する(縫部)。 口縫部はわざかに肥厚し、縫 面は凹面を呈す。 口縫部上に円窓2条觀察でき る。	口縫部内外面ともヨコ ナデ。	1~4 mm 大砂粒含 石英	明黄褐	
382	寄生土器 類E <sub>4</sub>	A C D-1~4 腹土 高さ(29.6)	口径11.3 周径11.5 体部最大径 20.8	底部は平底を呈す。 体部は内弯してたちあがり膨 張を中位にもつ、断面椭円形狀 を呈す。 縫部は、ゆるやかに屈曲して直 立し、口縫部はそのままで、 縫部をがく間に引きめる。 口縫部、外面2条の凹窓を施す。	1縫部内外面ヨコナデ。 特に口縫底内面に強い ナデ。 体部と半内外面、ナデ。 下、外側タケヘラミガ キ。内面ナデ。	1~2 mm 大砂粒含 結晶片岩	技術	
383	寄生土器 類	A 腹土		内弯する体部から、屈曲して直 立する縫部をもつ。 縫部下端に複数の凹窓突起を造 らす。	内外面ともにナデ。	0.5~3 mm大砂粒 含 石英	和	
384	寄生土器 類	D-14-2 腹土		内弯する体部から屈曲して直立 する縫部。 縫部下端には、複数の凹窓突起 を造らす。	縫部内外面ナデ。	1~4 mm 大砂粒含 結晶片岩 石英	和	
385	寄生土器 類A <sub>3</sub>	A A-C底 C-213 C-215 D 腹土		内弯する体部から、屈曲して直 立する縫部。 口縫部はゆるやかに外反する。 縫部に4条の凹窓形日輪を施 す。	縫部外側削離のため不 規則。 内面ナデ(?)。 体部は内外面ともにナ デ。	1~4 mm 大砂粒含 チャート 砂岩	において黄褐	
386	寄生土器 類	A D-2 3-2 14-2 腹土	体部最大径 19.6	内弯する体部。 最大径を中央にもち、その部分 が他の異様な形をなす。 体部上半に、ヘラ縫きの斜削子 文、斜削きの直線文を3条施す。	体部外側、ナデによると 思われる。 内面はナデ。	1~3 mm 大砂粒含 結晶片岩 石英	において青綠	

番号	種類	地點 部位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
387	弥生土器 壺	A・C間 C 裏土	直径3.8 体部最大径 14.7	底面は平底を呈す。 体部は内側してたらあがり、最大径をやや上位にもつ傾斜形を呈す。	体部外側上位はタテハ ケ、中位はコロヘラミガ キ、下位はタテヘラミガ キ。内面はタテハケ。 上位にスピオサエ痕もの こす。	1~3mm 大砂粒合 石英 結晶片岩	橙	
388	弥生土器 壺	D 4 裏土	直径4.6 体部最大径 13.5	底面は平底を呈す。 体部は内側してたらあがり、中位にやや張った最大径をもつ。	体部外側、下半はタテヘ ラミガキ。川上部は剥離 のため不明。 内面は、窓い单位のタテ 方向中心のハケを残す。 内底面にはスピオサエ痕 のこす。	1~3mm 大砂粒合 石英	黑褐	
389	弥生土器 壺(?)	A・B間 壁上	直径10.3	底面は平底を呈す。 体部は直筒的に外方にたらあが る。	内外面ともにナデ。	1~4mm 大砂粒合 結晶片岩	棕	
390	弥生土器 壺(?)	C 裏土	直径6.8	底面はわずかに上げ底を呈す。 高厚い底部。 体部は外周気味に外方にたらあ がる。	内外面ともにナデ。	1~3mm (内)褐灰 (外)棕 大砂粒合 結晶片岩 石英		
391	弥生土器 壺(?)	B 裏土	直径7.8	底面はわずかに上げ底を呈す。 体部は直筒的に外方にたらあが り、底部間に、斜めに2孔(おそらく対面)に施成形空孔。	内外面ともにナデ。	1~5mm 大砂粒合 結晶片岩 石英	明黄褐	
392	弥生土器 壺(?)	A 裏土	直径11.8	底面は平底を呈し薄い。 体部は直線的に外刃にたらあが る。	体部外側タテヘラミガ キ、内面タテ板ケヅリ。	1~2mm 大砂粒合 石英	にぼい黄褐	
393	弥生土器 壺A <sub>1</sub> ±	D 裏土	口径18.5	内側する体部から、「く」の字状 に屈曲して外反する口縁部をも つ。 口縁部は、わずかに上方に膨 張し、端面は平底にときめる。 内面はナデ。	口縁部内外面ともにヨコ ナデ。 体部内外面ともに剥離の ため不明。	1mm砂 粒合 石英	赤	
394	弥生土器 壺A <sub>2</sub> ±	D-3 D-8 D-19 裏土	口径17.2	内側する体部から、「く」の字状 に屈曲して外反する口縁部をも つ。 口縁部は、わずかに上方に膨 張し、端面はよくときめる。 内面はナデ。	口縁部内外面ヨコナデ。 体部内側タテハケの痕跡 がみとめられる。 内面はナデ。	0.5~2.5 mm大砂粒 合 石英	にぼい黄褐	
395	弥生土器 壺A <sub>3</sub> ±	A・C間 裏土	口径21.4	内側する体部から、「く」の字状 に屈曲して外反する口縁部をも つ。 口縁部は、わずかに上方に膨 張し、端面はよくときめる。	口縁部内外面ヨコナデ。 体部内外面ナデ。	1~2mm 大砂粒合 結晶片岩 石英	棕	
396	弥生土器 壺A <sub>4</sub> ±	A, B D-15, 16 裏土	口径29.2 体部最大径 33.7	内側する体部から、川面して、 小さく外反する口縁部をもつ。 口縁部は、上方にやや張出し、 端面は平底にときめる。	口縁部内外面ヨコナデ。 口縁部外面にとくに強い ナデを残す。 体部内外面ともにナデ。	1~4mm 大砂粒合 結晶片岩 石英	明黄褐	
397	弥生土器 壺A <sub>5</sub> ±	C 214 裏土	口径25.0	内側する体部から、「く」の字状 に屈曲して外反する口縁部。 口縁部は上方にやや張出し、 端面は平底に仕上げる。	口縁部内外面ヨコナデ。 体部内側は、在上ナナ メハケの痕跡がみとめら れるが、外面は剥離のた め不明。	1~4mm 大砂粒合 結晶片岩 石英	棕	
398	弥生土器 壺A <sub>6</sub> ±	H-D間 D-20 D-13	口径18.2	内側する体部から、「く」の字状 に屈曲して外反する口縁部。 口縁部は上方にやや張出し、 端面は平底に仕上げる。	口縁部内外面ヨコナデ。 体部内外面ナデ。	0.5~3 mm大砂粒 合 結晶片岩	淡黄棕	

番号	器種	地点 部位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎土	色調	備考
399	弥生土器 要A <sub>1</sub> 口	D	口径17.8	内縁する体部から「く」の字状に屈曲して外反する口縁部をもつ。口縁部は、ごくわずかに上方に拡張し、端面は平坦におきめる。	口縁部内外側ヨコナギ。 体部外側タハケの痕跡が認められる。	0.5~2 mm大砂粒 含 結晶片岩 石英	棕	
400	弥生上器 要A <sub>1</sub> 口	B-D間 腹土	口径17.5	内縁する体部から「く」の字状に屈曲して外反する口縁部をもつ。口縁部は上方にやや拡張し、端面は平坦におきめる。	口縁部内外側ヨコナギ。 体部外側タハケの痕跡が認められる。	1~4 mm 大砂粒 含 石英	浅青緑 (?)	入上器 (?)
401	弥生土器 要A <sub>1</sub> 口	C 腹上	口径16.7	内縁する体部から「く」の字状に屈曲して外反する口縁部。 口縁部は上方にやや拡張し、端面は平坦におさめる。	口縁部内外側ヨコナギ。 体部外側タハケの痕跡が認められる。	1~3 mm 大砂粒 含 石英	浅青緑	入上器 (?)
402	弥生土器 要A <sub>1</sub> 口	B D-13 腹土	口径20.6	内縁してたもあがる体部から「く」の字状に屈曲して外反する口縁部をもつ。 口縁部は上方にやや拡張し、端面は平坦におさめる。	口縁部内外側はヨコナギ。 体部外側ともに削離のため不明。	1~4 mm 大砂粒 含 チャート 石英	明赤褐	
403	弥生上器 要A <sub>1</sub> 口	A 腹上	口径22.8	内縁する体部から「く」の字状に屈曲して外反する口縁部。口縁部は、上方にやや拡張し、端面はまるくあまいに仕上げる。	III縁部内外側ヨコナギ。 体部内外側ナギ。	1~2 mm 大砂粒 含 結晶片岩 石英	にぼい黄緑	
404	弥生土器 要A <sub>2</sub> 口	D D-20 A 腹土	口径23.0	内縁してたもあがる体部から「く」の字状に屈曲して外反する口縁部。 I II縁部はやや拡張して、上方に拡張し、端面は1条の凹線を残す。	口縁部内外側とともにヨコナギ。 体部は削離激しく調整不明。	1~3 mm 大砂粒 含 石英	黄褐	
405	弥生土器 要A <sub>2</sub> 口	D17. 2 腹土	口径22.6	内縁してたもあがる体部から、「く」の字状に屈曲して外反する口縁部をもつ。 口縁部は、やや記押し、端面に1条の凹線を残す。	口縁部内外側ヨコナギ。 体部外側ナギをもとするが、一部タハケが痕跡できる。	0.5~3 mm大砂粒 含	浅青緑	
406	弥生上器 要A <sub>1</sub> 口	C, D A-C間 腹土	口径22.0	内縁する体部から「く」の字状に屈曲して外反する口縁部をもつ。 I II縁部は上方に拡張し、端面に2条の凹線を残す。	内外側とともにヨコナギ。	0.5~1.5 mm大砂粒 含 石英	棕	
407	弥生土器 要A <sub>2</sub> 口	A, B C 腹土	口径24.5	内縁する体部から、「く」の字状に屈曲して外反する口縁部をもつ。 I II縁部は上方に拡張し、端面に2条の凹線を残す。	口縁部内外側ヨコナギ。 体部内側にはヨコハケの痕跡も観察できるが、外側は削離のため不明。	1~3 mm 大砂粒 含 結晶片岩	黄棕	
408	弥生土器 要A <sub>2</sub> 口	C-201 腹土	口径29.0	外反する口縁部。 口縁部は、上方に拡張し、端面には2条の凹線を残す。	II縁部内外側とともにヨコナギ。	1~2 mm 大砂粒 含 結晶片岩	棕	
409	弥生土器 要A <sub>2</sub> 口	腹土	口径22.4	「く」の字状に外反する口縁部。 肩部外側にヘラ状肩突を施した貼付實證を遺す。 口縁部は上方にやや拡張し、端面に2条の凹線を残す。	口縁部内外側とともにナギ。	1mm以下 の砂粒 含 石英	棕	
410	弥生土器 要C <sub>1</sub> 口	C-202 C-209 C-211 腹土	口径13.4 底径8.8 体部最大径	底面は平底を呈す。 体部は内縁してたもあがり、や上位に最大径をもつ。	口縁部内外側とともにヨコナギ。 体部外側、タハケの痕	1~3 mm 大砂粒 含 石英	(内)にぼい 褐 (外)深褐色	

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	採法	黏土	色調	備考
		A 地 D-9 覆土	12.8 基盤(13.6)	U縫部は前曲して、外反する短いU縫部をもつ。 U縫端部は丸まるく、あいまいにおさめる。	節を剥離できる。 内面はナデ。	結晶片岩		
411	共生土器 甕	D-4 D-19 覆土	底径6.4 体部最大径 23.0	底面は平底を呈し、体部は内輪気泡にちりあがり、最大径を中心よりやや上にもつ開閉形を呈す。	体部外側、上位はナデ。 下位は入念なクテヘラミガキ。 内面は半はクテハケが各所にみられ、下半はクテヘラケグリ。	0.5~2 mm大砂粒 含 石英 結晶片岩	に赤い黄緑	
412	共生土器 甕	A, B A-D間 A-H間 覆土	底径5.8	底面はわずかに上げ底を呈す。 体部は、わずかにくびれ、内側して、外方にちりあがる。	体部外側クテヘラミガキ。 内面ナデ。	0.5~1.5 mm大砂粒 含 石英	(内)に赤い 赤褐色 (外)青	
413	共生土器 甕	C 覆土	底径10.1	底面は平底を呈す。 体部は内壁尖端に外方にちりあがる。	体部外側剥離のため不明。 内面はクテハケのちりだ。	1~2 mm 大砂粒 含 結晶片岩 石英	(内)明赤褐色 (外)に赤い 黄緑	
414	共生土器 甕	覆土	底径11.0	体部は、ややくびれて内壁50mmに外方にちりあがる。	体部外側クテハケのちりだ。 下端は板ナデ。 内面はクテ方向ナデ。	0.5~3 mm大砂粒 含 結晶片岩	橙	
415	共生土器 甕	A-C間 B 覆土	底径6.0	底面は平底を呈す。 体部は直線的に外方にちりあがる。	体部外側クテヘラミガキ。 内面ナデ。	0.5~3 mm大砂粒 含 石英	紫	
416	共生土器 甕	A 覆土	底径9.2	底面は平底を呈す。 体部は、ややくびれて直線的に外方にちりあがる。	体部外側クテヘラミガキ。 内面クテ方向ナデ。 内底面はビオサエ痕多数のこす。	1~3 mm 大砂粒 含 結晶片岩 石英	紫	
417	共生土器 甕	D 覆土	底径10.0	底面は平底を呈す。 体部はややくびれて直線的に外方にちりあがる。	体部外側クテヘラミガキ。 内面ナデ。内底面にはビオサエ痕のこす。	1~3 mm 大砂粒 含 石英	(内)青褐色 (外)青	
418	共生土器 甕(?)	C 地 覆土	底径8.3	底面は平底を呈す。 体部は直線的に外方にちりあがる。	体部外側クテヘラミガキ。	0.5~1 mm大砂粒 含 石英 角閃石	地入土器 (?) (薄緑)	
419	共生土器 鉢C	A D D-5 D-18 A-C間 覆土	口径20.9 底径7.6 体部最大径 (28.2) 基盤(31.0)	体部は内側してちりあがり、口縫部は方形におさめる。 方形状の把手を口縫部上に一対付着する。 底面は平底を呈し、底端を弱めに内側にちりあがる。 体部は直線的に外方にちりあがる。	体部外側、一部に旋削状のハサを施す部分があるが主としてナデ。 内面はナデ。 内外側ともにナデ。	1~5 mm 大砂粒 含 結晶片岩 石英	黄緑 明赤褐色	
420	共生土器 鉢B <sub>2</sub>	C 覆土	口径25.6	内側してちりあがる半球形の鉢。 内縫部は内外に膨張し、端面は、ほぼ平底におさめる。口縫部下に3条の凹溝を施す。	口縫部外側ヨコナデ。 体部内外面ナデ。	1~2 mm 大砂粒 含 石英	に赤い黄緑	
421	共生土器 高杯C <sub>1</sub>	B A-C間 C 覆土	口径35.2 基盤(31.3) 基盤(28.0)	内側してちりあがる半球形の杯。 口縫部は四面におさめる。脚台部は直線的に下外方にのび、	杯部内外面ともにナデ。 杯部下部は外側クテヘラミガキ。内面でいわいなナデ。	1~8 mm 大砂粒 含 石英 結晶片岩	赤橙 褐	

番号	器種	地点 部位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎土	色調	備考
				脚端で、やや内側寄る。眞珠部はやや肥厚し、一条の凹線を残す。 脚台中央部に5ヶ所の円孔あり。	眞珠部外縁の上半はタテヘラミガキ、下半はヨコナダ。一端にハケの痕跡もみられる。 内面上半にはシボリ痕がのこり、下半はヨコナダ。 円板充填法による。 充病部は通常に属い。	1~2mm 大砂粒含 結晶片含 石英		
422	海生土器 高杯C <sub>1</sub>	A C B D-2 17-2 18 胎土	口径20.4 脚台周径12.8 器高21.8	脚部は内側してたちあがり、半球状を呈す。口縁部は、内外にわざかに抵抗し、表面は平滑におさめる。 脚台部は、くびれて、直線的に下外方にのびる。 脚端はやや肥厚させ、あいまいにおさめる。	口縁部外縁ヨコナダ。 杯部外縁剥離のため不明。 内面ヨコヘラミガキ。 脚台部外縁タテヘラミガキ。内面上半にはシボリ痕。下半ヨコナダ。 脚部内面ヨコナダ。 円板充填法。	1~2mm 大砂粒含 結晶片含	性	
423	海生土器 高杯D <sub>1</sub>	A-301 C-213 胎土	口径25.4 周径15.8 器高19.6	脚部は、皿状を呈し、口縁部は内側する。 口縁部は内外方に抵抗し、表面は内面に仕上げる。 脚台部外側して下外方にのび剥離を内外に抵抗する。	口縁部内面ヨコナダ。 杯部外縁タテヘラミガキ。 内面ナダ。 脚部外縁タテヘラミガキ。 内面シボリ痕のこす。 脚部外縁ヨコナダ。 円板充填法。	1~2mm 大砂粒含 石英 結晶片含	赤	
424	海生土器 高杯H <sub>1</sub>	A C D-3 胎土	口径23.5 底径7.0 周径21.3 器高20.0	脚部は内側してたちあがり、半球形を呈す。 口縁部は既南して大きく外反する。底部内面に断面二角形の筋付突起を施し、口縁部はなるべくあいまいにおさめる。脚台部は、外側して下外方にのび、脚端は、あいまいにおさめる。	口縁部内外面ヨコナダ。 杯部内外面は剥離のため不明。 脚台部外縁は剥離敷しいが、タテヘラミガキが頗る能である。 内面上半はシボリ痕。下半はヨコナダ。 円板充填法。	1~5mm 大砂粒含 結晶片含 石英	赤	
425	海生土器 高杯B <sub>1</sub>	A D-11 胎土	口径25.1	内窓状に外方にたちあがる杯部から、屈曲して外反し、水平にのせる口縁部をもつ。 尾端内面には断面二角形の筋付突起を施す。	口縁部内外面ヨコナダ。 杯部外縁タテハマ、内面ヨコハケを部分的に觀察できる。	0.5~5mm 大砂粒含 石英 結晶片含	性	
426	海生土器 高杯D <sub>2</sub>	D-3 D-29 D-18 胎土	口径23.2	内窓してたちあがる体部、L1脚部。 口縁部は、内外にやや抵抗し、表面に2条の凹線を施す。	L1脚部内外面ヨコナダ。 体部内外ともにナダ。	1~3mm 大砂粒含 石英 結晶片含	性	
427	海生土器 大型高杯	A B C D-14 D-19 胎土	口径49.5	内窓しながら、大きく外方にたちあがる杯部。 口縁部外縁には5メートルの凹線を施し、口縁部は内外に抵抗し、表面に1条の凹線を施す。	杯部外縁、左上ナダメヘラミガキ。内面はヨコハマ、左上ナダメハケの痕跡状のタテヘラミガキ。 円板充填法による。	1~4mm 大砂粒含 石英 結晶片含	性 皿底あり。	

番号	器種	地点 部位	長軸 (cm)	短軸 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	肥 土	色 調	備 考
428	土製内板	腹 <sub>4</sub>	3.35	3.2	0.6	—	8.91	1~2mm大 砂粒含	(淡)褐灰 (淡)青	土器片判別。 内外面ともにハケの痕跡 のこす。

番号	器種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺存 状態	石材	特徴・備考
429	打製石斧丁	覆土	(10.1)	5.0	0.7	(48.37)	- 部欠損	結晶片岩 (石英片岩)	狭りをわずかに入れる。 片面は自然面。
430	打製石斧丁	D 覆土	11.1	4.2	0.6	53.56	完存	結晶片岩 (石英片岩)	周端に狭りわずかにあり。
431	打製石盾子	覆土	11.2	4.5	0.7	(43.41)	- 部欠損	結晶片岩 (石英片岩)	両端狭りあり、片面自然面。
432	石鎌	A 覆土	(13.6)	10.0	2.6	(364)	刃部欠損	結晶片岩 (石英片岩)	いわゆる有背石鎌。 扁平な自然面の側面を敲打により成形。
433	棒状片刃石斧	A 覆土	12.6	2.4	3.5	168	完存	結晶片岩 (石英片岩)	棒状の自然擦の表・裏面を主として研磨し、刃部形成。挟りなし。
434	棒状片刃石斧	C 覆土	13.2	1.4	4.2	176	完存(?)	結晶片岩 (石英片岩)	未製品。 強い敲打により、軽成形。研磨箇所なし。
435	柱状片刃石斧	B 覆土	14.6	2.8	4.4	380	刃部欠損 (?)	結晶片岩 (緑色片岩)	未製品。 粗成形後側面と右側面を中心に敲打。 尖部基部の一部を削除。
436	柱状片刃石斧	D 覆土	9.1	1.3	2.8	76	刃部欠損 (?)	結晶片岩 (緑色片岩)	未製品。 粗成形後、表・裏を中心で敲打。未研磨。
437	扁平片刃石斧	D 覆土	8.4	3.5	0.9	(46)	欠損	結晶片岩 (緑色片岩)	全面研磨。半分欠損しているので裏裏面の刃部が薄く片刃石鎌。 加熱をうけている可能性あり。 石材変質、軟化。
438	石斧	A B 覆土	28.5	8.05	4.3	1800	- 部欠損	結晶片岩 (石英片岩)	未製品。 両端を強く敲打、側面も一部敲打。 始刃石斧の粗成形の途上と考えられる。
439	鉄石	覆土	27.2	22.0	22.5	9600	欠損	砂岩	自然面の中央部にやや凹んだ縦面微熱。6枚片集合。

第23表 SP1051 出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
440	弥生土器 盤A,a	2段 覆土	口径12.0	底盤からゆるやかに屈曲して外へ内外面ともヨコナデ。反するU縫隙。端部は平面におきめ、刻目を残す。		1~2mm 大砂粒合 2mm 結晶片岩	明赤褐色	

第24表 SK1039 出土遺物観察表 (地点の数字はとりあげ番号を示す)

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
441	弥生土器 盤A, A <sub>1</sub>	亞土	口径11.6	底盤から腰盤からゆるやかに屈曲して外へ内外面ともヨコナデ。U縫隙底盤は平面を意識しながらあいまいに仕上げる。	内外面ともにナゲ。	1~3mm 大砂粒合 石英 結晶片岩	淡 灰色	
442	弥生土器 盤A,	覆土	口径11.2	やや開き気味にたちあがる腰盤から。ゆるやかに屈曲して外へ内外面ともヨコナデ。 U縫隙底盤はややあいまいになるくおさら。	内外面ともにナゲ。	1~3mm (内)暗灰青 大砂粒合 結晶片岩 石英	(外)淡 灰色	

番号	器種	地点 部位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎土	色調	備考
443	弥生土器 壺A <sub>1</sub>	覆土	口径8.2	開き気兼ねにちあがりゆるやかに弧曲して外反する口縁部。 口縁部はまくおさめる。	内外面ともナゲ。	1~2.5 mm大砂粒 少量含 結晶片石 英	黒	444と同 個体?
444	弥生土器 壺	覆土	底径1.9 体部最大径 12.2	底面はわずかに上り直を呈す。 体部は内凹してたちあがり最大 径を中位にもつ断面横円形を呈 す。	体部外折ナゲ、一部にミ ガキの帆跡も確認できる が、不明。内面エビオサ エ、ユナゲ。	1~3 mm 大砂粒含 石英 結晶片石 英	橙	443と同 個体?
445	弥生土器 壺A <sub>2</sub>	覆土	口径15.0	腹部かわらめく外反する口縁部。 輪部はわずかに上方に低張し、 平底におさめた底部に刃目を施す。	内外面ともナゲ。	1~3 mm 大砂粒含 石英	橙	
446	弥生土器 壺A <sub>3</sub>	覆土	口径21.0	直立する腹部からゆるやかに屈曲して外反する口縁部。 口縁部は、平底におさめ、タ テとナメの2種の刃目を施し、 2側づつき所に円形浮文を貼付ける。	口縁部は内外面ヨコナ ゲ。 腹部内外面タラ方内ナ ゲ。	1~4 mm 大砂粒含 結晶片石 英	浅黄褐	
447	弥生土器 壺C <sub>1</sub> a	13 覆土	口径20.5	内壁してたちあがる体部から、 屈曲して直立する腹部。 口縁部はゆるやかに外反し、輪 部を半周におさめ、刃目を施す。	口縁部外面タテハケ、内 面ナゲ。 腹部外折ナゲ、内面は左 上リナメハケ。	1~4 mm 大砂粒含 石英	黄緑	
448	弥生土器 壺A <sub>3</sub> ng	覆土	口径27.0	直立する腹部から、ゆるやかに 屈曲して外反する口縁部をも つ。 底部下端には斜尖利点文、1側 縁部は平底におさめ斜張子の刃 目を施す。	口縁部内外面ともヨコ ナゲ。 腹部外側は、一部にタテ ハケが確認できる。 内面はナゲ。	1~3 mm 大砂粒含 石英	浅黄褐	
449	弥生土器 壺A <sub>4</sub> cf	13 覆土	口径26.8	内壁してたちあがる体部から直 立して直立する腹部。 口縁部はゆるやかに外反する。 輪部に刃目を施した断面一舟 形突起を造らす。 口縁部はやや肥厚させ、やや まくおさめる。 体部一舟に、輪部内壁文1点、 輪部底文を4箇所らす。	口縁部内外面ヨコナゲ。 腹部外側はタテハケ。内 面はナゲ。 体部上半外側はタテハ ケ。内面はエビオサエ 痕を多数のこす。	1~4 mm 大砂粒含 石英	浅黄褐	
450	弥生土器 壺E <sub>1</sub>	C-14 7 覆土	口径12.8 体部最大径 28.2	体部内壁してたちあがり、中 部の最大径部分が張る形を呈す。 口縁部は屈曲して、やや開き弧 形にたちあがる。 輪部はやや肥厚しわざかに凹圓 に仕上げる。	I)縁部外側ヨコナゲ。 腹部外側タテハケ、内面 ナゲ。 体部外側上半にタテハケ が一部確認できるが主と してナゲ。 内面も、上半にナゲない し、ナメに、ハケが確 認できる。 エビオサエ痕を全面にの こす。 主としてナゲ。	1~5 mm 大砂粒含 石英 結晶片石 英	(内)暗赤褐 (外)ぶい 赤褐	
451	弥生土器 壺H <sub>1</sub>	覆土	口径18.4	ゆるやかに外反するタッパ状の 口縁部。 輪部は平底におさめ刃目を施す。	口縁部内外ヨコナゲ。 腹部外側タテ方内板ナ ゲ。 内面ヨコ方内板ナゲ。	1~3.5 mm大砂粒 含 石英 結晶片石 英	赤褐	

番号	器種	地点 解説	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
452	弥生土器 壺D.a	覆土	口径24.1 底径14.5 体部最大径 47.2 器高33.5	底面平底の高厚い底足から体部 は内側してたちあがり、最大径 を中位にもつ横円形状をなす。 気泡は前面でやや開き気泡に たちあがり、ゆるやかに外反す る口輪部をもつ。 口輪部は平坦にぎざめ、糞目 を施す。	口輪部内面ヨコナダ。 腹部外面クサハケ、内面 ナダ。 体部外西土としてタテハ ケ、下半・一部タテヘラミ ガキ。 内面は上半と、底面には ビオサニ痕をのこし、側面 はナダ、粘土器の結合痕 を切断にのこす。底部は ナダ。	1~5 mm 大砂粒含 石英 結晶片岩	黒	
453	弥生土器 壺F.	覆土	口径15.0	圓斗状に開く口型。 底部に新面と角形で割目を残す 突起を2箇所残す。 口輪部周囲は肥厚させ、内方にや や堅化しながら縁部は、平底に おさまる。	口輪部外側タテハケ、 内面はヨコカ方向ナダ。	0.5~3.5 mm大砂粒 含 貝介 黄褐色	覆土器 (頭部)	
454	弥生土器 壺	16 覆土	底径5.8 体部最大径 18.4	底面はわずかに上げ底を呈す。 体部は内側にしてたちあがり、中 位に最大径をもつ横円形状を呈 す。 底部はゆるやかに盛面で、面 立突起にたちあがる。	底部から体部上平外側は ナダ。 体部下半外側はタテヘラ ミガキ。 体部内面、上半はタテ方 向のナダを基本としながら、 ビオサニ痕を多く のこし、下半は、タテ方 向のナダ。	1~3 mm 大砂粒含 結晶片岩 石英	(内) 黄灰 (外) 暗 緑	
455	弥生土器 壺	覆土	底径5.3 体部最大径 14.3	底面は平底を呈す。 体部は内側にしてたちあがり、 最大径を中位にもつ横円形状を 呈す。	体部外側、上半はタテハ ケ、下半はタテヘラミ ガキ、内面は、底面突出 のU型によるナダ。	0.5~2 mm大砂粒 含 少量含 石英	(内) オリ ーブ (外) 黄鐵	
456	弥生土器 壺	覆土	底径7.8	底面は平底。底部端はやや外方 に堅化する。 底面間に2孔づつ対に形成前穿 孔。 体部は内壁気泡に外方にたちあ がる。 なお、固化不能であったが、体 部上半と4象限位の筋節跡跡 を残すまた部分的に傾位にも 施している。	体部外側タテ方向ナ ダ、底部周辺はヨコナダ、 内面はナダ。	1~3 mm 大砂粒少 量含 石英	に赤い赤褐色 (?)	人土器
457	弥生土器 壺	覆土	底径8.8 体部最大径 25.5	底面は平底を呈す。 体部は内側にしてたちあがり、球 形形状をなす。	体部外側タテハケ。 内面、底面付近はビ オサニ痕多數のこし。 下半はナダ方向のユビナ ダ。	1~5 mm 大砂粒含 石英	に赤い青褐色	
458	弥生土器 壺	8 覆土	底径10.2	底面はわずかに上げ底を呈す。 頗る厚い底部。 体部は内壁気泡に大きく外方に たちあがる。	体部外側にタテヘラ ミガキを施せるが、 半としてナダ。内面はナ ダ、内壁面にビオサニ 痕をのこす。	1~3 mm 大砂粒含 石英 砂岩	(内) 黄灰 (外) 黄褐色	
459	弥生土器 壺	覆土	底径7.6	底面はやや盛を呈す。 頗る厚い底部。 体部は内壁気泡に外方にたちあ がる。	体部外側はタテヘラミガ キ。 内面・底面はナダ。	1~4 mm 大砂粒含 結晶片岩	(内) 黑褐 (外) 明赤褐色	
460	弥生土器 壺(?)	覆土	底径5.0	底面はややまるい平底。 体部はむずかにくちびれた後、 内壁気泡に外方にたちあがる。	内外面ともナダ。	1~3 mm 大砂粒含 石英 結晶片岩	に赤い赤褐色	

番号	器種	地點 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎土	色調	備考
461	発生土器 盤	覆土	底径7.9	底面は平底、体部は丸錐形に大きく外方にたちあがる。 体部外縁は一部にタテハテミガキが観察できるが、主としてココナツ内面はナダ。底端は板ナア。	体部外縁は一部にタテハテミガキが観察できるが、主としてココナツ内面はナダ。底端は板ナア。	I～3mm 大砂粒合 砂粒	灰褐色	
462	発生土器 盤	覆土	底径7.4	底面は平底、やや丸錐形体。体部は内側気球形に大きく外方にたちあがる。	内外面ともにナダ。	1～3mm 大砂粒合 石英 チャート	(P)白泥質 (外)浅黄褐	
463	発生土器 盤A,ハ	II 覆土	口径22.6	内傾する体部から、「く」の字状に屈曲し、外反する口縫部をもつ。 器底外縁に压痕文を施した跡が尚存を認める。 口縫部はやや肥厚し、平底にさめめた端面にへう状と共にによる凹部を残す。	口縫部内面ココナダ。体部外縁は不明瞭だが細かいタテハケが難窓で、内面も一部にココハケがみられる。	0.5～1.5 mm大砂粒 石英	灰赤褐 青	
464	発生土器 盤A,イ	覆土	口径23.6	内傾する体部から、「く」の字状に屈曲し外反する口縫部をもつ。 口縫部は上方にやや肥厚し、端面は茎部に仕上げる。	口縫部内外面とともにココナダ。体部外縁細かいタテハケ。内面はナダ。	1～3mm 大砂粒合 石英	浅黃褐	
465	発生土器 盤A,ハ	7 覆土	口径28.8	内傾する体部から、「く」の字状に外反する口縫部をもつ。口縫部は厚唇させ、わずかに上方に膨張しながら、刃味をおびた平底に仕上げる。	口縫部内外面とも、ココナダ。体部外縁タテハケ。内面一部にココハケが観察できる。	0.5～2.5 mm大砂粒 合 石英 角閃石	において 発生土器 (盤類)	
466	発生土器 盤A,ロ	覆土	口径18.1	内傾して立ちあがる体部から、「く」の字状に屈曲して大きく外反する口縫部をもつ。 口縫部は上方にやや膨張し、端部はややあいまいに仕切る。	口縫部内外面ココナダ。体部内外面は倒錐のため不明。	1～2mm 大砂粒合 石英	浅黃褐	
467	発生土器 盤A,ロ	覆土	口径15.4	内傾する体部から、「く」の字状に屈曲して外反する口縫部をもつ。 口縫部は上方にやや膨張し、端部はややあいまいに仕上げる。	口縫部内外面ココナダ。体部内外面ナダ。	1～3mm 大砂粒合 石英	灰褐色	
468	発生土器 盤A,イ	覆土	口径20.2	内傾して立ちあがる体部から、ゆるく屈曲して外反する口縫部をもつ。 口縫部は、平底を意識しながらややあいまいに仕上げる。	口縫部内外面ココナダ。体部外縁ナダ。内面ユビオナダ、ナダ。	1～4mm 大砂粒合 石英 結晶片岩	において 発生土器 (外)明褐色	
469	発生土器 盤A,イ	覆土	口径17.1	内傾する体部から、ゆろく屈曲して外反する口縫部をもつ。 口縫部は、平底を意識しながらややあいまいに仕上げる。	口縫部内外面ココナダ。 体部外縁タテハケの痕跡がみうけられる。 内面はナダ。	1～5mm 大砂粒合 結晶片岩 石英	において 発生土器 (外)明褐色	
470	発生土器 盤A,ニ	覆土	口径12.8	内傾する体部から、ゆろく屈曲して外反する口縫部をもつ。 口縫部は、ややまろくくさめる。	口縫部内外面ココナダ。 体部内外面ナダ。	1～3mm 大砂粒合 結晶片岩 石英	(内)黒褐色 (外)明褐色	
471	発生土器 盤A,ニ	覆土	口径18.4	「く」の字状に屈曲して外反する口縫部をもつ。 口縫部は、ややまろくくさめる。	内外面ともにココナダ。	1～3mm 大砂粒合 石英 鋼質母	橙 大砂粒合 石英 鋼質母	

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
472	弥生土器 壺	覆土	—	内壁してたちあがる体部から、 いくつの半状に唇曲して外反す る11個部をもつ。	口縁部内外面ヨコナダ。 体部外ナダ。 内面ヨコ方向ナダ。	1~3.5 mm大砂粒 含	褐色	
473	弥生土器 壺	覆土	底径6.4	底面は平底を呈す。 体部は内凹して外方にたちあが る。	体部外凹、タテヘラミガ キ。 内面はナダ。	1~2 mm 大砂粒含	(内)褐 (外)黒	
474	弥生土器 壺(?)	覆土	底径7.4	底面は凸台状の上げ底を呈す。 体部は直線的に外方にたちあが る。	体部外凹、タテヘラミガ キ。 内面および底面はナダ。	1~4 mm 大砂粒含 石英 長石	にじむ黄橙 鉛入土器 (銀鏡)	

番号	器種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺存 状態	石材	特徴・備考
475	スクリーパー	覆土	5.0	7.5	1.6	59.11	完存	サヌカイト	下辺に刃幅打抜による粗い刃部形成。
476	スクリーパー	覆土	5.6	3.8	1.0	14.89	完存	サヌカイト	下辺打抜によると見われる剝離あり。 右辺鋭いエッジをもつ。
477	柱片状石斧	覆土	13.8	2.2	4.0	286	完存	結晶片岩 (緑色片岩)	全面ていねいに研磨。抉りなし。
478	研石	4.8~ 9.11 覆土	34.2	21.9	8.0	2900	複合	砂岩	4分割で納められる。 被熱。自然面に研磨

第25表 SK1045 出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
479	弥生土器 壺	上面	—	深部開き気味にやや外張してた ちあがる。 上端と下端に所面二角形。 台形の貼付突部をもつ。	胎部外ヨコナダ。 内面ナダ。	1.5~2.3 mm大砂粒 含 結晶片岩 石英	褐色	
480	弥生土器 壺	上面	—	直線的に内傾する体部上半。 卵形の塊に肥厚したマボコ形の 貼付突部をもつ。 尖部から下に櫛目状の凹線文、波 状文、波状文、直線文を施す。	体部外側ナダ。 内面はユビヒサエ、ナダ。	0.5~2.3 mm大砂粒 含 結晶片岩 石英	褐色	
481	弥生土器 壺	蓋土	—	断面二角形の突部を 2 個もつ る。 底部下端。 底部はさらに外方にたちあが る。	内外面ともにナダ。	0.5~2 mm大砂粒 少し含 結晶片岩 石英	黄褐色	
482	弥生土器 壺G	覆土	—	外張気味にたちあがる筒状の壺 部。 上下について円弧文の向きで 判明。 小位に櫛目状の凹線文、直線文が 施される。	外側はタテハケ、内面ナ ダ。	1~5 mm 大砂粒含 結晶片岩 石英	黄褐色	
483	弥生土器 壺B, Ia	覆土	1往19.9	わずかに内嚢して直立気味にた ちあがる体部があるく筋曲して 外張する短い直筒をもつ。 1往細部は、平底におさめる。 閉鎖を施しているような痕跡も みえらが不明。	口縁部・体部とも、外側 は剥離のため不明。内面 はナダ。	1~3 mm 大砂粒含 結晶片岩 石英	黄褐色	

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎土	色調	備考
484	陶生土器 型A,イ	覆土	口径16.4	内窓気体にたちあがる体部から、ゆくに屈曲して外反する口縁部をもつ。 口縁端部は平坦におさめる。	内外面ともに刻離のため不明。	1~2mm 大砂粒合 結晶片岩 石英	にい黄緑	
485	陶生土器 型A,カ	覆土	口径10.6	内窓する体部から「く」の字状に屈曲して、外反する口縁部をもつ。 口縁端部は平坦におさめ、刻目を施す。	口縁部外縁ユビオサム。 内窓ナダ。 体部内外面ともナダ。	1~3mm 大砂粒合 結晶片岩 石英	浅黄緑	
486	陶生土器 鉢	覆土	底径8.5	底面は平底を呈す。 体部は内窓気体にわずかに外方にたちあがる。	体部外縁クテヘラミガキ。 底部下端にユビオサム、底面、内窓はナダ。	1~4mm 大砂粒合 結晶片岩 石英	赤褐色 黒	黒赤あり。
487	陶生土器 鉢(?)	覆土	底径8.5	底面は平底を呈す。 体部は直線的に外方にたちあがる。	体部外縁クテヘラミガキ。 底面および内窓はていねいなナダ。	0.5~2mm 大砂粒合 結晶片岩 石英 泥片	黒	

第26表 SK1049 出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎土	色調	備考
488	陶生土器 型Aef	A、B 覆土	底径6.0 体部最大径 32.2	底面は上げ底を呈す。 体部は内窓してたちあがり、ややいびつなイナヅク形を呈す。 腹部はゆるやかに屈曲して窓なし、「縫隙」は、さらにゆるやかに屈曲して外反する。 縫隙部から体部上端にかけて、縫隙の縫縫文、波状文、直線文、円弧文を施す。	口縁部外縁ヨコナダ。 底部内外縁クテ方角ナダ。 内窓は、スピオサエ、ナダ。 下平、外縁は、ニビナダ、内窓ナダ。	1~5mm 大砂粒合 結晶片岩 石英	黒	A、B共 の結合品 (?)
489	陶生土器 型B	A、B 覆土	口径17.1 底径8.0 体部最大径 39.0 高さ(39.0)	底面は上げ底を呈す。 体部は内窓小孔にたちあがり、上位急膨脹部から大きく内窓する側脚形を呈す。 口縁部はゆるやかに屈曲して、ほぼ直立する。 口縁端部はまるくあいまいにおさめる。	口縁部内外縁ヨコナダ。 底部内外縁にユビオサム痕あり。底面ナダ。	1~6mm 大砂粒合 結晶片岩 石英	黒 下位にコ グクキ底 あり	

番号	器種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺存状態	石 材	特徴・備考
490	磁石	A 上層	29.1	21.5	9.2	7500	光存	砂質	自然面の3面に面鏡。 特に表裏面については、凹面を呈し石柱状をなす。

第27表 SK1168 出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎土	色調	備考
491	陶生土器 型(?)	覆土	底径6.8 孔径(1.8)	底面中央に帆成窓穿孔あり。底面は半球を呈し、体部は内窓味に大きく外方にたちあがる。	内窓等ともナダ。	1~4mm (内)暗点状 (外)赤 結晶片岩		

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎土	色調	備考
492	陶生土器 壺(?)	覆土	口径8.5	底面は平底を呈す。 体部は直線的に外方にたらあがる。	内外面ともナグ。 底面はケズリ。	1~4 mm 大砂粒含 石英 結晶片岩	(内)灰赤 (外)棕	

第28表 SK1178 出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎土	色調	備考
493	弥生土器 壺A <sub>1</sub> a	覆土	口径14.7	大きく外反する口縁部。 口縁部はやや下方に試撲し平 底におさめる。 施感には刻目を残す。	内外面ともにナグ。	1~5 mm 大砂粒含 結晶片岩 石英	棕	
494	弥生土器 壺A <sub>1</sub> a	覆土	口径13.6	外反する口縁部 口縁部はやや肥厚させ、平坦 におさめるが、下端にD字形の 刻目を残す。	内外面ともにナグ。	1~2 mm 大砂粒含 結晶片岩	赤褐	
495	弥生土器 壺F <sub>1</sub>	覆土	口径12.9	外縁気味に直立する頸部から直 線的に外反する口縁部をもつ。 口縁部をやや肥厚させてある くおめ、細状の尖起を2つづ つ4ヶ所に施す。 口縁に断面三角形の貼付側帶 をめぐらし、上部突堤には、傳 統工具による鋸い跡目を残す。	施感のため、内外面とも 不明。	1~5 mm 大砂粒含 結晶片岩 石英	灰	2次焼成 か。土器 変質
496	弥生土器 壺A <sub>1</sub> c	覆土	口径29.3	内側してたらあがる体部から 「く」の字状に屈曲して外反す る口縁部をもつ。 口縁部はまるくおさめる。	III級部内外面ともヨコナ グ。 体部外側はココロヘタ ミガキ。 内面ナグ。	1~4 mm 大砂粒含 石英 結晶片岩	明赤褐	
497	弥生土器 壺A <sub>1</sub> c	覆土	口径43.4	内縁気味にたらあがる体部から 屈曲して外反する口縁部をもつ。 口縁部はまるくおさめる。	口縁部は内外面ともにナ グ。 体部外側は、ヨコ方向ナ グ。 ていねいに仕上げてい る。 体部内面はヨコヘタミガ キ。	1~8 mm 大砂粒含 石英 結晶片岩	棕	
498	弥生土器 壺A <sub>1</sub> i	覆土	口径33.8	内縁気味にたらあがる体部から 「く」の字状に屈曲して、外反 する口縁部をもつ。 口縁部は平坦におさめる。	II級部内外面ヨコナグ。 体部外側ヨコ方内ミガ キ。 内面はナグ。	1~3 mm 大砂粒含 石英 結晶片岩	赤	
499	弥生土器 壺A <sub>1</sub> i	覆土	口径30.8	内縁気味にたらあがる体部から 「く」の字状に外反する口縁部 をもつ。 II級部は丸くおさめている。	II級部、体部の内外面と も、ナグ。 ていねいに仕上げてい る。	1~5.5 mm 大砂粒含 石英 結晶片岩	(内)棕 (外)灰褐	
500	弥生土器 壺A <sub>1</sub> h	覆土	口径39.8	内側してたらあがる体部から 屈曲して外反する口縁部をも つ。 口縁部はやや肥厚させて、平 坦におさめる。 側面外側に板状工具で突口をつ けた突堤を貼付している。	内外面とも剥離感しく、 不明。	1~3 mm 大砂粒含 石英 結晶片岩	棕	
501	弥生土器 鉢A <sub>1</sub>	覆土	口径34.6	内側してたらあがる体部から折 曲して小さく外反する口縁部を もつ。 口縁部は平坦におさめる。	内外面とも剥離のため不 明	1~3 mm 大砂粒含 石英 結晶片岩	棕	

番号	器種	地點 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎土	色調	備考
502	衛生土器 鉢A	覆土	口径19.5	体部は内側してちあがり、や や肩をほる。 口縁部はゆるく畳曲して、外反 する。 口縁部は半周におきめる。	内外面ともナゲによる。	1~2mm 大砂粒合 石英 結晶片岩	(内)明赤褐 (外)橙	
503	衛生土器 鉢	覆土	底径8.9	底面は半球を示す。 体部は内側気味に大きく外方に ちあがる。	内面は、ていねいなヘラ ミガキ。 体部外折および底面は、 ナゲ。	1~4mm 大砂粒合 結晶片岩 チャート	にぶい橙	
504	衛生土器 鉢	覆土	底径7.0	高台状の上げ底を呈す。 底面は内側に比してうすい。 体部は内側気味に大きく外方に ちあがる。	体部外面および底面はナ ゲ。 体部内面は下部にヒビ ナゲ。上半はていねいな ナゲ。	1~6mm 大砂粒合 結晶片岩	橙	
505	衛生土器 鉢	覆土	底径10.0	底面は半球を呈す。 体部は直線的に外方にちあが る。	体部外面上から、ヨコへ リミガキ。 右上りへヒミガキ、ヨ コナゲ。 外縁部内側で、擦損して いる。	1~3mm 大砂粒合 結晶片岩 石英	明赤褐	

番号	器種	地點 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺存 状態	石 材	特徴・備考
506	スクレイパー	覆土	3.1	3.3	0.8	8.21	完存(?)	サヌカイト	下刃、端刃を使用。 使用による刃辺に削れとおもわれる痕跡 あり。
507	スクレイパー	覆土	5.0	5.1	1.5	15.23	完存(?)	サヌカイト	刃辺は自然削、刃辺は鋸歯形。 下刃に生糸剥離痕から片側剥離による刃部形成。
508	打脱石刀丁	覆土	11.8	4.7	0.8	50.0	完存	結晶片岩 (正)葉片岩	欠損品の集合。 間隔わずかに挟りあり。
509	小型方柱状 片刃石斧	覆土	5.9	1.4	1.0	6.98	左側欠損 (?)	観察	表面は器員の化石化あり。 刃部の片面を中心的に研磨。 多くは自然面ないし、剝離面。

第29表 SD1001 出土遺物観察表

番号	器種	地點 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎土	色調	備考
510	衛生土器 鉢Af	覆土	—	内寄する体部からゆるやかに屈 し、内立する腰部につづける。 腰部に、へり状の月足状による 凹立文、体部上半に横筋波状文 が確認できる。	全面に剥離感しいが、頬 部、体部外面は、一帯で ナゲハマが確認できる。 内面はナゲ。	1~5mm 大砂粒合 合 結晶片岩 石英	(内)灰白 (外)橙	
511	衛生土器 鉢	覆土	底径8.2	底面は上げ底を呈す。 体部は内寄して大きく外方にた ちあがる。	体部外面ナゲ。 底面および内面はユビオ サエ、ナゲ。	1~3mm 大砂粒合 結晶片岩 石英	(内)灰黄褐 (外)橙	
512	衛生土器 鉢	覆土	底径9.0	底面は丸底を呈す。 体部は外寄気味にくびれて大き く外方にちあがる。	内外面ともにナゲ。	1~5mm 大砂粒合 結晶片岩 石英	にぶい黄橙	
513	衛生土器 鉢A, n	覆土	口径27.3	内寄する体部から、くの字状 に外反する口縁部をもつ。	口縁内外面ヨコナゲ。 体部外面ナゲ。	1~3mm 大砂粒合	(内)にぶい 黄褐	

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
				口縁部はやや丸味をもびながら、平底におさめる。		結晶片岩 石英	(外) 橙	
514	弥生土器 甕A.イ	覆土	口径22.9	内側する底部から、「く」の字次に掘削して外張するU縁部をもつ。 口縁部は平底におさめる。	U縁部内外面コナデ。 体部内外面ナデ。	1~3mm 大砂粒含 結晶片岩 石英	明黄緑	
515	弥生土器 甕	覆土	底径6.1	底面は平底を呈す。 体部は直線的に外方にたちあがる。	体部外面は、タテヘラミ ガキ。 底面外面コナデ。 底面はていねいなナデ。 内面はナデ。	1~3mm 大砂粒含 結晶片岩 石英	(内) 暗灰 (外) 明赤褐	

第30表 土壌・土坑(弥生時代)出土遺物観察表(土器、土製品と石器は別に記載)

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
518	弥生土器 甕(?)	SK1029 覆土	底径8.2	底面は平底を呈す。 体部は外側側面にくびれて、外方にたちあがる。	内外面ともにナデ。 内面底部にスピオサエ痕 のこす。	1~4mm 大砂粒含 結晶片岩 石英	(内) にじい 黄緑 (外) 橙	
519	弥生土器 甕	SK1029 覆土	底径5.1	底面は高台状の上げ底を呈す。 体部はわざかに内側気味に外方にたちあがる。	体部外面はタテヘラミガ キ。 底面外面はココナデ。 底面はナデ。 内面はヨコ方向を中心とする横ナデを基本とする が、スピオサエ痕も多く のこす。	0.5~2mm 大砂粒含 結晶片岩 石英	(内) 暗灰 (外) 暗褐	
524	弥生土器 甕(?)	SK1051 覆土	底径10.0	底面は平底を呈す。 体部は底部から底面から、直線的に外方にたちあがる。	体部外面は、削削のため 判然としないが、タテヘ ラミガキであったように みられる。 内面および底面はナデ。	1~4mm 大砂粒含 石英 結晶片岩	青	無斑あり
527	弥生土器 甕	SK1057 覆土	底径10.8	底面は平底を呈す。 体部はややくびれたのち、内側 気味に大きく外方にたちあ がる。	体部外面はタテヘラミガ キ、底部外面および、底 面はナデ。 内面はナデが主である が、底面にくもの虫状に ハケを残す。	1~3mm 大砂粒含 結晶片岩	(内) 暗灰 (外) にじい 青	
528	弥生土器 甕	SK1062 覆土	底径2.5	底面は平底を呈す。 体部はわざかに内側気味にたちあがる。	底部外面は単位の短いタ テヘラミガキ。底面はナ デ。 内面は横ナデと考えられ る。	1~2mm 大砂粒含	(内) 暗青 (外) 橙	ミニチュ ア
529	弥生土器 甕(?)	SK1062 覆土	底径4.3	底面はほぼ平底を呈す。 底面の底部から体部には、直立氣 味にたちあがる。	内外面ともナデ。 底面外面一部にスピオサ エ痕のこす。	1~2mm 大砂粒含 石英 結晶片岩	青	
530	弥生土器 甕	SK1062 覆土	底径5.7	底面は平底を呈す。 体部はほぼ直線的に外方にたちあがる。	体部外面はタテヘラミガ キ。 底面おこび内面はナデ。	1~2mm 大砂粒多 く含 石英 結晶片岩 泥石	(内) にじい 黄緑 (外) 橙	
531	弥生土器 甕	SK1063 覆土	—	内側して立ちあがる体部上半。 上から柳條の水波紋、波状紋、	外西ナデ。 内面スピオサエ痕多数の	0.5~2mm 大砂粒 含	(外) にじい 青褐 (暗紅)	織入土器 (暗紅)

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎土	色調	備考
				直線文を施す。	こる。	多く含 灰石 角閃石	(内)オリ ーブ褐	
533	弥生土器 兼A,e	SK1069 覆土	口径18.6	やや外方に聞く部類から。 ゆるやかに外反するL1縁部をもつ。 底部に輪攝状文、直線文を施す。	内外面とも削製のため不明。	1~4 mm 火炒粒含 石英 結晶片岩	褐	
534	弥生土器 兼	SK1069 覆土	底径6.1	底面は平底を呈す。 体部は直線的に外方にたちあがる。	外表面は幅広のタテハラミ ガキ。 内面はナデ。 底面はナテ。	1~4 mm 火炒粒含 石英 ナイト	褐	
536	弥生土器 兼A,	SK1075 覆土	口径9.7	ゆるやかに外反する口縁部。 口縁底部はわずかに肥厚させながら、平底におさめる。	外表面ともナデ。	1~5 mm 大砂粒含 結晶片岩 石英	褐	
537	弥生土器 兼A,二	SK1075 覆土	口径15.8	体部から脛く外反する口縁部。 口縁底部はやや丸味をおびた平底。	内外面ともにナデ。	1~3 mm 大砂粒含 石英	褐	
550	弥生土器 兼A,口	SK1132 覆土	口径17.8 底径5.5 体部最大径 (23.3) 脚窓(32.9)	底面は平底を呈す。体部は内側 50mm外方にたちあがり、倒錐 形を呈す。 弯曲して外反する口縁部をもつ。 口縁底部は、わずかにつまみあ げ、外面は平滑におさめる。	L1縁部内外面はココナ ダ。 体部外端上半はタテハケ のちヨコないし、左下リ ハケ。 下半はタテハケを所ね る。 底面もハケとナデによ る。 体部内面下半はタテヘラ ケズリ、上半はヨコまたは 左上右のヘラケズリ。 いずれもいねいに削り 単位があえにくく。	1~3 mm 大砂粒含 結晶片岩 石英	にぶい褐	
551	弥生土器 兼A,	SK1157 覆土	口径14.2	直立する部類から、ゆるやかに 外反するL1縁部をもつ。 口縁底部は平底におさめる。	内外面ともにナデ。	1~4 mm 大砂粒含 結晶片岩 石英	(内)赤 (外)にぶ い黄	
552	弥生土器 兼	SK1137 覆土	底径6.5	底面はわずかに上げ度を呈す。 体部は直線的に外方にたちあが る。	内外面ともナデ。	1~3 mm 大砂粒含 石英 結晶片岩	赤	
553	弥生土器 並(?)	SK1139 覆土	底径7.8	底面は平底を呈す。 体部はわずかに内側気味に外方 にたちあがる。	内外面とも削製のため不明。	1~7 mm 大砂粒含 結晶片岩 石英	(内)明褐 (外)褐	
554	弥生土器 兼	SK1164 覆土	底径7.1	底面は平底を呈す。 体部は直線的に外方にたちあが る。	体部外端一部にタテヘラ ミガク度をのこすが、ナ デが主体。 底面はケズリ。内面はナ デ。	1~3 mm 大砂粒含 結晶片岩 石英	(内)にぶい 黄 (外)褐	
556	弥生土器 兼A,e	SK1171 覆土	口径14.3	体部から、ゆるやかに外反する 口縁部をもつ。 口縁底部はやや丸味をおびてい るが平坦におさめる。 底部に直線文を施す。	底部外表面はタテハケのち 直線状。 口縁底部はハケ状工具によ るナデ。 L1縁部内面はココナ ダ。	1~2 mm 大砂粒含 石英	淡黄褐	

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
557	弥生土器 壺A'	SK1171 覆土	口径16.0	体部からゆるやかに底面に移行し、口縁部はゆるやかに外反する。 口縁部は平滑におさめる。	内外側とも剝離により不明。	1~3mm 大砂粒合 石英 結晶片岩	淡黄緑	
558	弥生土器 壺A'	SK1171 覆土	口径17.2	直立する圓筒から、ゆるやかに斜面して、外反する短い口縁部をもつ。 口縁部は粗面で傷深いが、まるくおさめているものと考えられる。	内外側とも剝離激しく不明。	1~4mm 大砂粒合 石英 チャート 結晶片岩	にほい黄緑	
559	弥生土器 壺Ae	SK1171 覆土	頸部径7.8	体部は内弯してたちあがり、頸部はほぼ直立する。 頸部に標榜直線文を2重にめぐらせていている。	外側は、模様部分以外は剝離のため不明。 内面・底面上半に指オサエ痕多数残る。	1~2mm (内)灰褐色 (外)緑		
560	弥生土器 壺	SK1171 覆土	底径9.8	底面は底面を呈す。 体部はわずかに内弯気味に大きく外方にたちあがる。	体部外側はタテハケのちナデ。 底面はナデ。 内面は剥離はげしいがナデと思われる。	1~4mm 大砂粒合 石英 結晶片岩	にほい黄緑	
561	弥生土器 壺	SK1171 覆土	底径8.5	底面はほぼ平底を呈す。 体部は内弯して外方にたちあがる。	体部外側は強いナデにより各面に後をのこす。 内面は、ユビオサエ痕が多く、外側接合部が顯著である。	1~4mm 大砂粒合 石英 チャート 網空目	にほい黄緑	
562	弥生土器 壺	SK1171 覆土	底径8.3	底面はやや上げ底を呈す。 体部はわずかに内弯しながら外方にたちあがる。	内面と木板状工具と擦によるナデ。	2~3mm (内)灰褐色 (外)にほい黄緑		
563	弥生土器 壺	SK1171 覆土	底径6.5	底面は平底を呈す。 体部はやや内弯気味に外方にたちあがる。	内面と木板状工具と擦によるナデ。	1~4mm 大砂粒合 石英 結晶片岩	赤	
564	弥生土器 壺(?)	SK1171 覆土	底径5.9	平底を呈し、体部は外方にたちあがる。	底面内盤状に整え、その上に体部つみあげ。	2~3mm 赤 大砂粒合 石英 結晶片岩	赤	
565	弥生土器 壺(?)	SK1171 覆土	底径4.3	底面は平底を呈す。 体部はわずかに外側気味に外方にたちあがる。	内面とともにナデ。 底面内側の粘土無充填處を観察できる。	1~2mm (内)褐色 大砂粒合	(内)褐色 (外)にほい黄緑	
567	弥生土器 壺(?)	SK1174 覆土	底径10.9	底面はわずかに上げ底を呈す。 体部はわずかにくびれをもちながら、内弯気味に外方にたちあがる。	体部外側はタテハクミガキとナデによる。下端のわざかにくびれた部分の窓型位置のミガキが特徴的。内面および底面はナデ。	1~8mm 大砂粒合 石英 結晶片岩	(内)灰褐色 (外)緑	灰褐色あり
568	弥生土器 壺B,c	SK1175 覆土	口径21.0	体部から、ゆるやかに斜面して、タップ状に開く長い口縁部をもつ。 口縁部はわずかに肥厚し、底面は凹面に仕上げる。 頸部・体部の縁に、新月二角形の刻印突唇を2条残りつける。	全面剝離激しいが口縁部内外側にリコナデ。 底面は内側の一端にタテハケを残すが、主として内外面ともナデ。 体部ナデを主とし、内面にユビオサエがみられる。	1~6mm 大砂粒合 結晶片岩 石英	(内)綠	

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
569	骨を主 要A,イ	SK1175 覆土	L1径35.1	内輪外輪に直立する体部から屈曲して外反する短いU縫部をもつ。	内外面とも側面のため平 明。	1~6mm 人糞粒多 く含 石英 結晶片岩	明黄褐	
570	発生土器 (?)	SK1175 覆土	底径7.6	表面は平底をめぐる。 体部は直線的に外方にちあがる。	内外面ともに側面のため不 明。 底部輪郭が板状である。	1~6mm 大糞粒多 く含 石英 結晶片岩	(内)浅黄 (外)青	
571	深井上器 体A	SK1176 覆土	底径4.0	直立する底部から、体部は内輪 窓跡に外方にちあがり、ゆる やかに屈曲してU縫部につづ く。	底部外輪ナデ。体部外輪 は開いた窓跡のクサヘラミ ガキを中心にして下りと上 りで繋げできる。 U縫部外輪面は、ナデ とヨコヘラミガキの併 用。 内面は板ナデとみられ る。	1~2mm 大糞粒多 く含 石英 結晶片岩	(内)明黄褐 (外)青	
573	発生土器 体B,二	SK1188 覆土	口徑29.8	ゆるやかに傾斜して外反する口 縫部。 窓跡はまるくおきめる。	内外面とも側面のため不 明。	1~8mm 大糞粒多 く含 石英	青	体部の破 片が多く 存在す る。

番号	器種	地点 層位	長軸 (cm)	短軸 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	胎土	色調	備考
541	土解防護査	SK1127 覆土	3.2	2.8	0.6	0.6	6.44	1~2mm大 糞粒多 く含 ナデト	に赤い褐色	未確認 土解防護査利用。 外向より孔を穿つ連中の もの。
572	上製内板	SK1176 覆土	6.1	4.6	0.8		18.46	1~3mm大 糞粒多 く含 石英 結晶片岩	青	無孔であるが、土解防 護査の内側をもめて、内板 部に仕上げたものと思わ れる。

番号	器種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	保存 状態	石材	特徴・備考
516	柱状片岩石斧	SK1017 覆土	(2.9)	(3.1)	3.3	286	刃部欠損 (緑色片岩)	結晶片岩 (緑色片岩)	全面ていねいに研磨。表面はまるく穂 がはつきりしない。表面中央部に弱い 敲打痕多数のこぶ。
517	砾石	SK1028 覆土	15.6	11.3	7.8	(1910)	周縁欠損 砂岩	投擲 自然面の一面に弱い凹面と粒状の敲打 痕。	
520	石錐	SK1029 覆土	2.2	1.3	0.4	1.05	完存	サスカイト	凹面無基。
521	スクレイパー	SK1029 覆土	5.8	5.7	1.3	39.09	完存(?)	サスカイト	下端粗い両面削型による刃端形成。
522	叩片	SK1029 覆土	(12.1)	3.6	2.6	(184)	火燐	結晶片岩 (緑色片岩)	棒状の自然面の中央部に粒状の敲打 痕。下端部も敲打に利用か。
523	砾石	SK1034 覆土	(20.9)	12.6	5.5	(2000)	一部欠損 砂岩	投擲 自然面の3面に砥面。裏裏面は、入念 に砥ぎ凹面をなす。 側面の裏面は凸面。	
525	打製石地丁	SK1051 覆土	(5.6)	(3.9)	(0.7)	(18.0)	欠損品	結晶片岩 (石英片岩)	

番号	器種	地點 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	保存 状態	石 材	特徴・備考
526	磨製石斧?	SK1051 覆土	(6.9)	(8.4)	(4.3)	(402)	破片	ハンレイ岩	未製品か。 芯のよい白鶴石の逆打を敲打。 敲打箇所を一列ずつ。
532	小形圓平石斧 (?)	SK1068 覆土	(5.2)	3.3	0.85	(2.32)	欠損(?)	結晶片岩 (緑色片岩)	小形の磨製石斧の未製品か。 縫合からの敲打により成形された段階。
533	打製石庖丁	SK1069 覆土	(5.0)	(4.4)	(1.1)	(41)	欠損	結晶片岩 (緑色片岩)	縫合の抉り認められず。
538	石錐	SK1082 覆土	1.7	1.1	0.2	0.54	完存	サヌカイト	平基無基。
539	叩石	SK1109 覆土	(6.5)	(4.4)	(1.8)	(102)	欠損	結晶片岩	扁平修形の自然な光輪部に弱い敲打痕と擦痕あり。
540	砾石	SK1111 覆土	(9.2)	(5.8)	(1.4)	(112)	欠損	結晶片岩 (緑色片岩)	1面を剥離とする。左辺の敲打の状況から、石庖丁または磨製石斧に近用途中のものか。またはその逆。
542	石錐	SK1127 覆土	1.8	1.4	0.25	0.81	完存	サヌカイト	凹基無基。
543	石錐	SK1127 覆土	(1.3)	(1.5)	0.5	(1.07)	先端欠損	サヌカイト	平基無基。
544	石錐	SK1127 覆土	(2.1)	1.8	0.3	(1.37)	先端欠損	サヌカイト	平基無基。
545	楔形石器(?)	SK1127 覆土	2.3	1.5	0.45	1.74	—	サヌカイト	左右辺は裁断面。 (両面削除による剥離とも見え、石錐片の可能性もある。)
546	楔形石器	SK1127 覆土	1.8	2.0	0.6	2.83	—	サヌカイト	下辺は斜面打汰による。 他辺は裁断面。
547	楔形石器	SK1127 覆土	3.2	2.7	0.5	5.44	—	サヌカイト	上辺および左辺は裁断面。 下辺は斜面打汰によるもの。
548	打製石庖丁	SK1127 覆土	(2.3)	(3.7)	(0.5)	(6.0)	欠損品	結晶片岩 (石英片岩)	抉りあり。
549	叩石	SK1129 覆土	7.1	6.7	4.8	328	完存	ハンレイ岩	表面と側縁をを中心に粒状、粒状の敲打痕が観察できる。円錐削出。
555	大型始刃石斧	II区 SK1164	14.5	6.3	(3.5)	(520)	欠損	結晶片岩 (緑色片岩)	全面敲打による。 芯部後、刃部と基部端を中心研磨。 基部付近には、敲打痕のこ。
566	磨製石斧	SK1171	(22.9)	(7.9)	(5.7)	(1850)	欠損	結晶片岩 (緑色片岩)	未製品。 大型始刃石斧の未製品とみられる。 全面敲打。被熱。

第31表 柱穴・小穴(弥生時代)出土遺物観察表(土器と石器は別に記載)

番号	器種	地點 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎土	色調	備考
574	弥生土器 器	SP1343 覆土	通径9.0	底面は平底を呈す。 体部はやや内側気味に、外方に膨らむ。 なま、肉厚不均であるが体部上平～側面に、2列の竹管文が觀察できる。	体部外面、内面は、タテハケの痕跡を有する。 底面については、ナデ。成形時の粘土細度が観察できる。 円盤上に輪積み、外側接合。	1～5mm 大粒粒合 芯高 チャート 泥岩	灰黄	

番号	器種	地点 部位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎上	色調	備考
575	先生土器 甕B <sub>1</sub> -2	SP1343 覆土	口径21.6	内側してたちあがる体部から、ゆるやかに反曲して外反する短い口縁部をもつ。 口縁端部は削離しているが、その形状から丸くおさめているものと考えられる。	内外面とも削離のため不明。	1~3mm 大砂粒含 石英 結晶片岩	棕	
576	先生土器 甕	SP1343 覆土	直径6.4	底面は平底を呈す。 体部は、むろかに外壁気味にたちあがる。	体部外面はクテヘラミガキのちナデ。 底面はナデ。内面はダテヘラミガキ。	1mm~1 cm 大砂粒 含 石英 チャート	(外)棕 (内)赤灰	
577	先生土器 甕G(?)	SP1371 覆土	口径10.8	一方の底面破損のため、上下不对称。 開口部で、両側面、ゆるやかにラッパ状に外反する。	外側はナデ。 内面にユビオサエ痕と、ヨコハケの痕跡をなす。	1~2mm 大砂粒含 石英	淡青	
578	先生土器 甕	SP1699 覆土	底径8.2	底面は平底を呈す。 体部はむろかに外壁気味ににくれをもつたもの、内壁全体に外方にたちあがる。	内面もナデ。 底盤中央に内面より粘土光沢し、成形の痕跡あり。	1~5mm (内)浅青 (外)にぶい 黄緑		
581	先生土器 甕A <sub>1</sub> -1	SP1880 覆土	口径15.0	内壁気味にたちあがる体部から底面に近い角度で屈曲して外反する口縁部をもつ。 口縁端部は平底におさめる。	体部外面に、ハケ状の痕跡をむろかに残すが主にナデ。 口縁および体部下面はナデ。	1~3mm 大砂粒含 石英 結晶片岩 チャート	淡黄褐	
585	先生土器 甕A <sub>1</sub>	SP1552	口径12.4	やや外方に開き気味の瘤部から、ゆるやかに削離して外反する口縁部をもつ。 口縁端部は平底におさめる。	底盤外面にクテハケの痕跡をなす。口縁部外周はナデ。 内面はナデのようであるが、やや削い仕上げの感がある。	1~5mm 大砂粒含 石英 結晶片岩	棕	
586	先生土器 甕(?)	SP1548 覆土	底径12.0	底面は上げ度を呈す。 底面端部は外方に張り出し、内側して、体部は外方にたちあがるものと考えられる。	内外面とも削離はげしく不規則。	1~4mm 大砂粒含 石英 結晶片岩	赤褐	

番号	器種	地点 部位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺存 状態	石材	特徴・備考
579	柱状片岩斧	SP1748 覆土	14.2	1.7	3.8	158	充存	結晶片岩 (緑色片岩)	未製品。 自然石を利用して、敲打による成形後、表面、刃部の一部を研磨。
580	木型付刃石斧	SP1762 覆土	17.9	(5.2)	(3.8)	(575)	半分欠損	結晶片岩 (緑色片岩)	ほぼ全面研磨。破損後芯石として利用か。 棒状の敲打痕集中。
582	石劍	SP1273 覆土	2.5	1.0	0.3	(6.50)	一部欠損	チヌカイト	凸基無葉。木茎形。
583	石劍	SP1389 覆土	(3.3)	1.1	0.3	(1.50)	先端欠損	チヌカイト	平基無葉。
584	楔形石器	SP1361 覆土	2.7	1.4	0.6	2.35		チヌカイト	左辺は裁断面。右辺は半分裁断面。半分は二枚打立てで、鋸角を線彫り形成。 下辺は芯證と同様。上辺は、両面打刃による鋸角な構造。

第32表 SR2001 出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
587	弥生土器 皿A <sub>1</sub>	4区 覆土	口径18.0	外縁でたちあがり、ラッパ状にひらく口縁部。 口縁部はわずかに下方に肥厚し、平底におさめる。	内外面とも剥離のため不明。	1~2mm 大砂粒含 石英 結晶片岩	浅青色	
588	弥生土器 皿A <sub>2</sub>	4区 覆土	口径16.1	外縁でたちあがり、ラッパ状にひらく口縁部。 口縁部はややふくらみをもつて平底におさめる。	口縁部外面は剥離のため不明。 内面はナデ。	1~6mm 大砂粒多 <含 石英 結晶片岩	褐	
589	弥生土器 皿A <sub>3</sub>	4区 覆土	口径22.2	外縁でたちあがり、ラッパ状にひらく口縁部。 口縁部はわずかに肥厚し、平底におさめる。	内外面ともに剥離のため不明。	1~9mm 大砂粒多 <含 結晶片岩 石英	褐	
590	弥生土器 表A <sub>1</sub>	4区 M-11 覆土	口径17.8	内側する体部から、外縁でたちあがり、ラッパ状にひらく口縁部。	内外面とも剥離のため不明。	1~5mm 大砂粒含	に赤い黄緑	
591	弥生土器 皿A <sub>5</sub>	4区 K-12 L-12 覆土	底径9.1 体部最大径 23.1	わずかに上げ高の薄厚い底盤。 体部は内側して、外方にたちあがり、薄厚で最大底位置の低い形状です。 さらにもうかるやかに外縁で底盤につながるが、底盤はおさまるものか、さらにのびるもののか鋸歯はげしく不明。	頬部および体部上半は剥離のため不明。 体部外縁下半にはタテヘラミガキと、タテハケの双方が確認できる。 底部外縁、底盤、内面はナデ。	1~5mm (内)褐灰 (外)灰白		
592	弥生土器 表A <sub>2</sub>	4区 L-12 覆土	—	外縁気味にたちあがる彫刻。 底盤下部に櫛目痕跡文をめぐらす。	底盤内外面ともナデ。	1~4mm 大砂粒含 結晶片岩 石英	灰白	
593	弥生土器 皿	4区 M-12 覆土	底径8.2	底面は高台状の上げ底を呈す。 体部はややくびれたたち内縁氣味に外方にたちあがる。	体部外縁、剥離のため不明。 内面はナデ 底盤外縁ユビオサエ。底面もユビオサエ。ナデ。	1~8mm 大砂粒含 結晶片岩 石英	に赤い褐	
594	弥生土器 皿	4区 覆土	底径5.6	底面は上げ底を呈す。 体部は削れ氣味に外方にたちあがる。	体部は内外面ともナデ。 外縁面ナデ、内底面にユビオサエ痕あり。	1~5mm (内)に赤い 黄緑 (外)褐		
595	弥生土器 皿	4区 覆土	底径8.4	底面はや底を呈す。体部は削れ氣味に外方にたちあがる。	体部外縁が剥離しないが、 ヘラミガキに特有な剥がれ方をしている。底盤ナデ、内底面ユビオサエ痕多数のこ。	1~5mm 砂粒含 結晶片岩 石英	(内)褐灰 (外)褐	
596	弥生土器 皿	4区 L-12 覆土	底径7.6	底面は平底を呈す。 体部は直線的に外方にたちあがる。	外面は剥離のため不明。 内面はナデ。	1~6mm 大砂粒含 結晶片岩 石英	(内)黄褐色 (外)褐	
597	弥生土器 皿	4区 L-12 覆土	底径10.1	底面は平底を呈す。 体部は内側して、大きく外方にたちあがる。	体部外縁タテヘラミガキ。 底盤外縁コナデ。 底面、内面ナデ。	1~7mm 大砂粒含 結晶片岩 石英	に赤い褐	
598	弥生土器 皿B <sub>1</sub> , <sub>2</sub>	4区 M-12 覆土	口径17.9	直立気味にたちあがる体部から、ゆるく彫曲して外反する。 いわゆる如意形口縁を呈す。	II縁部・体部とも内外面ナデ。	1~3mm 大砂粒含 石英	明赤褐	

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎土	色調	備考
				口縁部は、まるくあいまいにおさる。		結晶片岩		
599	衛生土器 型C <sub>1</sub> 二	4区 L-11・12 覆土	口径12.3 底径4.8 体部最大厚 11.3 高さ(14.1)	底面はほぼ平底を呈す。 体部は内凹してたわみがあり、傾 斜して外反する型。口縁部をも つ。口縁部はまるくあいまいにおさ る。	口縁部外側ナダ。体部 上半は、外側は傾斜的た め小窪。内面はナダ。下 半の外側はテラヘルミガ キ。内面はナダ。 底部外側、底面はナダ。	1~3mm 大砂粒含 結晶片岩 石英	(外)灰 褐色 (内)灰 色	
600	衛生土器 型	4区 覆土	底径5.2	底面は上げ底を呈し、体部はや やくびれて、直線的に外方にた ちあがる。	体部外側タテハラミガ キ。 底面外側ココナダ、底面 ナダ。内面ナダ。	1~3mm 大砂粒含 結晶片岩 石英	橙	
601	衛生土器 型	4区 覆土	底径6.0	底面は平底を呈す。 体部は内凹気味に外方にたち あがる。	体部外側ナダ。 底面、内附剥離面しげいが、 内底面にユビオサエ痕 がある。	1~3mm 大砂粒含 結晶片岩 石英	黑 褐色	
602	衛生土器 型	4区 覆土	底径7.4	底面は平底を呈し、底盤場合をや や外方に盛張する。体部は、直 線的に外方にたちあがる。	内外面ともにナダ。	1~4mm 大砂粒多 く含 結晶片岩 石英	浅黄	
603	衛生土器 型(?)	4区 M-11・12 覆土	底径5.5 高さ1.8	底面は上げ底、中央に深1.8cmの 穿孔を有す。 体部はややくびれて外方にた ちあがる。	内外面ともにナダ。	1~7mm 大砂粒含 結晶片岩 石英	橙	
604	衛生土器 型	4区 覆土	底径6.7	底面は萬古状の上げ底を呈す。 体部はややくびれて外方にた ちあがる。	内外面ともにナダ。	1~3mm 大砂粒含 結晶片岩 石英	浅黄橙	
605	衛生土器 型D	4区 L-11・12 覆土	底径12.3	底面は上げ底を呈す。 体部は直線的にやや内傾してた ちあがる。 底面端に、斜めに2孔あり。対 になるものと推定される。	体部外側タテハラミガキ のちナダ。 底面および内面はナダ。	0.5~2 mm大砂粒 含 石英 チャート	橙	
606	衛生土器 高杯	4区 L-11・12 覆土		外縁気味に直立する脚柱部、杆 部との境に、2条の貼付剣口安 置を有す。	脚柱部外側ナダ。 外縁内面および脚柱部内 面はナダ。	0.5~2 mm大砂粒 含 石英 結晶片岩	浅黄橙	

番号	器種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺存 状態	石 材	特徴・備考
607	石鏡	4区 覆土	2.8	(2.0)	5.0	(2.11)	圓鏡 一部欠損	サヌカイト	凹基無基。
608	石鏡	4区 覆土	2.3	1.4	0.4	(1.46)	圓鏡 一部欠損	サヌカイト	凹基無基。
609	石鏡	4区 K-12 覆土	1.9	1.4	0.3	0.55	完存	サヌカイト	凹基無基。
610	石鏡	4区 覆土	2.2	1.9	0.3	(1.06)	一部欠損	サヌカイト	凹基無基。
611	石鏡	4区 L-12 覆土	(2.3)	1.9	0.4	(1.82)	光環欠損	サヌカイト	凹基無基。

番号	種類	地点 船位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺存 状態	石材	特徴・備考
612	石鏡	4区 覆土	(1.7)	1.6	0.3	(0.56)	先端欠損	サヌカイト	凹面無基。
613	石鏡	4区 K-12 覆土	3.1	1.2	0.4	1.54	完存	サヌカイト	凸面有基。
614	石鏡	4区 K-13 覆土	(3.6)	1.1	0.4	(1.76)	先端欠損	サヌカイト	棒状
615	石鏡	4区 K-11 覆土	(4.8)	(2.6)	(1.4)	(24.94)	先端欠損	サヌカイト	両端打抜による稍成形のもの、側面には四面の倒壁による。
616	柳形石鏡	4区 L-12 覆土	4.8	4.0	1.5	43.45	—	サヌカイト	上辺・左辺は裁断面、下辺は四端打抜による。
617	スクレイバー	4区 J-12 覆土	8.1	2.2	5.1	10.97	完存(?)	サヌカイト	下辺に生として両端打抜を主とし、部分的に片面調整を加えた刃部形成
618	スクレイバー	4区 覆土	5.3	6.0	1.1	46.45	完存(?)	サヌカイト	下辺および、左辺四端打抜による刃部形成。 左辺については、縫合や磨滅、石削丁の破損品の可能性もあり。
619	スクレイバー	4区 L-13 覆土	5.9	3.1	1.0	15.4	完存	サヌカイト	表面は自然面。下辺は主要剝離面からを主とする片側の調整による刃部形成。上辺一部は表面側からの片面調整による刃部形成。
620	打製石砲丁	4区 覆土	(6.6)	(3.3)	0.8	(25.02)	欠損	結晶片岩 (石英片岩)	両端打抜による刃部形成。抉りなし。
621	石鏡	4区 覆土	(8.1)	3.1	0.6	(20.63)	欠損	結晶片岩 (緑色片岩)	
622	石鏡	4区 M-12	(6.3)	(3.6)	0.8	(23.95)	欠損	結晶片岩 (石英片岩)	
623	打製石砲丁	覆土	(8.0)	(4.2)	1.2	(62.0)	欠損	結晶片岩 (石英片岩)	抉りなし。
624	柱状片岩石斧	4区 L-11 覆土	(11.6)	(2.5)	(4.6)	(227)	万部欠損	結晶片岩 (緑色片岩)	方柱状の自然石を利用。表面、裏面を中心にして削る。
625	柱状片岩石斧	10区 覆土	(10.7)	3.5	2.2	(240)	万部欠損	結晶片岩 (緑色片岩)	刃部欠損。 柱状の自然縫を強いて敲打により成形。基部、側面を中心に削る。 抉りは敲打による。
626	叩石	4区 覆土	10.0	7.6	3.7	(446)	一部欠損	ハンレイ岩	円錐両面中央と右側面に斜状の敲打痕。 下辺と左側面は、強い敲打による剝離。
627	叩石	4区 J-12 覆土	13.1	8.2	5.2	930	完存	結晶片岩 (砂質片岩)	円錐利削。 一部に柱状の敲打痕あり。
628	叩石	4区 覆土	11.3	8.9	5.5	850	完存	結晶片岩 (砂質片岩)	表面は円錐。風化激しく敲打痕は明瞭にこっているないが、敲打目的で使用されたものと考えられる。
629	叩石	4区 覆土	7.9	5.4	3.8	220	完存	砂岩	自然の円錐を利用。一ヶ所に集中的に柱状の敲打痕あり。

番号	器種	地点層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	遺存状態	石材	特徴・備考
630	叩石	4区 覆土	11.4	3.8	2.3	172	完存	結晶片岩 (海島片岩)	錐状の自然縫の両側を用意。
631	叩石	4区 覆土	(17.6)	4.6	3.0	(407)	欠損	結晶片岩 (石英片岩)	上端部・下端側縫に粒状の破打痕あり。 (石神の可逆性もある。)

第33表 SX1005 出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	遺存状態	石材	特徴・備考
632	石棒	覆土	(1.8)	0.9	0.3	(0.60)	光端欠損	サヌカイト	円錐錐形。
633	スケレッパー	覆土	3.4	2.5	0.6	4.79	完存(?)	サヌカイト	下端・右上辺、両面調査による刃部形成。 左辺は片面調査による刃部形成。

第34表 遺物包含層等出土遺物(弥生時代) 観察表

番号	器種	地点層位	法量(cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
634	弥生土器 壺A <sub>1</sub>	6区 包含層	口径12.9	やや開き気味にたちあがる頸部から、傾斜して大きく外反する口縁部をもつ。 口縁部は、わずかに下方に屈曲し、底部は平底におさまる。	口縁部は内外面とともにヨコナデ。 底部外面はタテハラミガキ、内面はナデ。	1~2mm 大砂粒含 石英	明赤褐	
635	弥生土器 壺A <sub>2</sub>	7区 包含層	口径14.3	直立する頸部からなるやかに外反する口縁部をもつ。	内外面ともナデ。	1~5mm 大砂粒含 結晶片岩 (外)黄銀 石英	(内)にぼい 黄褐	
636	弥生土器 壺A <sub>3</sub>	7区 包含層	口径14.1	直立する頸部から、ゆるやかに外反する口縁部をもつ。	内外面とも剥離淮しい が、ナデによるものと考えられる。	1~5mm 大砂粒含 石英 結晶片岩	棕	
637	弥生土器 壺B <sub>1</sub>	2区 W-17 包含層	口径11.2	やや開き気味にたちあがる(頸部)。口縁部は、わずかに外反する。底部は、ややふくらみをもって仕上げる。	内外面ともにナデ。	1~2mm 大砂粒含 石英	にぼい黄褐	
638	弥生土器 壺B <sub>2</sub>	11区 包含層	口径9.7	内側してたちあがる体部から、ゆるやかに外反する口縁部をもつ。 口縁部は肥厚し、上端に平坦面、上端外方に凹面をもつ。底部に断面2角形の突部を一条もつ。	内外面ともナデによる仕上げ。	1~2mm 大砂粒含 石英 黄石 角閃石	にぼい黄 (深赤)	複入土器 (深赤)
639	弥生土器 壺A <sub>4</sub>	7区 包含層	口径19.2	ゆるやかに外反する口縁部、口縁部を外方に拡張し、底部に3条の凹部を出す。	内外面ともナデ。	1~3mm 大砂粒含 石英等	棕	
640	弥生土器 壺	11区裏 包含層	直径13.45	直面は、わずかに上げて、分厚い底面をもつ。体部はやや外輪性味に外方へたちあがる。 底面に内外面より胎土充填度あり。	体部外側はタテハラの板筋を残すがナデが優勢。 内面は細かいヨコハケ。 一部にナデの跡跡あり。	1~6mm 大砂粒含 石英 結晶片岩	1~6mm (内)にぼい 黄褐	
641	弥生土器 壺A <sub>5</sub>	2区 W-17	口径20.4	内側する体部から「く」の字状に傾曲して外反する口縁部をもつ。	口縁部内外面ヨコナデ。 体部外側は不明。	1~3mm 大砂粒含	(内)灰黄褐 (外)棕	

番号	器種	地点 層位	法蓋 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
				つ。口縁端部はまるみをもって仕上げる。	内面ナデ。	粘土片岩 石英		
642	弥生土器 要A <sub>1</sub> 口	3区Q- 19 遺構而上	口径17.6	内側してたちあがる球形にちかい体形から「く」の字状に大きく外反する口縁部をもつ。口縁端部は、わざかに上方に切りまげ、端部をまるくおさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。 体部外側上半タテハケ。 下部タテヘラミガキ。 内面下半は左上リナメハケ。 下半はナメ方向内板ナデ。	1~3mm 大砂粒含 石英 粘土片岩	にほい赤褐色	
643	弥生土器 要B <sub>1</sub>	2区 包含層	口径20.7	内側して外方にたちあがる体形から、口縁部は内外に弧曲して端部を平坦に形成する。 端部に脚部の斜格子を施す。	口縁部内外面ヨコナデ。 体部内面は一面にナメハケがみえるが主としてナデ。	1~6mm 大砂粒含 角閃石 石英	明赤褐色 鏡入土器 (模倣)	

番号	器種	地点 層位	長軸 (cm)	短軸 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	胎土	色調	備考
644	土製紡錘車	7区 包含層	3.5	3.5	0.5	0.6	4.61	1~3mm大 砂粒含 石英片岩	(内)灰青褐色 (外)赤	土器片利用。
645	L型紡錘車	9区 包含層	4.8	3.6	0.7	0.6	12.89	1~3mm大 砂粒含 石英 粘土片岩	(内)灰赤褐色 (外)赤	土器片利用。 内部内面ヘラミガキ風の 様子。
646	土製円板	7区 包含層	2.9	2.8	0.6	—	3.10	1~4mm大 砂粒含 石英 粘土片岩	褐	土器片利用の可能性では ないかと考えられるが未 穿孔。

番号	器種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	造存 状態	石 材	特徴・備考
647	石器	9区 包含層	1.9	(1.7)	0.4	(0.87)	開口一部 欠損	サヌカイト	凹基無耳。
648	石器	9区 包含層	1.9	(1.7)	0.4	(1.07)	開口一部 欠損	サヌカイト	凹基無耳。
649	石器	3区 R-20 包含層	(1.3)	(1.3)	0.3	(0.38)	先端鋒端 欠損	サヌカイト	凹基無耳。
650	石器	9区 包含層	(1.7)	(0.9)	(2.5)	(0.30)	先端鋒端 欠損	サヌカイト	凹基無耳。
651	石器	10区 包含層	(2.1)	(1.5)	0.3	(1.02)	先端鋒端 欠損	サヌカイト	凹基無耳。
652	石器	7区 包含層	(1.5)	(1.4)	(0.3)	(0.86)	先端鋒端 欠損	サヌカイト	凹基無耳。
653	石器	11区 包含層	2.4	1.3	0.3	(0.92)	基部欠損	サヌカイト	平基無耳。
654	石器	2区 包含層	(2.9)	1.6	0.6	(2.24)	先端欠損	サヌカイト	凹基無耳。
655	石器	2区 包含層	2.2	1.2	0.3	(0.85)	部欠損	サヌカイト	凹基無耳。
656	石器	1区 W-13 包含層	(2.1)	1.3	0.4	(1.18)	先端欠損	サヌカイト	凹基無耳。

番号	岩種	地点 部位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺存 状態	石材	特徴・備考
657	石織	9区 包含層	(2.4)	1.7	0.4	(1.62)	先端欠損	サヌカイト	円基無基。
658	石織	2区 包含層	(1.6)	(1.2)	(0.3)	(0.41)	微縫欠損	サヌカイト	円基無基。
659	石織	10区 包含層	3.0	(1.9)	0.3	(1.38)	基部欠損	サヌカイト	円基無基。
660	石織	9区 包含層	(2.9)	2.0	0.5	(2.71)	先端地 一部欠損	サヌカイト	円基無基。
661	石織	9区 包含層	2.2	1.6	0.3	(1.02)	基部一部 欠損	サヌカイト	円基無基。
662	石織	11区 包含層	(2.9)	1.8	0.4	(2.0)	先端欠損	サヌカイト	円基無基。
663	石織	9区 包含層	3.9	1.8	0.5	3.22	完存(?)	サヌカイト	未製品。
664	石織	3区 P-17 包含層	1.9	(1.5)	0.5	(1.25)	基部一部 欠損	サヌカイト	平基無基。
665	石織	7区 包含層	(1.9)	1.9	0.3	(1.15)	先端欠損	サヌカイト	平基無基。
666	石織	2区 包含層	2.7	(0.6)	(0.4)	(0.76)	基部欠損	サヌカイト	平基無基。
667	石織	2区 包含層	(1.6)	1.3	0.3	(0.85)	先端欠損	サヌカイト	円基無基。
668	石織	SD1097 覆土流入	(2.0)	1.6	0.3	(1.16)	先端欠損	サヌカイト	平基無基。
669	石織	11区東 包含層	2.1	1.4	0.4	1.28	完存(?)	サヌカイト	平基無基。
670	石織	8区 包含層	(0.8)	2.2	0.5	(6.28)	先端欠損	サヌカイト	平基無基。
671	石織	11区 包含層	(2.0)	1.2	0.35	(0.57)	先端欠損	サヌカイト	円基無基。
672	石織	9区 包含層	1.8	1.3	0.4	0.91	完存	サヌカイト	円基無基。
673	石織	2区 AG-17 IL耕作土	2.1	1.2	0.4	(0.83)	基部一部 欠損	サヌカイト	円基無基。
674	石織	7区 包含層	(2.4)	1.1	0.4	(1.30)	基部欠損	サヌカイト	円基無基(?)。
675	石織	8区 包含層	2.7	1.1	0.4	1.00	完存	サヌカイト	円基無基。
676	石織	2区 U-18 包含層	2.5	1.1	0.3	0.86	完存	サヌカイト	円基無基。
677	石織	8区 包含層	2.7	1.1	0.3	0.79	完存	サヌカイト	円基無基。
678	石織	1区 V-11 包含層	(1.8)	1.1	0.4	(0.85)	先端欠損	サヌカイト	円基無基。

番号	種類	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺存 状態	石 材	特徴・備考
679	石礫	9区 包含層	2.4	1.2	0.5	0.73	完存	サヌカイト	円基無茎。
680	石礫	7区 土	2.4	1.2	0.4	0.93	完存	サヌカイト	未製品(?) 円基無茎。
681	石礫	9区 包含層	(2.1)	1.2	0.3	(0.86)	先端欠損	サヌカイト	円基無茎。
682	石礫	9区 包含層	(2.6)	(1.2)	0.3	(0.89)	先端欠損	サヌカイト	円基無茎。
683	石礫	8区 包含層	(3.6)	2.0	0.5	(1.05)	先端欠損	サヌカイト	円基無茎。
684	石礫	7区 包含層	(2.4)	(1.5)	(0.4)	(1.56)	先端欠損	サヌカイト	円基無茎。
685	石礫	2区 AA-17 包含層	(2.4)	1.2	0.4	(1.09)	基部欠損	サヌカイト	
686	石礫	1・2区 土	(3.6)	(1.6)	0.4	(2.15)	基部欠損	サヌカイト	
687	石礫	9区 包含層	(2.1)	1.3	0.4	(1.28)	先端基部 欠損	サヌカイト	
688	石礫	SD1007 硬土混入	(3.6)	1.9	0.6	(5.11)	先端基部 欠損	サヌカイト	凸基有茎。
689	石礫	7区 U-18 包含層	(3.0)	1.3	0.5	1.56	先端欠損	サヌカイト	平基有茎。 基部の横断面細かい。側の可塑性もある。
690	石礫	11区 包含層	2.7 (1.4)	1.6 (0.5)	0.4 (0.2)	1.02	完存	サヌカイト	
691	石礫	1区 V-13 包含層	(6.7)	(2.0)	1.3	(21.83)	基部欠損	サヌカイト	特に基部に近い部分は、両側打法を多用しながら、先端部は両側開削を加えて成形。
692	石礫	11区 サブトレ 最上層	(7.0)	(2.0)	(1.0)	(18.0)	基部欠損	サヌカイト	
693	石礫	8区 包含層	(3.1)	(1.7)	(0.6)	(3.5)	基部欠損	サヌカイト	
694	楔形石器	7区 包含層	4.0	2.2	1.1	12.82	—	サヌカイト	左右辺は截断面 上下辺は両側打法による。
695	楔形石器	9区 包含層	2.9	1.5	0.5	2.45	—	サヌカイト	左右辺は截断面。上下辺は両側打法による。
696	楔形石器	9区 包含層	3.0	1.3	0.7	4.51	—	サヌカイト	両側打法による。 両辺は截断面。
697	楔形石器	7区 土	2.9	3.3	0.7	7.36	—	サヌカイト	左辺は吉い剝離で自然面に近い。 右辺は截断面。 上下辺は両側打法による。
698	楔形石器	3区 包含層	1.9	2.2	1.4	9.06	—	サヌカイト	上・左右辺は截断面。 下辺は両側打法による。
699	楔形石器	2区 包含層	2.5	1.8	1.0	5.01	—	サヌカイト	上・下辺・右辺は両側打法による。 左辺は截断面。

番号	器 標	地 点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重 量 (g)	遺 命 状 态	石 材	特 徴・備 考
700	スクリーパー	1 区 V-13 包含層	4.5	6.9	1.1	42.28	完存(?)	サヌカイト	下辺は両面打抜による粗い刃部形成。 上辺は、主に片面からの溝鋸。
701	スクリーパー	9 区 包含層	(4.0)	(2.9)	0.6	(10.41)	欠損	サヌカイト	上・下辺、主として片面からの溝鋸による刃部形成。芯辺は破断面。
702	スクリーパー	1 区 W-13 包含層	2.9	2.5	0.6	4.90	完存	サヌカイト	左右辺は両面の溝鋸・下面は片面溝鋸による刃部形成。
703	スクリーパー	7 区 鉢土	2.1	4.0	0.6	4.92	完存	サヌカイト	上・下辺は両面溝鋸による刃部形成。 右辺は片面溝鋸による刃部形成。
704	打製石底丁	8 区 包含層	8.4	4.2	0.8	25.0	完存	サヌカイト	両端抉りあり。
705	打製石底丁	7 区 AB-30 包含層	9.9	4.9	1.0	74.0	完存	結晶片岩 (石英片岩)	片面抉りあり。
706	打製石底丁	2 区 包含層	8.9	3.3	1.4	59.9	完存	結晶片岩 (石英片岩)	片面自然面。端部抉りなし。 側面の縫合を刃部として利用。
707	打製石底丁	9 区 包含層	10.6	4.6	1.1	(67.0)	一部欠損	結晶片岩 (石英片岩)	端部抉りあり。
708	打製石底丁	7 区 V-W- 20-21 包含層	12.6	6.0	0.65	61.0	完存	結晶片岩 (石英片岩)	両端抉りなし。
709	打製石底丁	7 区 AA-23 包含層	12.7	4.4	0.6	54.0	完存	結晶片岩 (石英片岩)	両端抉りなし。
710	打製石底丁	2 区 W-17 包含層	(7.9)	(3.9)	0.6	(32.7)	欠損	結晶片岩 (石英片岩)	両面自然面のこす。 両部、下辺のみ。両端抉りなし。
711	打製石底丁	2 区 包含層	8.8	(3.0)	0.9	(33.4)	一部欠損	結晶片岩 (石英片岩)	両端抉りなし。
712	打製石底丁	7 区 SK1106 塵土層	8.1	3.0	1.0	32.0	完存(?)	結晶片岩 (石英片岩)	両端抉りなし。かなり分厚く、石底丁以外の用途に使用する可能性も考えられる。
713	打製石底丁	4 区 包含層	7.6	3.4	1.1	36.1	完存(?)	結晶片岩 (石英片岩)	抉りなし。両端削加工。
714	打製石底丁	3 区 S-19 包含層	7.3	3.7	0.9	35.5	完存(?)	結晶片岩 (石英片岩)	両端抉りなし。両面に自然面をのこす。
715	打製石底丁	9 区 包含層	(3.6)	(6.5)	(1.2)	(26.6)	半分欠損	結晶片岩 (石英片岩)	端部抉りあり。
716	打製石底丁	7 区 U-20 包含層	(4.7)	(4.3)	(0.65)	(23.5)	半分欠損	サヌカイト	端部むずかな抉りあり。
717	打製石底丁	2 区 包含層	(5.2)	(5.3)	(0.9)	(26.5)	欠損	結晶片岩 (石英片岩)	
718	打製石底丁	8 区 包含層	(3.3)	(2.4)	(0.5)	(5.0)	欠損	結晶片岩 (石英片岩)	端部抉りあり。

番号	器種	地点 部位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	保存 状態	石材	特徴・備考
719	打製石刀丁	4区 包含層	(3.4)	(2.7)	(0.6)	(8.1)	欠損	結晶片岩 (石英片岩)	端部抉りあり。
720	打製石刀丁	4区 包含層	(4.4)	(2.8)	(0.5)	(13.1)	欠損	結晶片岩 (石英片岩)	抉りなし。
721	打製石刀丁	7区 土	(8.7)	(5.0)	(1.0)	(68.0)	欠損	結晶片岩 (石英片岩)	抉りなし。
722	打製石刀丁	10区 包含層	(7.0)	(3.9)	(0.9)	(34.0)	欠損	結晶片岩 (石英片岩)	抉りなし。
723	打製石刀丁	2区 包含層	(6.6)	(3.9)	0.6	(27.3)	欠損	結晶片岩 (石英片岩)	両面削磨面。 抉りなし。
724	打製石刀丁	8区 包含層	(5.1)	(3.4)	(0.8)	(23.0)	欠損	結晶片岩 (石英片岩)	抉りなし。
725	打製石刀丁	8区 包含層	(4.7)	(3.6)	(0.5)	(15.0)	欠損	結晶片岩 (石英片岩)	抉りなし。
726	打製石刀丁	11区 包含層	(5.8)	(3.3)	(0.8)	(18.0)	欠損	結晶片岩 (石英片岩)	抉りなし。
727	石刀(?)	SD1007 壁上窓入	10.3	3.9	0.5	20.5	完存	結晶片岩 (緑色片岩)	抉りは透り込んだもの。
728	石刀	7区 包含層	(7.85)	(4.6)	(1.0)	(44.0)	欠損	結晶片岩 (石英片岩)	石刀丁跡に成形した刃部を、側面に使用したのか。直線尖頭の間の絞込。 削減して滑らかとなる。
729	石刀	11区 包含層	(5.8)	(4.2)	(1.0)	(44.0)	欠損	結晶片岩 (緑色片岩)	折削した剝片の縫合部を、裏の様に使 用したものか。直線尖頭の間の絞込。 削減して滑らかとなる。
730	柱状片刃石斧	1区 壁上	11.6	3.0	2.8	175	完存	結晶片岩 (緑色片岩)	刃部を中心には全面研磨、基部付近 は削磨面をそのままのままのこす部分あり。
731	柱状片刃石斧	9区 壁土	(3.9)	2.8	3.4	(360)	刃部欠損	結晶片岩 (緑色片岩)	自然の棒状跡を利用。全面敲打による 成形。刃部を中心とした全面研磨。敲 打痕が多くのこと。 抉り部分は明確ではないが、簡状の敲 打痕を多くのこし、意識されている。
732	柱状片刃石斧	4区 L-12 包含層	(12.0)	2.7	4.6	(268)	刃部欠損	結晶片岩 (緑色片岩)	成形後、粗いが、ほぼ全面研磨。
733	柱状片刃石斧	11区 包含層	(8.35)	2.0	(3.2)	(106)	刃部・基 部欠損	結晶片岩 (緑色片岩)	柱状の自然石を利用して表面には研磨 のこるが、側面は、自然面。
734	柱状片刃石斧	7区 包含層	(6.6)	(2.4)	(1.6)	(43.0)	基部欠損	結晶片岩 (緑色片岩)	表面のみ研磨により刃部形成。 他の面はまったく研磨なし、未製品 か?
735	柱状片刃石斧	8区 SD1005 壁上窓入	(9.7)	(2.3)	(4.2)	(276)	刃部欠損	結晶片岩 (緑色片岩)	未製品。 方柱状の自然石の剝離、正面、基部の 各一部を研磨。
736	扁平片刃石斧	7区 U-20 包含層	(5.35)	3.85	1.0	(31.66)	基部欠損	結晶片岩 (緑色片岩)	刃部と左側面、裏面の一部のみ研磨。 右側面は丸窓、左側面敲打による成形。
737	小盤円柱状石斧	9区 包含層	7.8	2.4	0.8	27.43	完存(?)	結晶片岩 (緑色片岩)	未製品 両側面敲打による成形。 裏面は自然面。裏面の刃部の一部を研 磨。

番号	器種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	保存 状態	石 材	特徴・備考
738	小型扁平石斧	7区 盛土	4.3	1.8	0.8	(7.87)	一部欠損	結晶片岩 (緑色片岩)	刃部、側面を中心と研磨。表面は、自然面を研磨、裏面は剝離面の一部を研磨。
739	小型扁平石斧	9区 包合層	(2.95)	(2.30)	(0.55)	(4.21)	欠損	結晶片岩	刃部を中心に研磨。凹凸は残る。
740	大型扁平石斧	9区 盛土	(15.0)	7.3	4.5	(925)	刃部欠損	度ハンドレイ 石	棒状の自然縫を敲打により削形のうち刃部を中心に研磨。身部は敲打面を多数のこす。
741	印4	2区 X-16 (包合層)	7.3	6.0	3.8	416	完存	ハンドレイ石	内側利用。 ほぼ全面に棒状の敲打痕。

第35表 SA1002 出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎土	色調	備考
742	土師質土器 片口付	P-10 硬土	口径31.0	体部は直線的に立ちあがる。口部は肥厚し、端部は四角に仕上げる。 片口が付く。	I(縫部外側ヨコナダ。 体部外周ヨコカタナダと エビオサエ。 体部内側ヨコカタナダ。 石英)	1~3mm (P)淡青 (外)にぶい 黄緑		
743	土師質土器 脚部	P-10 硬土	脚径3.2	断面円形。 基部わずかに黒斑、身部直線的。	スピオサエ。 破壊ナタナカタナダ。	0.5~2 mm大砂粒 含	淡黄	

第36表 SA1003 出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎土	色調	備考
744	上部質土器 柄	P-5 硬土	口径12.9	体部は直線的に立ちあがる。 口縁部はやや内側。 縫部まるくおさめる。	内外面ともヨコナダ。	0.5~1 mm大砂粒 含 結晶片岩	灰白	
745	陶器 こね棒	P-5 硬土	口径33.1	体部は直線的に外方に立ちあがる。 I(縫部)は上下に転覆し、縫部はまるく仕上げる。 口縁部外側に跡がかかる。	内外面ともヨコナダ。	1~2mm 大砂粒含 (口縁部外 面) 暗オリーブ 灰	黄灰 (口縁部外 面) 暗オリーブ 灰	束縛系

番号	器種	地点 層位	法量・備考				
746	陶瓶	P-4 硬土	長さ 9.3cm 幅 6.6cm 厚さ 1.9cm 重量 180g	瓦質。	使用痕跡、明瞭にのこる。		

第37表 SA1010 出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎土	色調	備考
747	瓦質土器 柄	P-7 硬土	I(縫部)12.9 底径5.4 高さ4.2	体部・I(縫部)や内壁斜面にた ちあがる。 I(縫部)はまるくおさめる。 所面方形状の低い高台。	底部四角余切り。 貼付け高台ヨコナダ。 体部・I(縫部)ヨコナダ。 内面ハサエとヨコナダと もみえる断面痕がタテ方 向に観察できる。	砂粒をほ とんど含 まず。	灰白	香川・西 村南系? 瓦質?土 器質?

第38表 溝(中世)出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量(cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
748	土師質土器 皿	SD1006 覆土	底径8.2	内縁5mmにたちあがる。	底面へラ切(?)のちチ ヂ。ヨコナヂ。	1mm以下 の砂粒含 合	淡青	
749	瓦質土器 鉢	SD1006 覆土	口径47.8	口縁部は肥厚し、平底におさ める。 端部わざりに下する。 小片復元のために径は不明確。	内外面ともヨコナヂ。	1~2mm 大砂粒合 む英 結晶片岩	灰白	
750	土師質土器 杯	SD1010 覆土	口径12.2	外方に直線的にたちあがる体 部。	ロクロチヂ	1mm大砂 粒合 石英	において 焼成痕跡、 破損。	

第39表 土壌・土坑(中世)出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量(cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
751	土師質土器 小皿	SK1003 覆土	口径7.6 底径5.6	底面は平底。 口縁部は内側でやや不整。 端部はまろい。	底面は斜切り。 他はロクロナヂ。	0.5~1 mm大砂粒 合 粘土母	淡青色	
752	土師質土器 皿	SK1031 覆土	底径5.5	底面は平底。 口縁部は大きく外方にたちあが る。	底面は斜切り。 他はロクロナヂ。	微粉粒合 粘土母	淡青色	
753	瓦質 椀	SK1048 覆土	底径4.9	高台断面形状。 体部は大きく外方にたちあが る。	体部・輪付高台外部は コナヂ。 内部ユビオサエ。 内面ナヂ。 放射状のミガキを施す。	0.5~1 mm大砂粒 合 石英	灰白	
754	土師質土器 小皿	SK1053 覆土	底径4.2	底面は平底を呈し。体部は大き く外方にたちあがる。	斜面斜切り。 ロクロナヂ。	0.5~1 mm大砂粒 合 砂岩	において 焼成痕 跡。	
755	土師質土器 瓶	SK1053 覆土	口径29.4	体部口縁部わずかに内縫。 口縁部は凹面に仕上げる。 内面に3条(?)の横筋条脚。	内外面ともヨコナヂ。	0.5~2 mm大砂粒 合 石英 結晶片岩	(外)淡青色 (内)灰	
756	土師質土器 瓶	SK1056 B 覆土	口径20.0	体部・口縁部は内縫。 口縁部は凹面に仕上げる。	口縫部、および内面は ロクロナヂ。 体部外側は多数のユビオ サエ。	1~2mm 大砂粒合 石英 結晶片岩	青	外面に輪 付脚
757	土師質土器 皿	SK1080 覆土	底径5.8	平底から、外方にたちあがる体 部。	凹輪斜切り。 ナヂ。	1~2mm 大砂粒合	淡青	
758	瓦質 椀	SK1106 覆土	底径6.0	高台断面方形状で低い。	内外面ともヨコナヂ。	1mm大砂 粒合 石英	灰白	
759	土師質土器 脚部	SK1106 覆土		断面ほぼ円形。 基部大きく星角。 身部直線的。	全体にタケ方向に板ナ ヂ。 棱をもつ。	1~2mm 大砂粒合 石英 結晶片岩	淡青色	
760	青磁 椀	SK1156 覆土	底径6.9	高台を有す。 内面の底面平滑的で、体部は内 側斜張にたちあがる。	胎厚0.4mm程度。 底面高台内は地盤なし。	青。	オリーブ灰	

第40表 柱穴・小穴(中世)出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法 巻 (cm)	形態の特徴	技 法	胎 土	色 調	備 考
761	瓦器 瓶	SP1181 覆土	口径14.2	内側して外方にたちあがる体 感。口縁端部はまるくおさめる。	内外面ヨコナデ。 外側にはナデによる模の こころ。	0.5~1 mm大砂粒 少含 石英	(内)灰白 (外)灰	
762	瓦器 瓶	SP1181 覆土	口径15.0	内側して外方にたちあがる体 感。LI縁端部はまるくおさめる。	内外面ヨコナデ。	ほとんど 砂粒含ま ず。	灰青緑	
763	瓦器 瓶	SP1342 覆土	口径17.1	内側勾地にたちあがる。	ナデ。 外側にスピオサエ。のち ナデ消す。	ほとんど 砂粒含ま ず。	灰白	
764	土師質土器 羽墨	SP1483 覆土	口径30.2	体部・LI縁部は灰黒色。 口縁端部は火り気味にまるくお さめる。 断面方形状の脚は水平。	LI縁部内外面、脚部はコ ロナデ。LI縁部を付ける。 体部外側はスピオサエ。 内側はヨコナデ。	1~3 mm 大砂粒含 石英	鐵 品 (?)	
765	瓦器 瓶	SP1494 覆土	口径3.4	高台新萬方形状で低い。	内外面ヨコナデ。	砂粒ほと んど含ま ず。	灰	
766	土師質土器 小皿	SP1494 覆土	口径6.6 底径5.8 高さ1.2	LI縁部わずかに内側。 口縁端部はまるくおさめる。	底邊糸切り。 内外面ヨコナデ。	0.5~1 mm大砂粒 含 石英	に赤い色	
767	土師質土器 瓶	SP1655 覆土	口径11.8	体部直線的に外方にたちあが る。口縁部や内側。 端部はまるく仕上げる。	外側ヨコナデ。 内側ナデ。	砂粒をわ ずかに含	灰白	
768	土師質土器 瓶	SP1113 覆土	口径12.9	体部・口縁部とも直線的にた ちあがる。 端部まるくおさめる。	内外面ともヨコナデ。	1~2 mm 大砂粒含 石英	淡綠	
769	土師質土器 小皿	SP1535 覆土	口径7.0 底径5.5 高さ0.9	外側気味にたちあがる。	灰白、ヘタ切り(?)。 内外面、ヨコナデ。	微妙粒合	淡黃緑	

第41表 遺物包含層等出土遺物(中世)観察表

番号	器種	地点 層位	法 巻 (cm)	形態の特徴	技 法	胎 土	色 調	備 考
770	土師質土器 瓶	7区 VW-21- 22 包含層	底径7.6 高さ1.5	底面から外側してたちあがる。 口縁端部はやや肥厚し。まるく おさめる。	底面削輪へテ切りのちナ デ。ロクロナデ。	1~2 mm 大砂粒 含 石英	鐵	
771	土師質土器 皿	7区 VW-21- 22 包含層	口径10.4 底径6.2 高さ1.3	外側してたちあがる。 口縁端部は、あいまいにおさ める。	底面削輪へテ切り。凹輪 ヨコナデ。	1~3 mm 大砂粒含	鐵	
772	土師質土器 皿	7区 AA-24 包含層	口径13.2 底径9.1 高さ1.6	平底から、口縁部へ外側してた ちあがる。 口縁端部はまるくおさめる。	凹輪へテ切り。 ロクロナデ底唇をのこ す。	0.5~1 mm大砂粒 含	鐵	
773	土師質土器 皿	7区 包含層	口径12.9 底径2.2	平底から、ややくびれて直線的 に外方にたちあがる。 ナデによる剥離跡。	凹輪へテ切り。 ロクロナデ。	0.5~2 mm大砂粒 含 石英 納豆母	鐵	

番号	器種	地點 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
774	土師質土器 皿	7区 SB1064 覆土掘入	底径6.9	底面は平底を呈し、体部はややくびれて大きく外方にたちあがる。	凹輪ヘラ切り。 内外面ともロクロナダ。	1mm大砂粒 粘合	(P)淡黄橙 (外)淡黃	
775	土師質土器 小皿	9区 包含層	口径6.6 底径3.9 高さ1.4	平底から、内側して外方にたちあがる斜面。 口縁部はまるくおさめる。	ヘラ切り。 ロクロナダ。	0.5~1 mm大砂粒 粘合 石英	灰白	
776	土師質土器 小皿	2区 Z-18 包含層	口径9.4 底径7.9	底面は平底。口縁部はやや内側。 端部はまるい。 底面は、やや凹凸あり。	底部、停止糸切り。 端部以外はロクロナダ。	0.5~1.5 mm大砂粒 少粘合	淡黄橙	
777	瓦器 皿	2区 SD1001 覆土掘入	口径9.0 底径6.5 高さ1.6	底面は平底。体部は内側してた くある。 口縁部はまるくおさめる。	体部口縁部内外面ヨコナ ダ。 底面ユビオサエ。 内外面、ヨコナダ後ミガ キを施す。	1mm大砂 粒少粘合 石英	灰	和風型 瓦器皿
778	土師質土器 椀	2区 包含層	口径13.4	体部底面的に外方にたちあが る。口縁部わざずに内側。端部 はまるく仕上げる。	内外面ともヨコナダ。	微砂粒含 石英	淡綠	内面深赤 付着
779	瓦器 椀	2区 Z-18 包含層	口径15.8	内側気味にたちあがる体部。 口縁部わざずに内側して、直線 的。端部はまるくおさめる。	口縁部内外面ヨコナダ。 体部外面ユビオサエ。 内面ナダのちミガキを施 す。	1~2mm 大砂粒少 粘合 (外) チャート	青灰	
780	磁器 椀	4区 L-11 包含層	口径16.8	内側気味にたちあがる体部。 口縁部斜面。 外表面縫合弁を残す。	全体にていねいなロクロ ナダ。 オリーブ灰色の釉を0.4 mm厚で内外面に施す。	密	オリーブ灰	龍泉窯系 青磁
781	磁器 椀	7区 包含層	口径14.4	内側して外方にたちあがる口縁 部。 外表面井の字形が認められる。	釉厚0.3mm	密	翠灰	龍泉窯系 青磁
782	磁器 椀	7区 TU19・ 20 包含層	口径15.0	ほぼ直線的に外方にたちあが る。 内面2本の沈線で幾度文(?)状 の片割り模様した文様が観察で きる。	釉厚0.4mm	密	明翠灰	亂泉窯系 青磁
783	施釉陶器 皿	3区 T-22 包含層	底径4.9	断面方形の高台は底面の内側に 付く。 体部はやや内側気味に大きく外 方にたちあがる。 内外面施釉。白で絵柄を描くが セーフープは不明。	高台張り出し。	砂較少粘 合	褐色 灰オリーブ	唐津焼
784	土師質土器 鍋	7区 U-20 包含層	口径19.7	体部・口縁部はやや内側。 口縁部やや弧張し、端面は内 面に仕上げる。	口縁部削面、内面はヨコナ ダ。 体部外面は無いタテハケ と多數のユビオサエ。	0.5~3 mm大砂粒 粘合	橙	外面塗付 青
785	土師質土器 鍋	7区 包含層	口径18.5	体部・口縁部やや内側。 口縁部外方にやや弧張し、端 面は内面に仕上げる。	口縁部削面、体部内面ヨ コナダ。 体部外面ユビオサエ・ナ ダ。	1~4mm 大砂粒含 石英	(P)淡黄橙 (外)にい 青釉	外面、口 縁部に 漆付着。
786	土師質土器 器	7区 U-20 包含層		断面横内形。内側面は広い平坦 面をもつ。 身部は直線的に先端部は弧形に おさめる。	ユビオサエ、板ナダ、積 みをもつ。	0.5~1 mm大砂粒 粘合 石英 結晶片石	褐	

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎土	色調	備考
787	土師質土器 鉢	7区 U 29 包含層		断面円形。 身部は直線的で、先端部はまるく おさめる。	スピオサエ・ナダ。	1~3mm 大砂粒合 結晶片有 石英	褐	
788	陶器 盤	7区 包含層	口径29.5	体幅わずかに外縁弧度。 口縁部は上に大きく張張し、 わざわざ内傾弧度。体底内面に 8条单位の櫛目条線。	内外面クロナダ。	1~3mm 大砂粒合	黒褐	側面焼
789	陶器 盤	7区 包含層	口径33.4	体幅わずかに外縁弧度。口縁部 は、上下に大きく張張し立てる。 体部内面の櫛目条線は、4条ま で確認できる。	内外面クロナダ。	1~4mm 大砂粒合	褐灰	側面焼
790	陶器 盤	7区 包含層	口径33.4	体部外壁丸味。 口縁部は上に大きく張張し、 立てる。 体部内面の櫛目条線は4条まで 確認できる。	内外面クロナダ。	1~3mm 大砂粒合 石英 泥合	褐灰	側面焼
791	陶器 盤	7区 段光	口径26.5	体部直線的。口縁部上に張張 し突出して直立。 体部内面に4条单位の櫛目条 線。	内外面クロナダ。	1~2mm 大砂粒合	赤	側面焼
792	模写質土器 壺	2区 X 18 包含層	底径16.5	底部は平底をせず。 体部は直線的に外方にたちあが る。	体部外表面タハケ。底面 ナダ。 体部内面ナダを主とする が、底面近くにヨコナダ、 やや上ったところに列状 のスピオサエ。	0.5~1 mm大砂粒 合 石英	灰色	

番号	器種	地点 層位	法量・備考
793	模写品 碗	2区 X 18 包含層	直径4.3cm 厚0.4cm 網目 0.5cm 細長 (5.4) cm 重量 (32.4g) 模写 不良 うすい内盤の中心に断面円形の縫を付ける。
794	模写品 盤(?)	2区 X 18 包含層	長さ (14.5) cm 幅 2.9cm 厚 0.4cm 重量 53.8g 模写 不良 断面形が両刃形に模倣される。
795	刺鉢	2区 Z 18 包含層	底2.4cm 網 良 「皇宋通宝」 初鋤年 宋 (1039) 真跡体。

第42表 桜ノ岡遺跡(III) 出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺存 状態	石 材	特徴・備考
1	磨石刀	1 + 2層	1.8	0.91	0.22	0.33	完存	チャコト (鐵皮)	
2	楔形石器	#	2.3	0.95	0.7	1.8	—	玻璃質安山 岩	
3	削片	#	1.6	2.4	0.4	1.91	—	サスカイト	
4	削片	#	2.1	3.8	0.5	4.15	—	サスカイト	
5	小型円柱状石斧	2層	11.0	2.8	0.7	33.2	完存	粘板岩	麻刃敲打による成形。刃部重心に斜面。

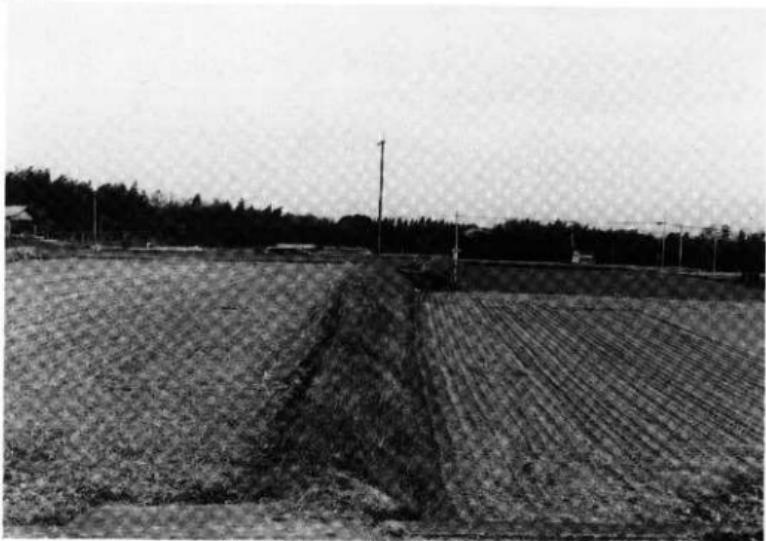


桜ノ岡遺跡（I）（III）遠景（南より）

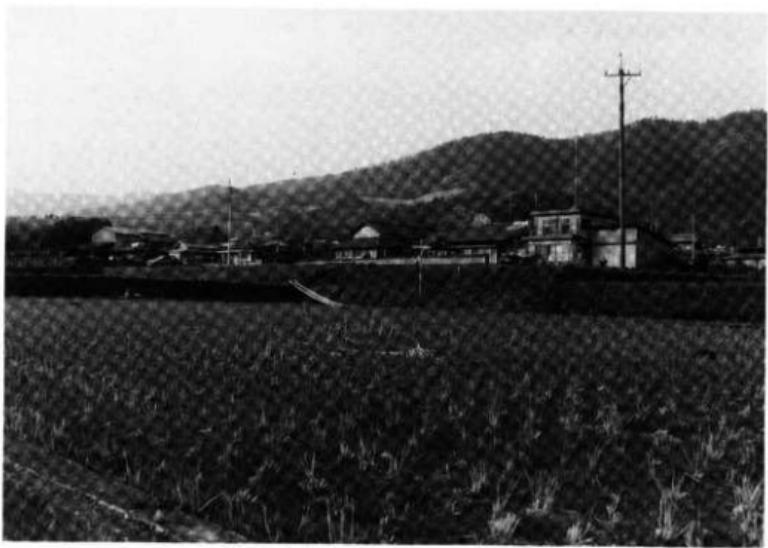


阿讃山脈中腹より遺跡所在方面を望む

図版 2



桜ノ岡遺跡（I）調査前状況（西より）



桜ノ岡遺跡（I）調査前状況（南より）

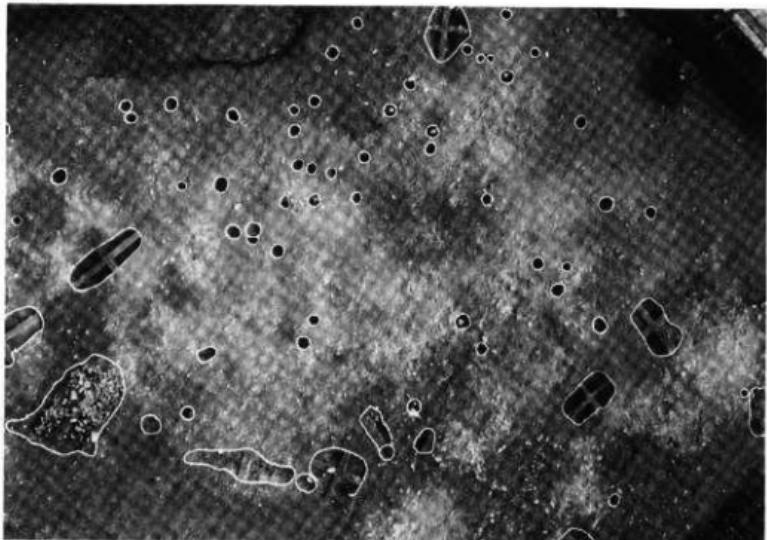


桜ノ岡遺跡（I）1次調査全景



第1・2調査区掘り下げ状況

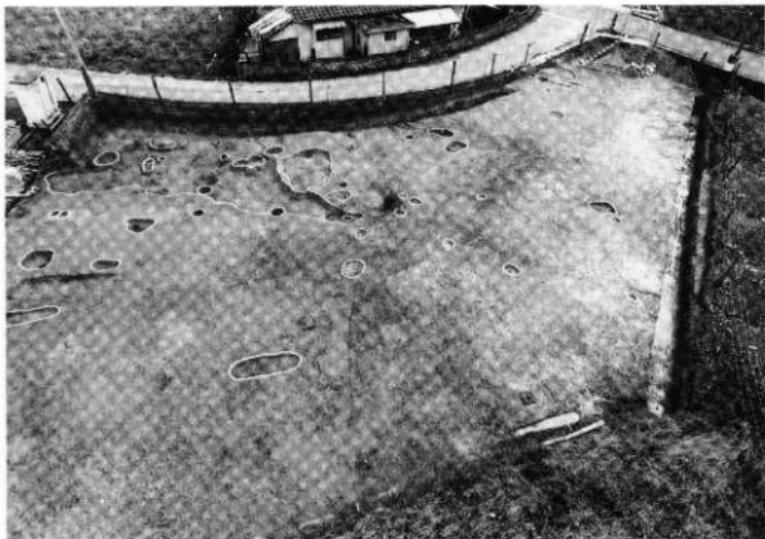
図版 4



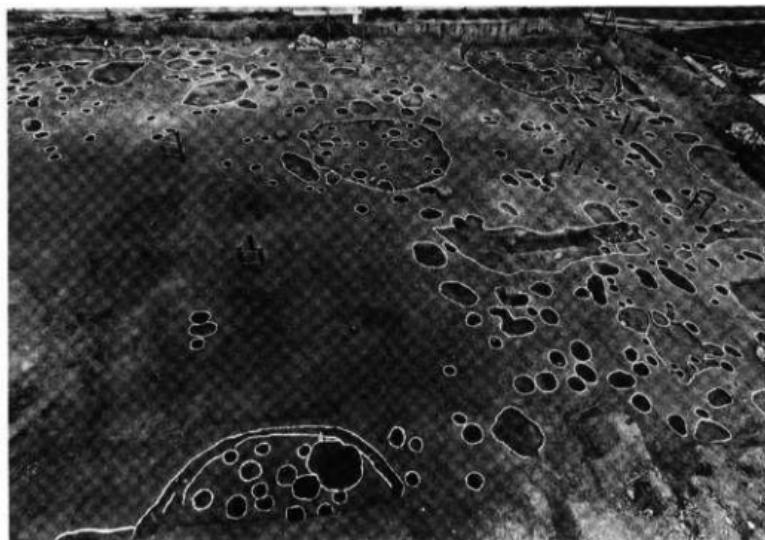
第3調査区中央部掘り下げ状況



第5調査区完掘全景（東より）

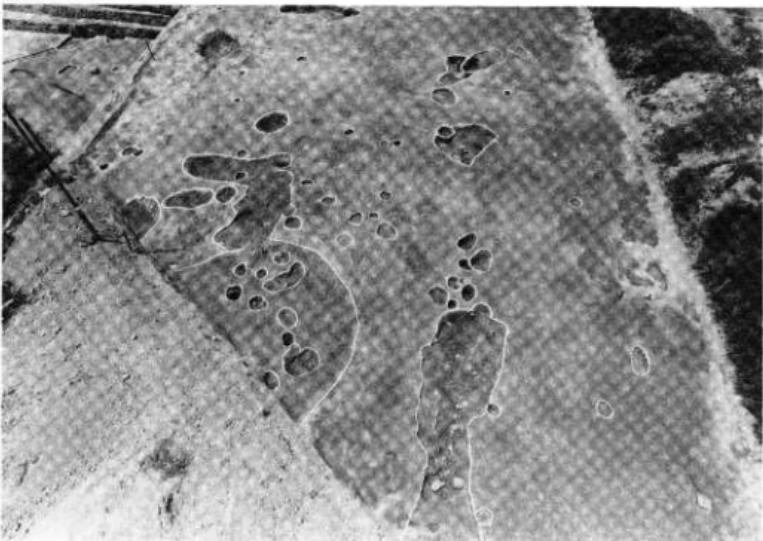


第6調査区完掘全景（北より）

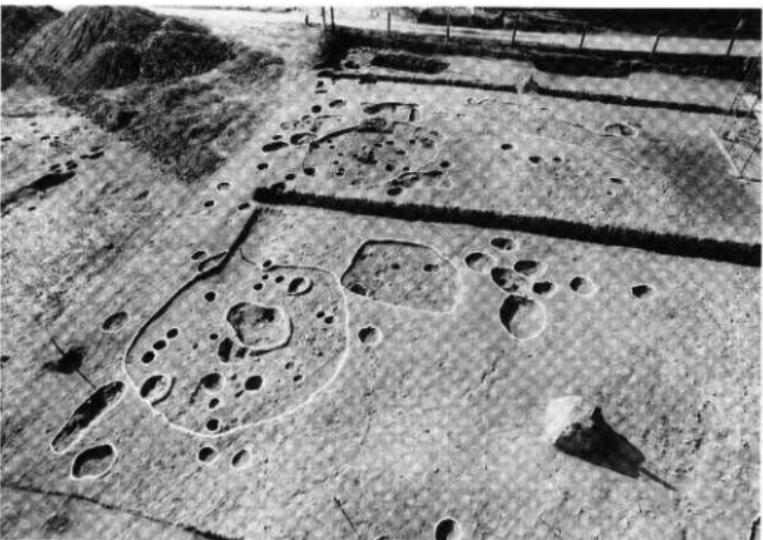


第7調査区完掘全景（西より）

図版 6



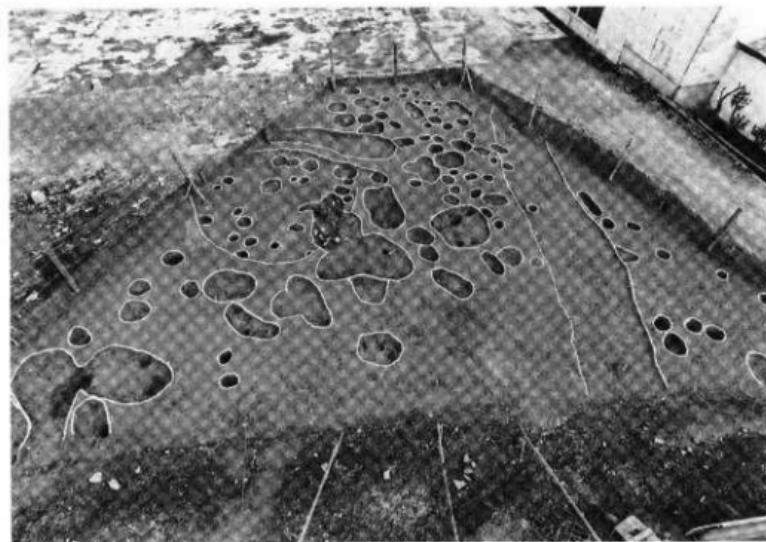
第8調査区完掘全景（東より）



第9調査区完掘全景（東より）

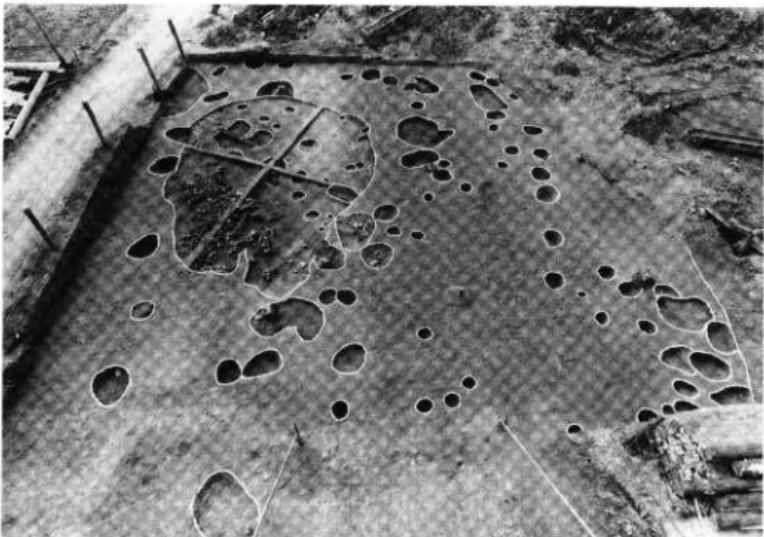


第10調査区南半完掘全景（北より）

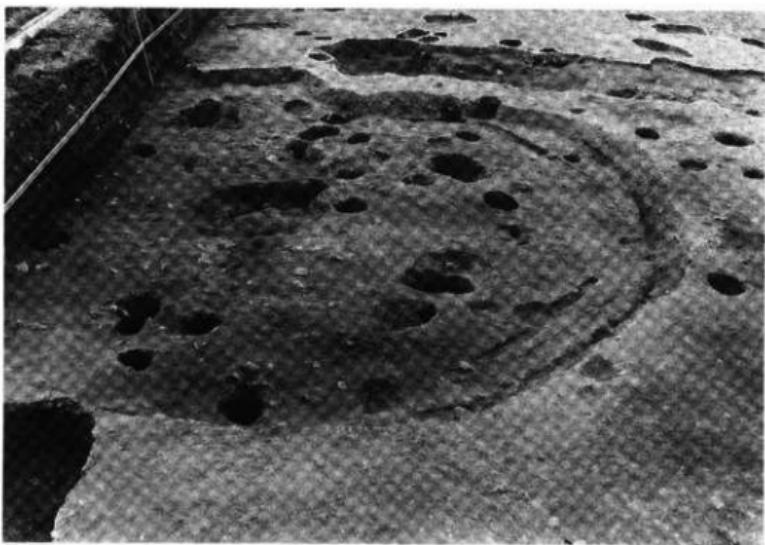


第11調査区西半完掘全景（南より）

図版 8



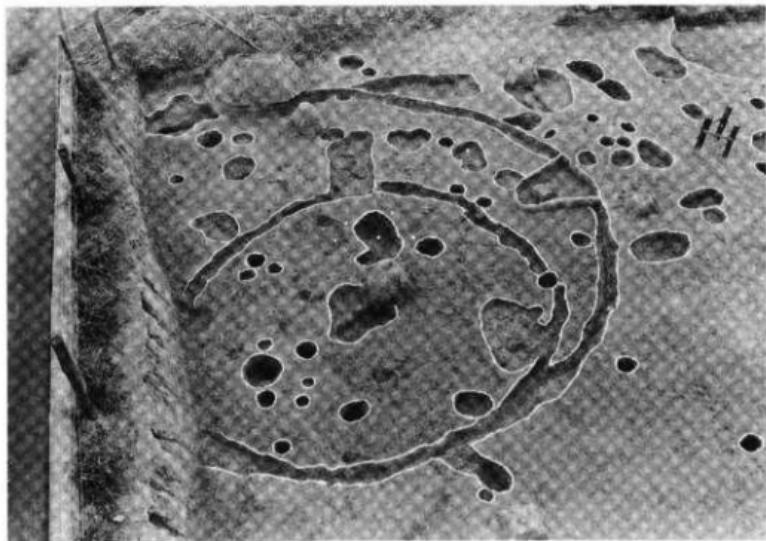
第11調査区東半完掘全景（北より）



SB1001完掘状況（1次調査・北より）

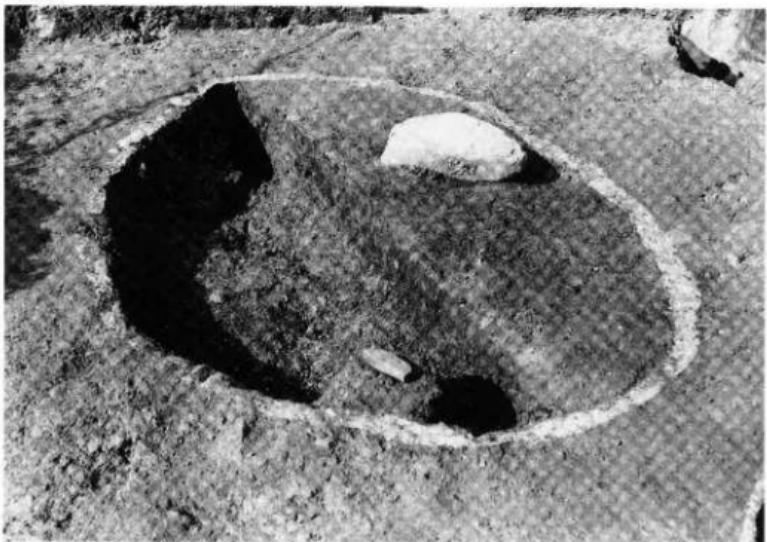


SB1001内集石状況（北より）

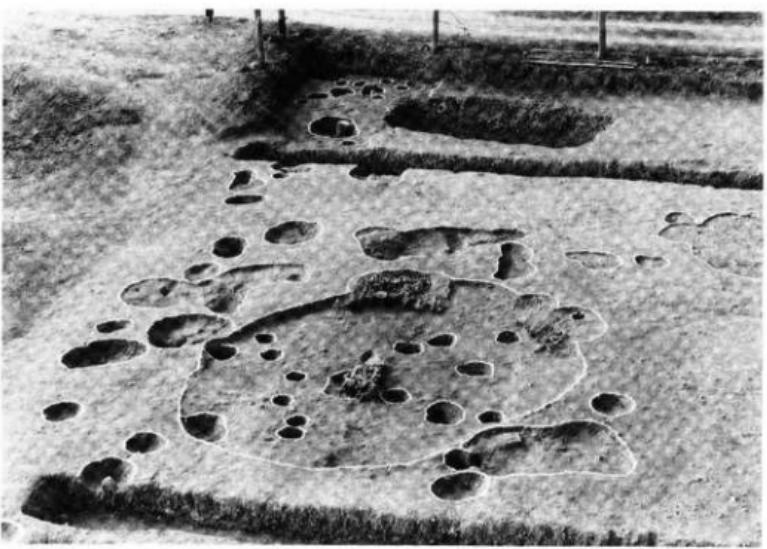


SB1004穴掘状況（北より）

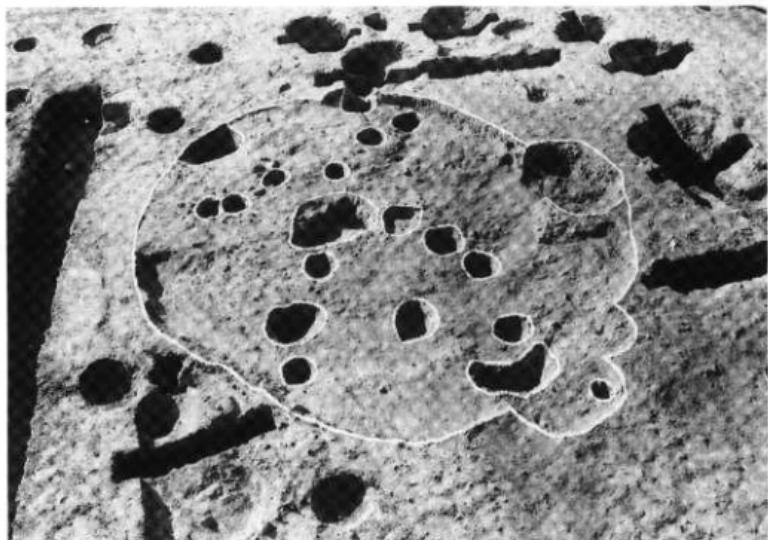
図版10



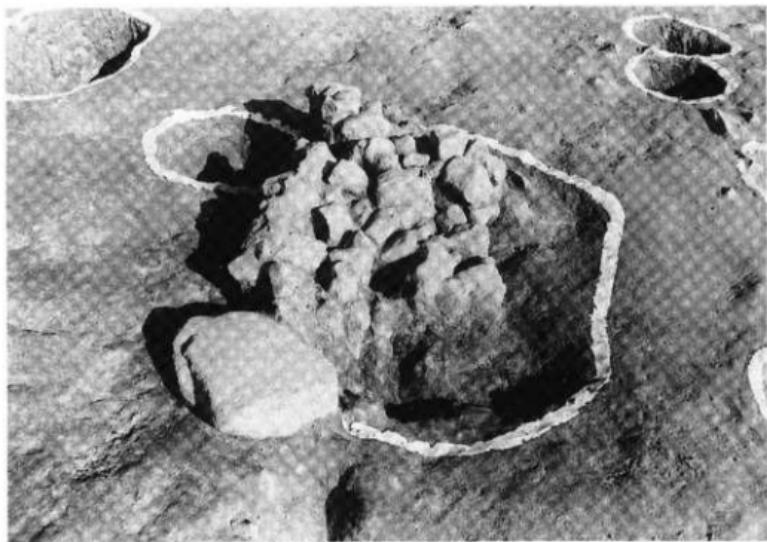
SB1005炉半掘状況（南東より）



SB1005・1006掘り下げる状況（東より）



SB1006壳塙状況（北より）

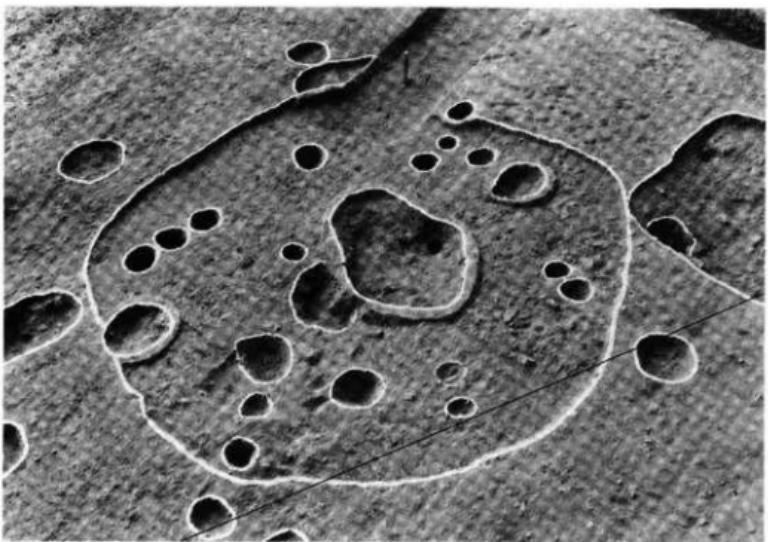


SB1006炉上集石状況（西より）

図版12



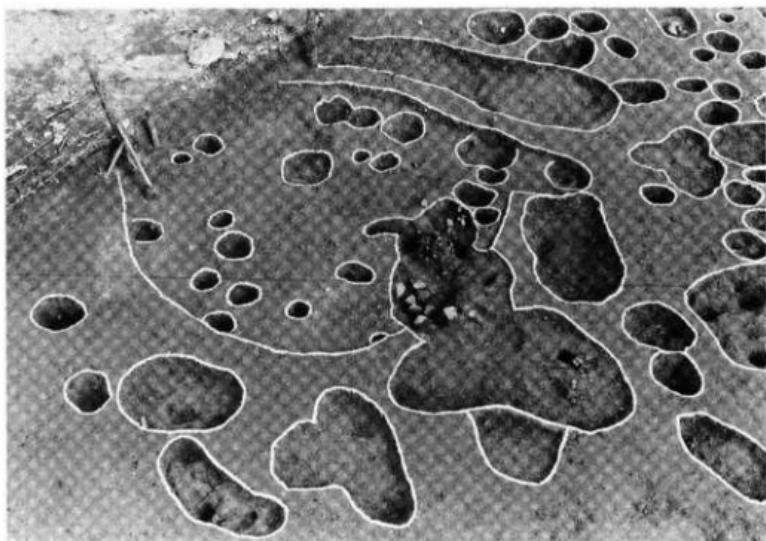
SB1006内小穴 (P-8) 土器出土状況



SB1007発掘状況 (北より)

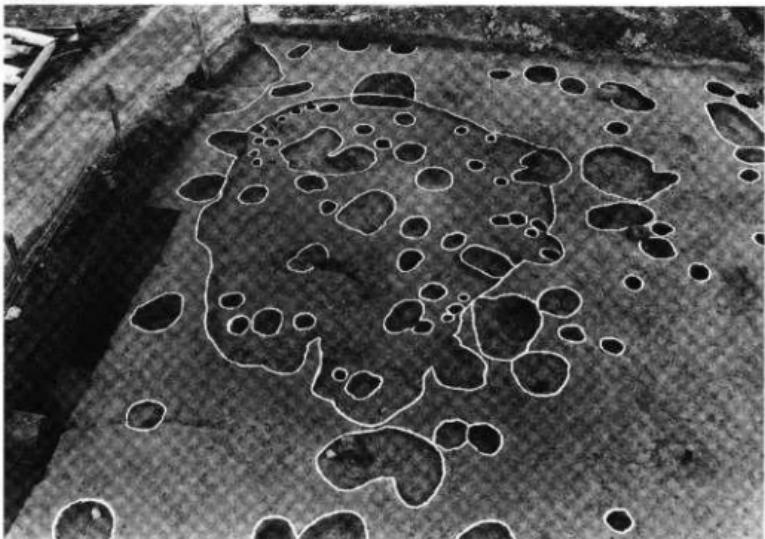


SB1008完掘状況（北西より）

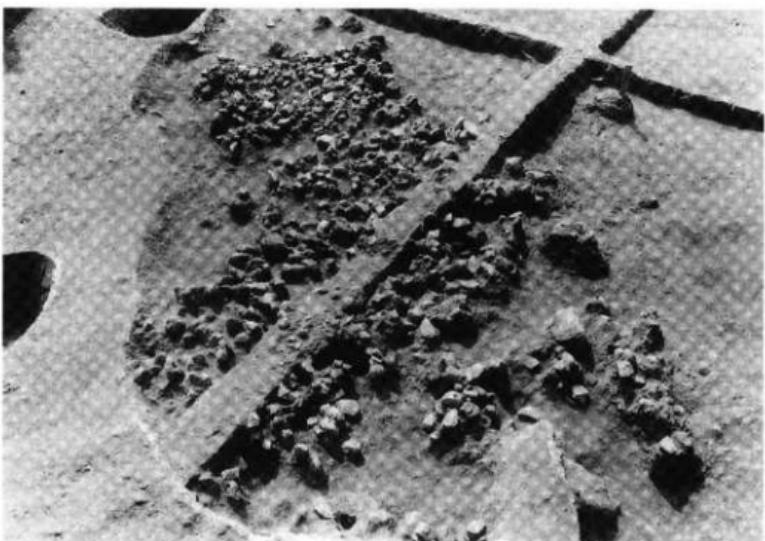


SB1009完掘状況（南東より）

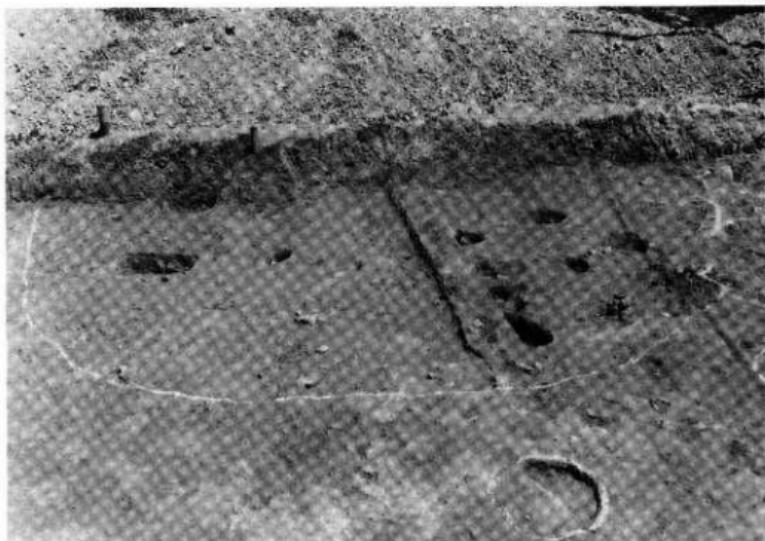
図版14



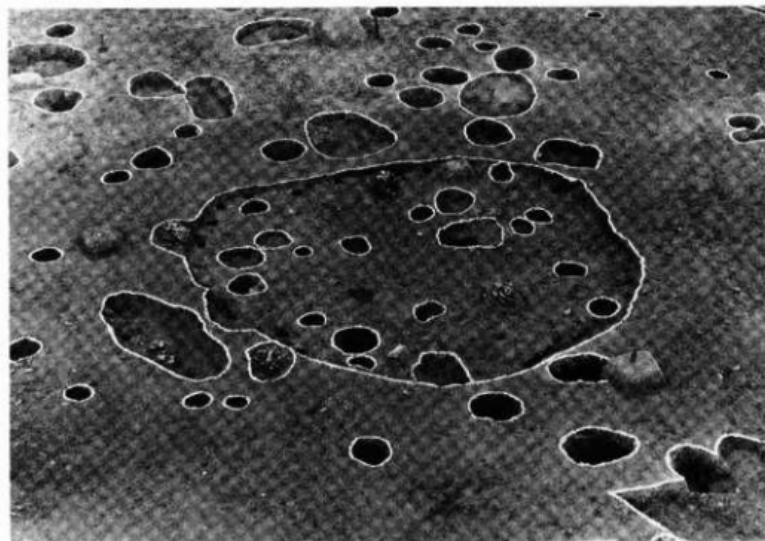
SB1010完掘状況（北より）



SB1010内集石状況（北より）

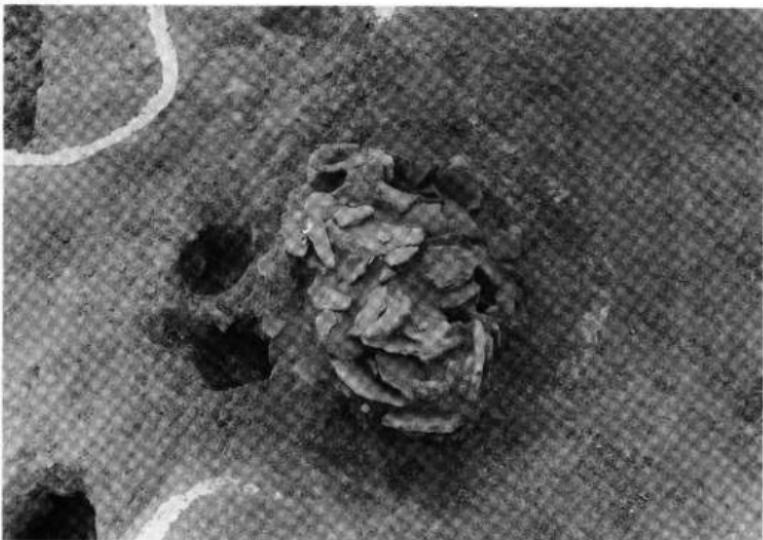


SB1011掘り下げ状況（西より）

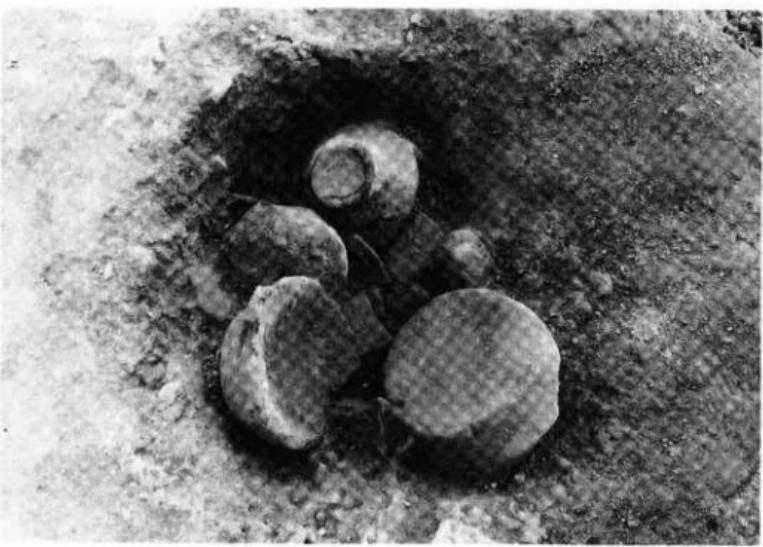


SB1003・SA2001掘り下げ状況（西より）

図版16



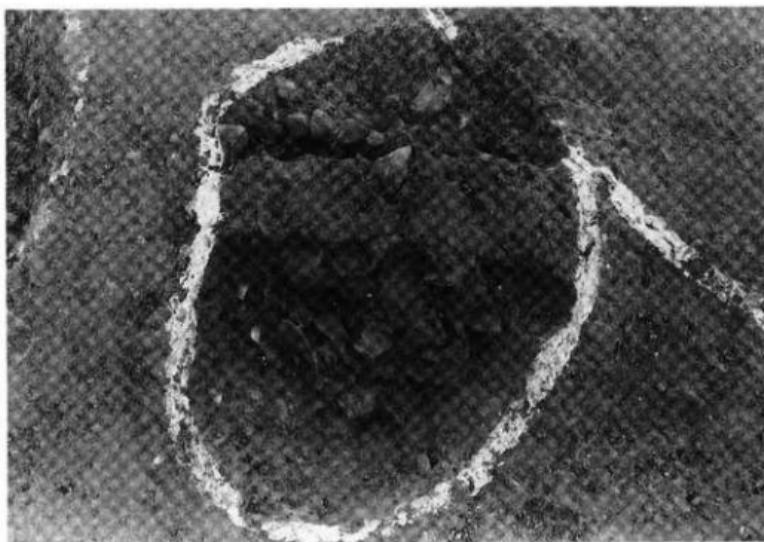
SA2001柱穴（P-1）上層土器出土状況（東より）



SA2001柱穴（P-1）下層土器出土状況（西より）

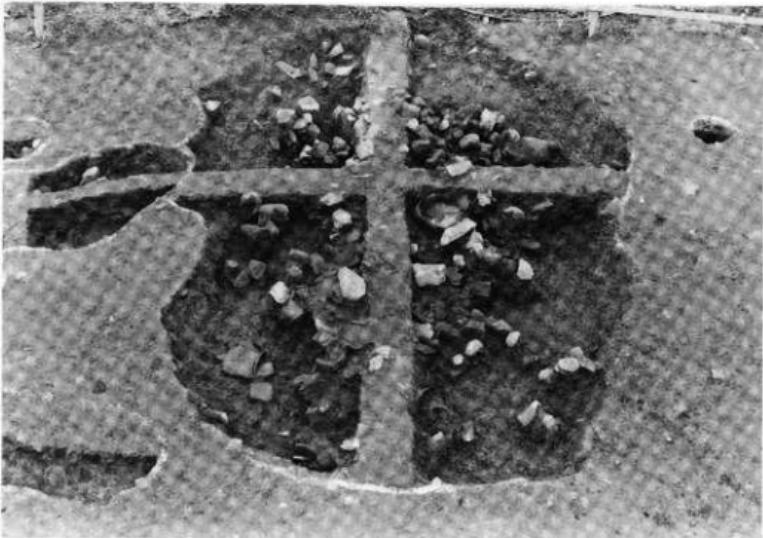


SA2001柱穴（P-2）土器出土状況（南より）



SA2001柱穴（P-4）土器出土状況（西より）

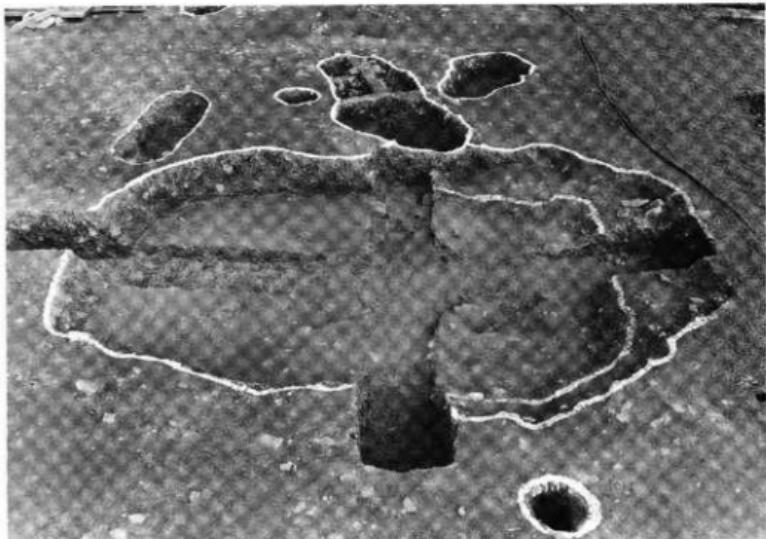
図版18



SK1008掘り下げ状況（北より）



SK1008北端炭化材出土状況（東より）



SK1008発掘状況（西より）

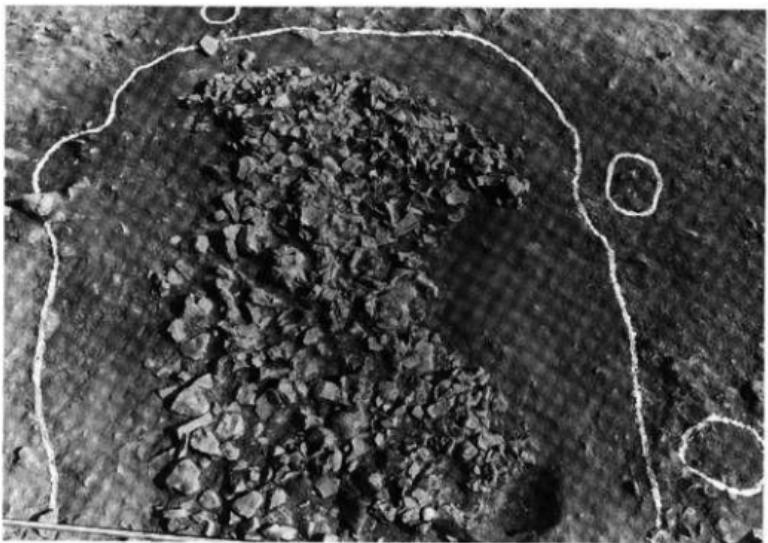


SK1014検出状況（西より）

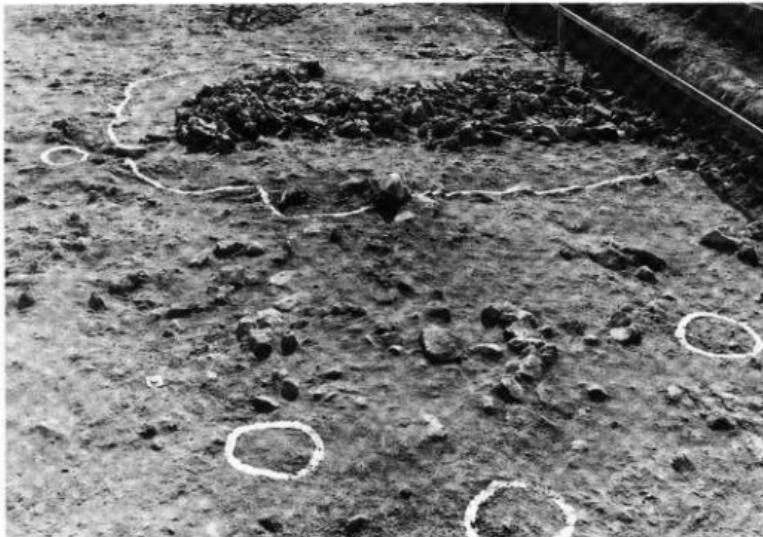
図版20



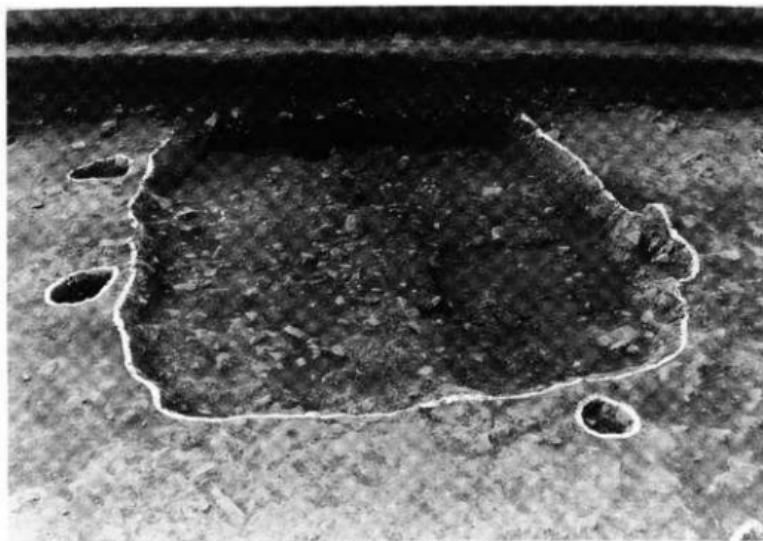
SK1014発掘状況（西より）



SK1016検出状況（西より）

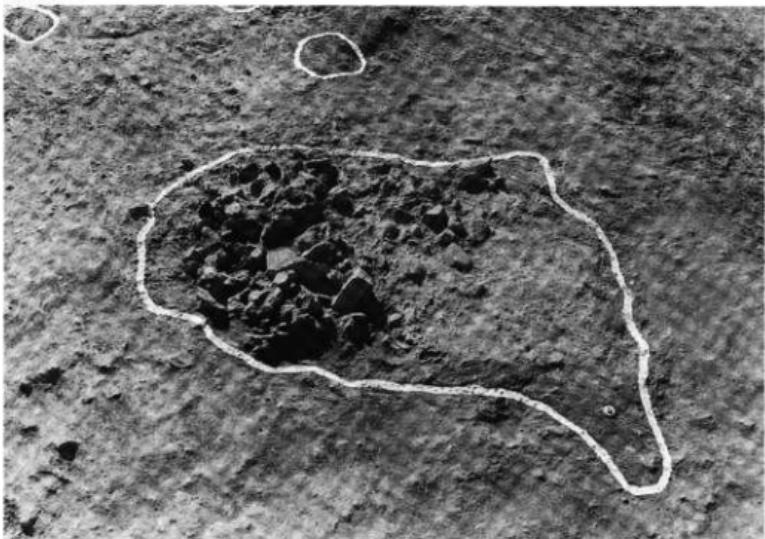


SK1016検出状況（北より）

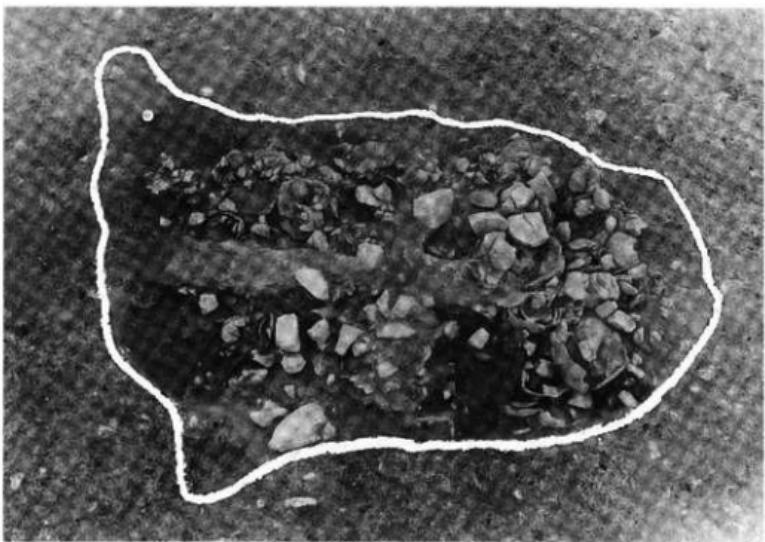


SK1016完掘状況（東より）

図版22



SK1039検出状況（東より）



SK1039掘り下げ状況（西より）

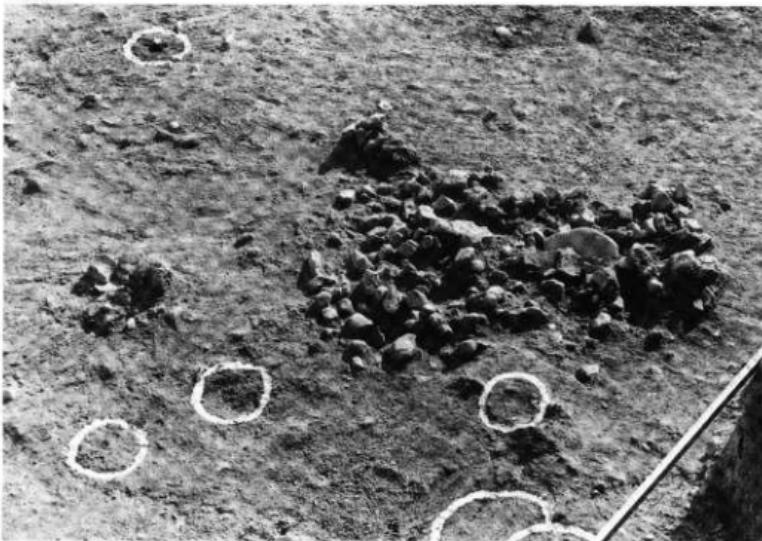


SK1039土器・石器出土状況（南より）

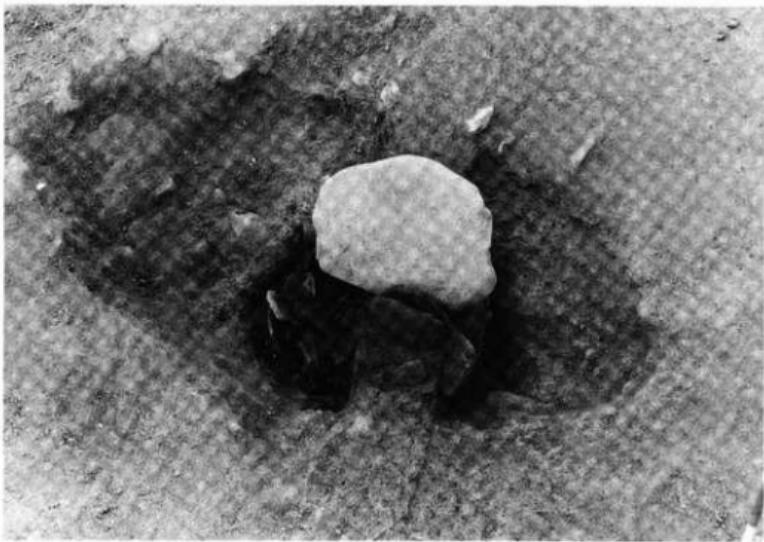


SK1039完掘状況（北より）

図版24



SK1049検出状況（北より）



SK1049A坑掘り下げ状況（北西より）